

不登校・いじめ対策等の効果的な活用の 推進に向けた調査研究

参考：学校新規アンケート調査結果に関する
単純集計
—小学校—

2025 年 3 月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

目 次

1	調査概要	1
2	調査結果	2
2-1	貴校の管理職(校長、副校長、教頭)のうち、令和4年度に在籍していた方はいらっしゃいますか。	2
2-2	令和4年度に配置されていたスクールカウンセラーの、貴校での勤務年数をお答えください(令和4年5月1日時点)。	3
2-3	貴校のスクールカウンセラーが、令和4年度中に相談等を行った人数(延べ人数)をお答えください。／人	4
2-4	貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。	5
2-5	貴校のスクールカウンセラーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。	7
2-6	令和4年度に配置されていたスクールソーシャルワーカーの、貴校での勤務年数をお答えください(令和4年5月1日時点)。	8
2-7	貴校のスクールソーシャルワーカーが、令和4年度中に支援を行った児童生徒数の人数(実人数)をお答えください。／人	9
2-8	貴校のスクールソーシャルワーカーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。	10
2-9	貴校では、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が配置されていましたが(令和4年5月1日時点)。	11
2-10	生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください(令和4年5月1日時点)。	12
2-11	貴校で、教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学習指導員・特別支援教育支援員・日本語支援員・母語支援員以外で、不登校やいじめの対応に当たる独自のスタッフやボランティアを配置していた場合、人数をお答えください(令和4年5月1日時点)。	13
2-12	貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の教育課程による指導を受けていた児童生徒数をお答えください(令和4年5月1日時点)。／人	14
2-13	貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の配慮に基づき、在籍学級や放課後等に何らかの日本語指導を受けていた児童生徒数をお答えください(令和4年5月1日時点)。／人	15
2-14	貴校に在籍していた、要保護児童対策地域協議会の支援対象となっている児童生徒数をお答えください(令和4年5月1日時点)。／人	16
2-15	令和4年度に貴校を所管する教育委員会が主催する生徒指導(不登校・いじめ等)の研修について、貴校の教員のうち何割が受講されましたか。	17
2-16	貴校では、令和4年度に学校における全教職員を対象とした生徒指導(不登校・いじめ等)の研修は、どの程度の頻度で実施していましたか。	18
2-17	貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題(不登校・いじめ等)について情報共有や対応の検討のために、定期的に生徒指導部会や教育相談部会等は開催されていましたか。	19
2-18	貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題(不登校・いじめ等)が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。	20

2-19	貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールの見直しの状況についておうかがいします。校則や児童生徒の学校生活上のルールを見直した実績はありましたか。.....	22
2-20	貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールに関する取組について、当てはまるものを全てお答えください。.....	23
2-21	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／人権教育の授業....	24
2-22	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／子どもの主体的な意見表明を主な目的とした授業.....	25
2-23	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／SEL教育に特化した授業.....	26
2-24	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／障害への理解に特化した授業.....	27
2-25	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／異文化等の国際理解に特化した授業.....	28
2-26	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／体験活動への組織的な取り組み.....	29
2-27	貴校が、令和4年度に同一学年内の全てのクラスにおいて、学級を超えて児童生徒が交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。.....	30
2-28	貴校が、令和4年度に異なる学年間の全てのクラスで交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。.....	31
2-29	貴校が、令和4年度に地域の方々と交流しながら行う学習活動を、組織的に取り組んでいた頻度をお答えください。.....	32
2-30	貴校では、令和4年度に一つの学級を複数の教員が担任として受け持つ仕組み(学年担任制・チーム担任制等)を導入していましたか。.....	33
2-31	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／ティーム・ティーチング.....	34
2-32	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／習熟度別指導....	35
2-33	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／少人数指導.....	36
2-34	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／自由進度学習....	37
2-35	貴校では、令和4年度に自由課題学習に取り組みましたか。.....	38
2-36	貴校では、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を実施していましたか。.....	39
2-37	貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。.....	40
2-38	貴校では、一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察によって、児童生徒に個別に生徒相談を実施していましたか。令和4年度に個別に生徒相談を実施した人数をお答えください。.....	42
2-39	令和4年度に、貴校には、学校運営協議会が設置されていましたか。学校運営協議会が設置されていた場合、その委員の属性について、当てはまるものを全てお答えください。.....	43
2-40	令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／A:学校全体の発生・対応状況等の報告.....	44
2-41	令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以	

	下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／B:個別の事案の報告	45
2-42	令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／C:課題解決に向けた協議	46
2-43	貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で幼保小連携・接続として取り組んでいたもの	47
2-44	貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の幼児教育施設と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの	49
2-45	貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの	51
2-46	貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの	53
2-47	貴校では、重大事態が発生した場合の対応フローは策定されていましたか(令和4年5月1日時点)。	55
2-48	令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、定期的に会議を行っていましたか。	56
2-49	令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。	57
2-50	令和4年度に、貴校で実施していたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。	58
2-51	貴校では、令和4年度に不登校や長期欠席の児童生徒の情報を関係者間で共有するための資料(児童生徒理解・支援シート等)を作成していましたか。	59
2-52	貴校では、令和4年度に校内教育支援センターを設置していましたか。	60
2-53	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの開室日時について、最も当てはまるものをお答えください。	61
2-54	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。	62
2-55	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの1日当たりの平均的な児童生徒利用数をお答えください。	63
2-56	貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。	64
2-57	貴校の、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外の学校内の居場所で日中過ごしていた1日当たりの平均的な児童生徒数をお答えください。	65
2-58	貴校では、令和4年度に不登校の児童生徒が、学校外(自宅や教育支援センター等)で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信を行っていましたか。	66
2-59	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。	67
2-60	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。	68

2-61	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等(オンライン含む)で学習した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。.....	69
2-62	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等(オンライン含む)で学習した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。.....	70
2-63	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。.....	71
2-64	上記の質問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／前問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携をお答えください。.....	72
2-65	貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-4 ⑪その他.....	73
2-66	生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください(令和4年5月1日時点)。／ 2-10 ⑥その他.....	74
2-67	前問の質問に関して、令和4年度の独自のスタッフやボランティアの業務内容についてお答えください。 2-11.....	75
2-68	貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題(不登校・いじめ等)が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-18 ⑧その他.....	79
2-69	貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-37 ⑥その他.....	80
2-70	貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の幼児教育施設と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で幼保小連携・接続として取り組んでいたもの／ 2-43 ⑧その他.....	81
2-71	貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの／ 2-45 ⑧その他.....	82
2-72	令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-49 ⑦その他.....	84
2-73	令和4年度に、貴校で実施していたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-50 ⑤その他.....	85
2-74	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。／ 2-54 ⑥その他.....	86
2-75	貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-56 ⑤その他の教室.....	87
2-76	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-63 ⑦その他.....	89
2-77	連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／ 2-64 連携の具体的内容.....	93

1 調査概要

(1) 調査対象

令和4年度の勤務実態調査における回答内容と本アンケートの回答内容を紐づけて分析するため、本アンケート調査は、令和4年度勤務実態調査の対象校（小学校1,191校）を調査対象とした。

(2) 調査方法

WEBアンケート調査を実施した。文部科学省より都道府県教育委員会を通じ（※政令指定都市は文部科学省より直接送付）、市区町村教育委員会にメールにてアンケート調査への協力依頼及び調査対象校への転送依頼を行った。依頼状に記載されたWEB回答フォームのURLより調査対象校から回答を得た。

(3) 調査期間

令和6（2024）年6月10日（月）～令和6（2024）年7月1日（月）
（※7月9日（火）まで回答延長）

(4) 回収状況

有効回答数は1,136件であり、回収率は95.4%であった。

(5) 分析対象

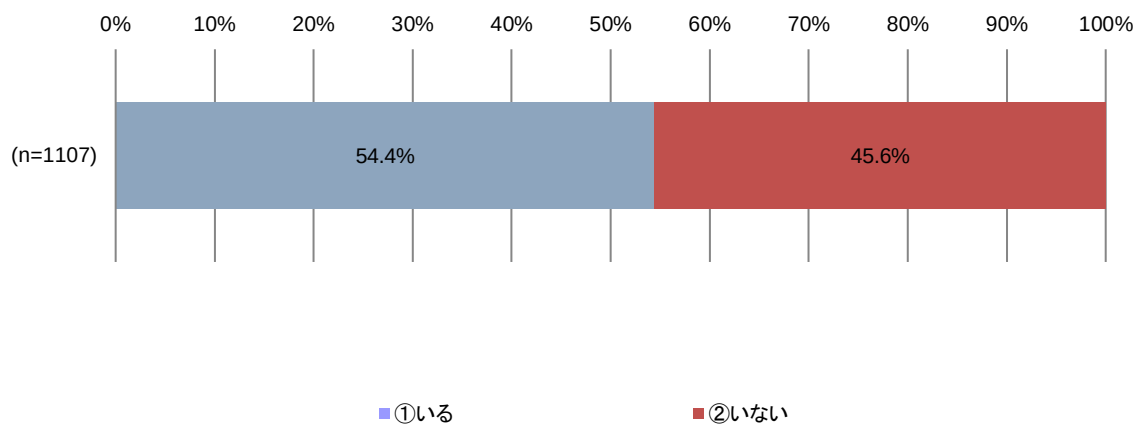
回答が得られた1,136校のうち、学校規模が下位2.5%に当てはまる学校を除いた1,107校を分析対象とした。

2 調査結果¹²³⁴

2-1 貴校の管理職（校長、副校長、教頭）のうち、令和４年度に在籍していた方はいらっしゃいますか。

「①いる」の割合が最も高く 54.4%である。次いで、「②いない(45.6%)」である。

図表 2-1 貴校の管理職（校長、副校長、教頭）のうち、令和４年度に在籍していた方はいらっしゃいますか。



	合計	①いる	②いない
合計	1107	602	505
	100.0%	54.4%	45.6%

¹ アンケートの設問文をそのまま記載している。

² 学校規模が下位 2.5%に当てはまる学校を除いた 1,107 校の回答結果。設問によって、一部の学校のみ回答している。

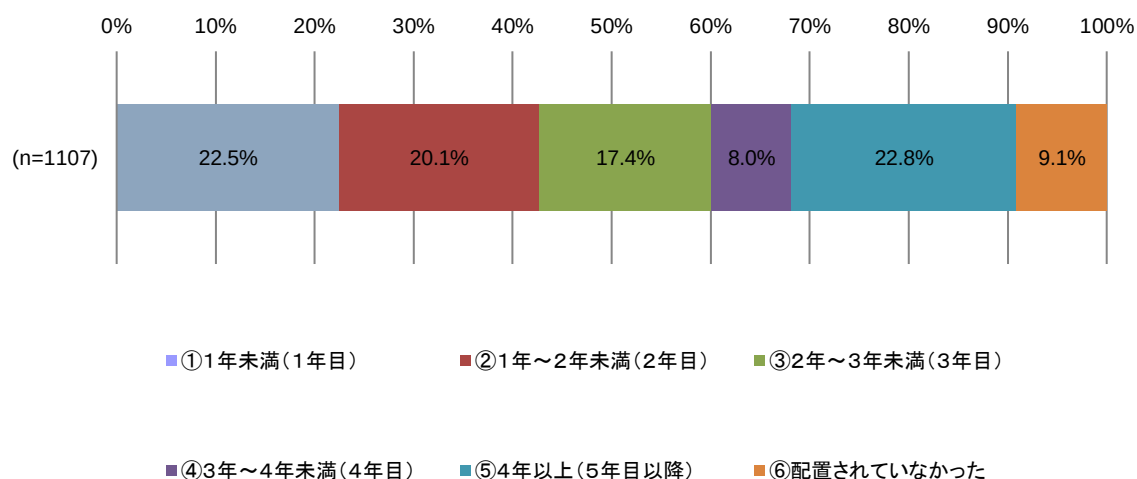
³ (n=)は回答数を表している。

⁴ 「その他」など、自由回答について、基本的に学校の回答をそのまま記載しているが、自治体名や自治体が特定されるような固有名詞や記述は削除、または、内容や意味を損なわない程度で一般化・抽象化した。明らかな誤字・脱字は修正した。

2-2 令和4年度に配置されていたスクールカウンセラーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

「⑤4年以上(5年目以降)」の割合が最も高く22.8%である。次いで、「①1年未満(1年目) (22.5%)」、「②1年～2年未満(2年目) (20.1%)」である。

図表 2-2 令和4年度に配置されていたスクールカウンセラーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

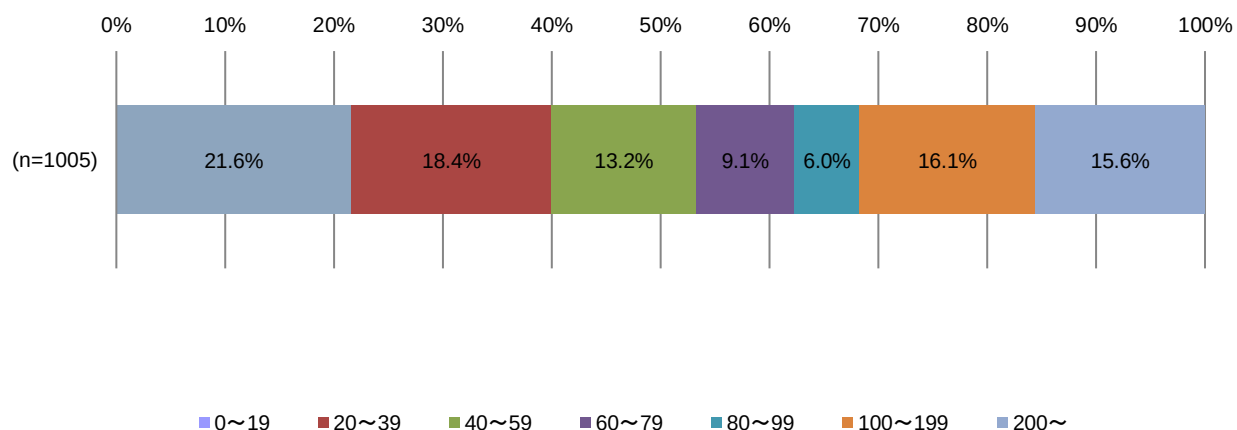


	合計	①1年未満(1年目)	②1年～2年未満(2年目)	③2年～3年未満(3年目)	④3年～4年未満(4年目)	⑤4年以上(5年目以降)	⑥配置されていなかった
合計	1107	249	223	193	89	252	101
	100.0%	22.5%	20.1%	17.4%	8.0%	22.8%	9.1%

2-3 貴校のスクールカウンセラーが、令和4年度中に相談等を行った人数（延べ人数）をお答えください。／人¹²

平均値 104.6、最小値 0.0、最大値 968.0、標準偏差 135.1 である。

図表 2-3 貴校のスクールカウンセラーが、令和4年度中に相談等を行った人数（延べ人数）をお答えください。／人



	合計	0～19	20～	40～	60～	80～	100～	200～
			39	59	79	99	199	
合計	1005	217	185	133	91	60	162	157
	100%	21.6%	18.4%	13.2%	9.1%	6.0%	16.1%	15.6%

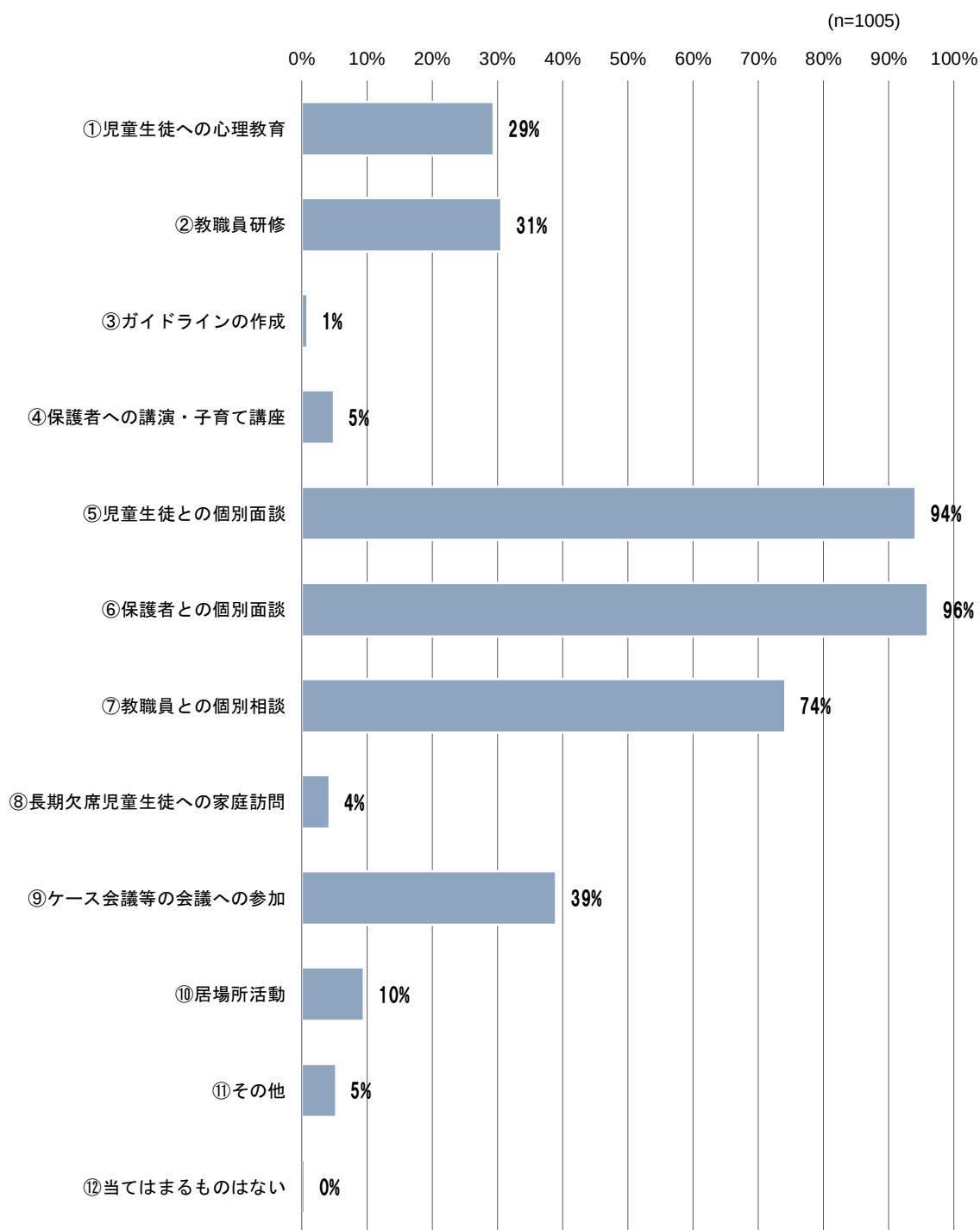
¹ スクールカウンセラーが「配置されていなかった」と回答した 101 校、無回答 1 校を除いた回答。

² 回答が「0 人」の学校は 13 校。

2-4 貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。¹

「⑥保護者との個別面談」の割合が最も高く96%である。次いで、「⑤児童生徒との個別面談(94%)」、「⑦教職員との個別相談(74%)」である。

図表 2-4 貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。



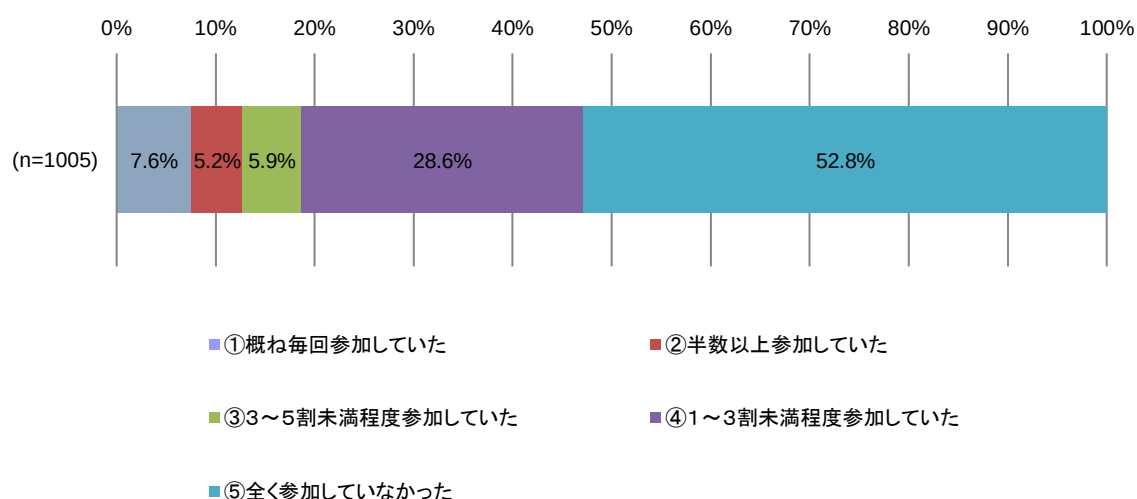
¹ スクールカウンセラーが「配置されていなかった」と回答した101校、無回答1校を除いた回答。

	合計	① 児童生徒への心理教育	② 教職員研修	③ ガイドラインの作成	④ 保護者への講演・子育て講座	⑤ 児童生徒との個別面談	⑥ 保護者との個別面談	⑦ 教職員との個別相談	⑧ 長期欠席児童生徒への家庭訪問	⑨ ケース会議等の会議への参加	⑩ 居場所活動	⑪ その他	⑫ 当てはまるものはない
合計	1005	296	308	9	50	946	965	745	43	392	96	53	5
	100%	29%	31%	1%	5%	94%	96%	74%	4%	39%	10%	5%	0%

2-5 貴校のスクールカウンセラーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「⑤全く参加していなかった」の割合が最も高く52.8%である。次いで、「④1～3割未満程度参加していた(28.6%)」、「①概ね毎回参加していた(7.6%)」である。

図表 2-5 貴校のスクールカウンセラーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。



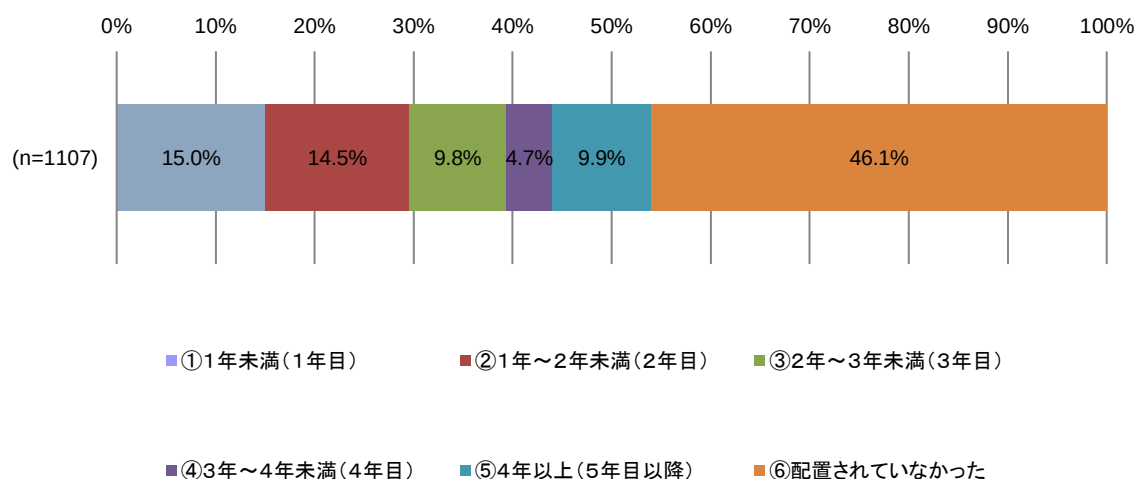
	合計	①概ね毎回参加していた	②半数以上参加していた	③3～5割未満程度参加していた	④1～3割未満程度参加していた	⑤全く参加していなかった
合計	1005	76	52	59	287	531
	100.0%	7.6%	5.2%	5.9%	28.6%	52.8%

¹ スクールカウンセラーが「配置されていなかった」と回答した101校、無回答1校を除いた回答。

2-6 令和4年度に配置されていたスクールソーシャルワーカーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

「⑥配置されていなかった」の割合が最も高く46.1%である。次いで、「①1年未満(1年目) (15.0%)」、「②1年～2年未満(2年目) (14.5%)」である。

図表 2-6 令和4年度に配置されていたスクールソーシャルワーカーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

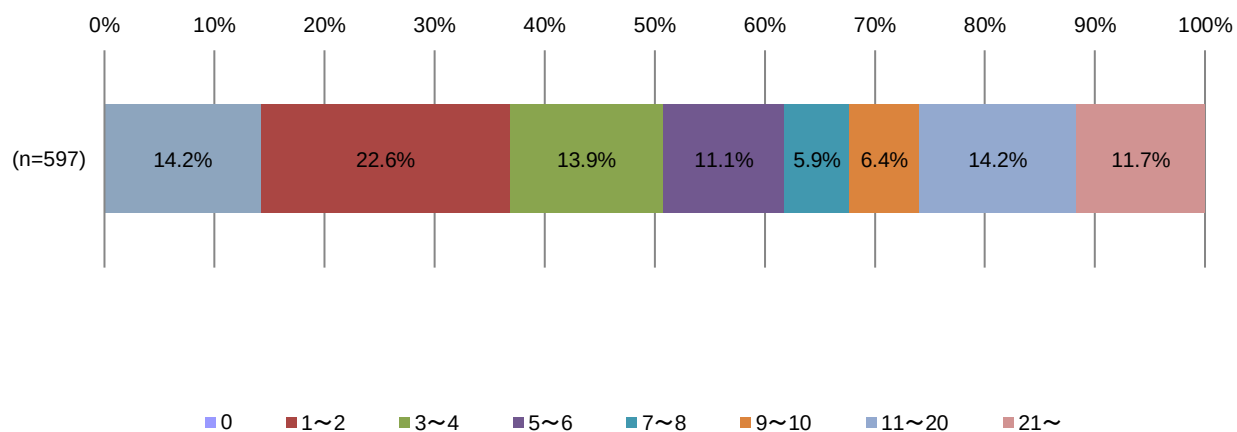


	合計	①1年未満(1年目)	②1年～2年未満(2年目)	③2年～3年未満(3年目)	④3年～4年未満(4年目)	⑤4年以上(5年目以降)	⑥配置されていなかった
合計	1107	166	161	108	52	110	510
	100.0%	15.0%	14.5%	9.8%	4.7%	9.9%	46.1%

2-7 貴校のスクールソーシャルワーカーが、令和4年度中に支援を行った児童生徒数の人数（実人数）をお答えください。／人¹

平均値 12.4、最小値 0.0、最大値 400.0、標準偏差 33.2 である。

図表 2-7 貴校のスクールソーシャルワーカーが、令和4年度中に支援を行った児童生徒数の人数（実人数）をお答えください。／人



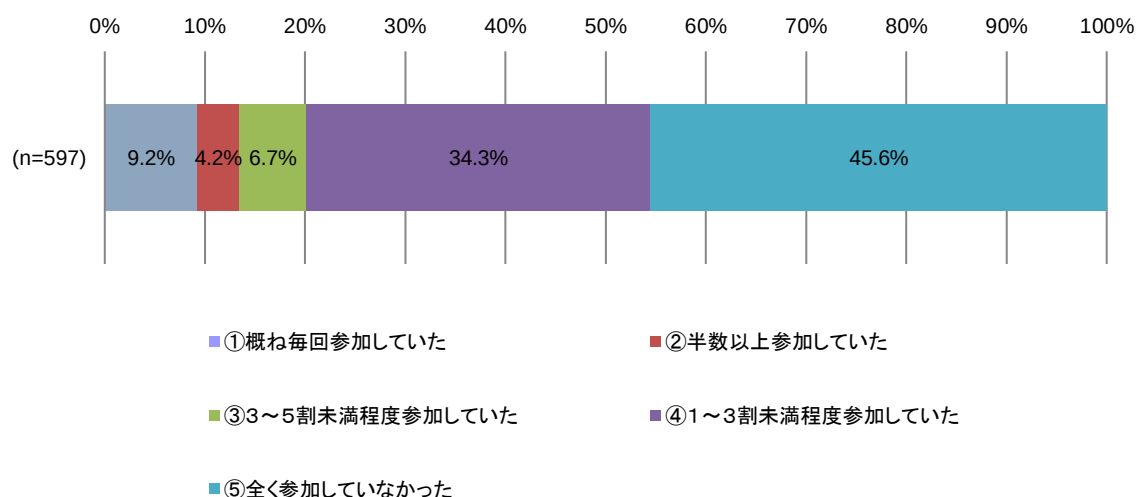
	合計	0	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10	11～20	21～
合計	597	85	135	83	66	35	38	85	70
	100%	14.2%	22.6%	13.9%	11.1%	5.9%	6.4%	14.2%	11.7%

¹ スクールソーシャルワーカーが「配置されていなかった」と回答した 510 校を除いた回答。

2-8 貴校のスクールソーシャルワーカーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「⑤全く参加していなかった」の割合が最も高く45.6%である。次いで、「④1～3割未満程度参加していた(34.3%)」、「①概ね毎回参加していた(9.2%)」である。

図表 2-8 貴校のスクールソーシャルワーカーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。



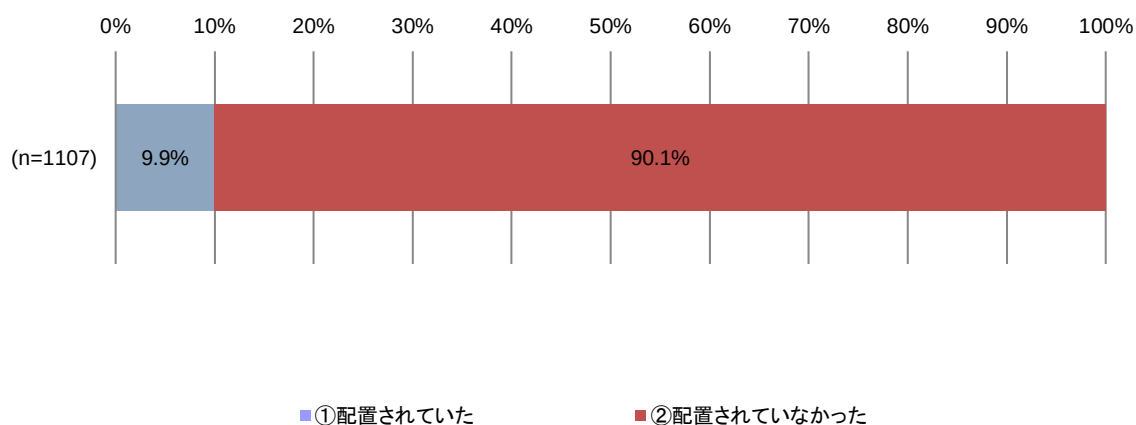
	合計	①概ね毎回参加していた	②半数以上参加していた	③3～5割未満程度参加していた	④1～3割未満程度参加していた	⑤全く参加していなかった
合計	597	55	25	40	205	272
	100.0%	9.2%	4.2%	6.7%	34.3%	45.6%

¹ スクールソーシャルワーカーが「配置されていなかった」と回答した510校を除いた回答。

2-9 貴校では、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が配置されていたか（令和4年5月1日時点）。

「②配置されていなかった」の割合が最も高く90.1%である。次いで、「①配置されていた(9.9%)」である。

図表 2-9 貴校では、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が配置されていたか（令和4年5月1日時点）。

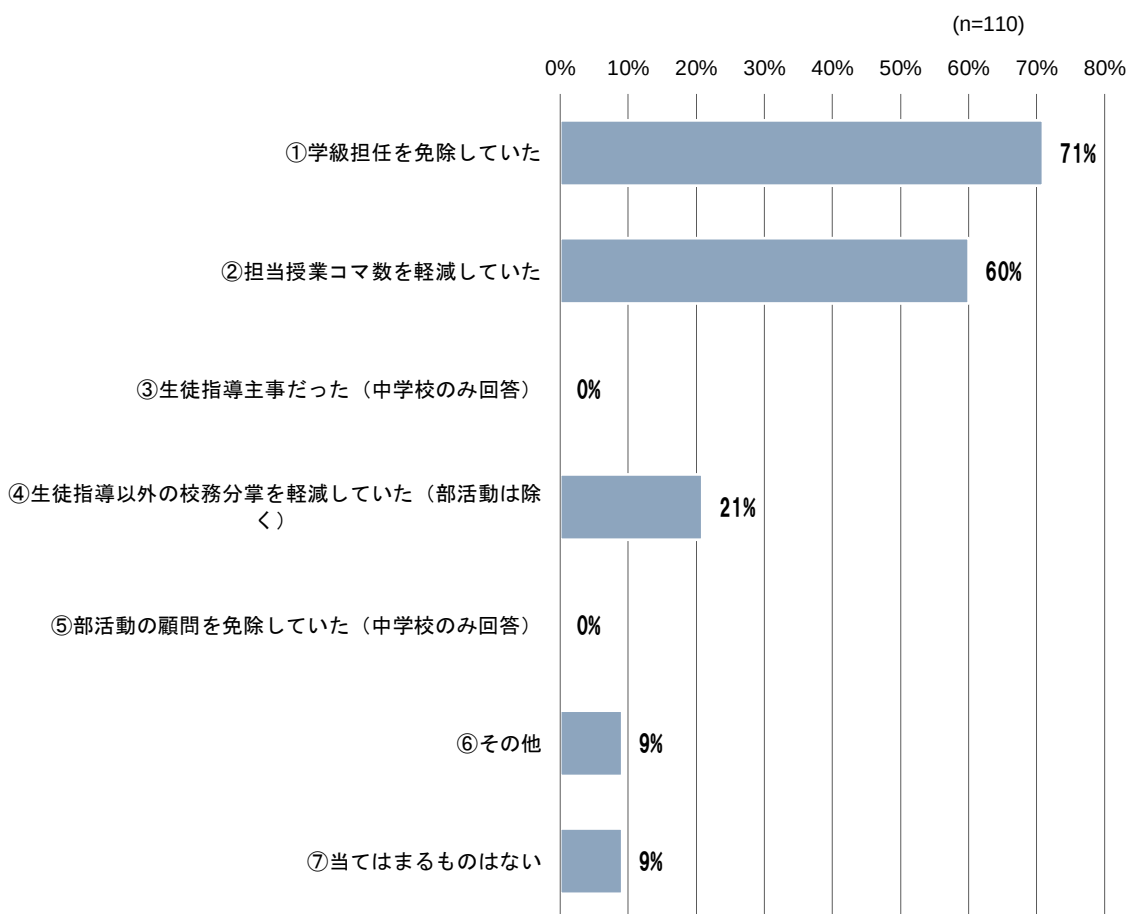


	合計	①配置されていた	②配置されていなかった
合計	1107	110	997
	100.0%	9.9%	90.1%

2-10 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください（令和4年5月1日時点）。¹

「①学級担任を免除していた」の割合が最も高く71%である。次いで、「②担当授業コマ数を軽減していた(60%)」、「④生徒指導以外の校務分掌を軽減していた(部活動は除く)(21%)」である。

図表 2-10 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください（令和4年5月1日時点）。



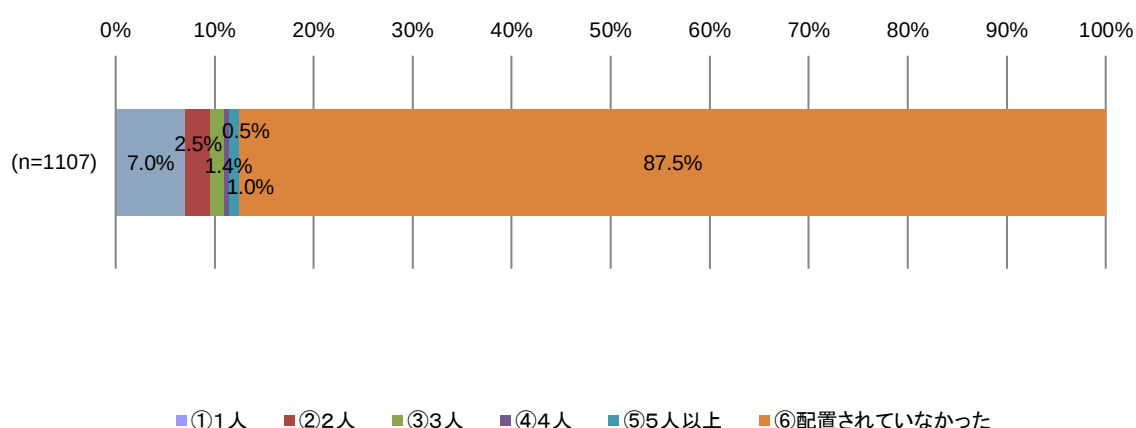
	合計	①学級担任を免除していた	②担当授業コマ数を軽減していた	③生徒指導主事だった(中学校のみ回答)	④生徒指導以外の校務分掌を軽減していた(部活動は除く)	⑤部活動の顧問を免除していた(中学校のみ回答)	⑥その他	⑦当てはまるものはない
合計	110	78	66	0	23	0	10	10
	100%	71%	60%	0%	21%	0%	9%	9%

¹ 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が「配置されていた」と回答した110校のみの回答。

2-11 貴校で、教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学習指導員・特別支援教育支援員・日本語支援員・母語支援員以外で、不登校やいじめの対応に当たる独自のスタッフやボランティアを配置していた場合、人数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

「⑥配置されていなかった」の割合が最も高く87.5%である。次いで、「①1人(7.0%)」、「②2人(2.5%)」である。

図表 2-11 貴校で、教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学習指導員・特別支援教育支援員・日本語支援員・母語支援員以外で、不登校やいじめの対応に当たる独自のスタッフやボランティアを配置していた場合、人数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

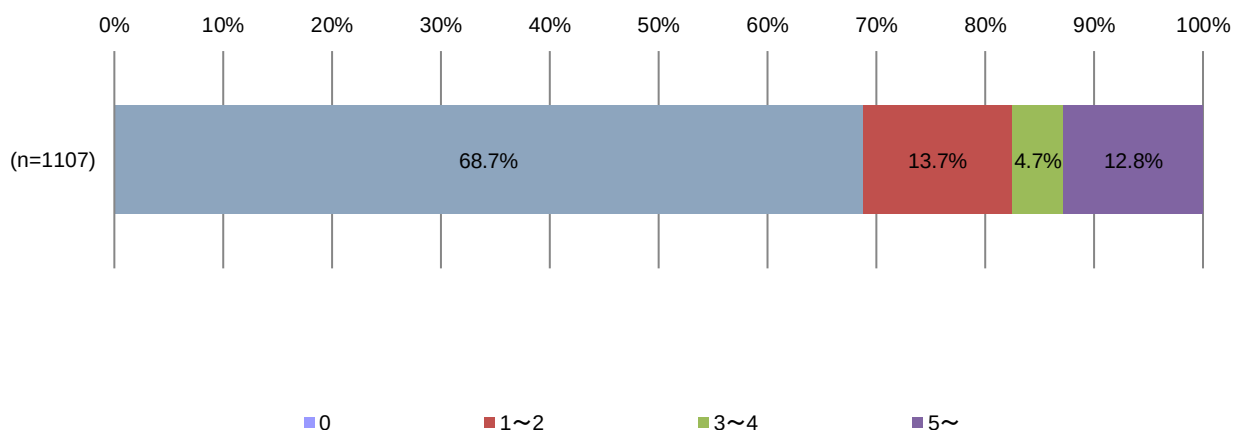


	合計	①1人	②2人	③3人	④4人	⑤5人以上	⑥配置されていなかった
合計	1107	78	28	16	5	11	969
	100.0%	7.0%	2.5%	1.4%	0.5%	1.0%	87.5%

2-12 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の教育課程による指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

平均値 2.6、最小値 0.0、最大値 93.0、標準偏差 8.2 である。

図表 2-12 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の教育課程による指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

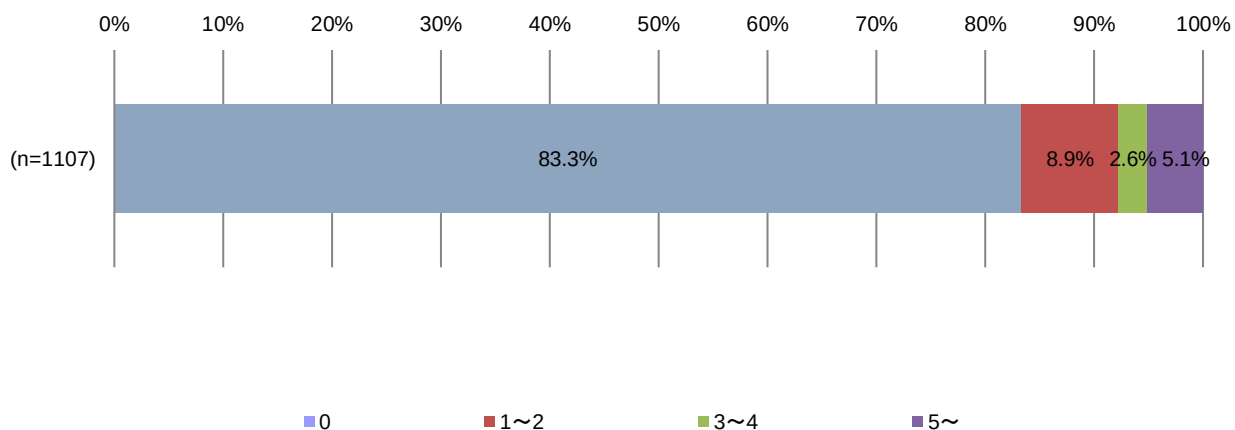


	合計	0	1～2	3～4	5～	0
合計	1107	761	152	52	142	761
	100%	68.7%	13.7%	4.7%	12.8%	68.7%

2-13 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の配慮に基づき、在籍学級や放課後等に何らかの日本語指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

平均値 1.1、最小値 0.0、最大値 81.0、標準偏差 6.1 である。

図表 2-13 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の配慮に基づき、在籍学級や放課後等に何らかの日本語指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

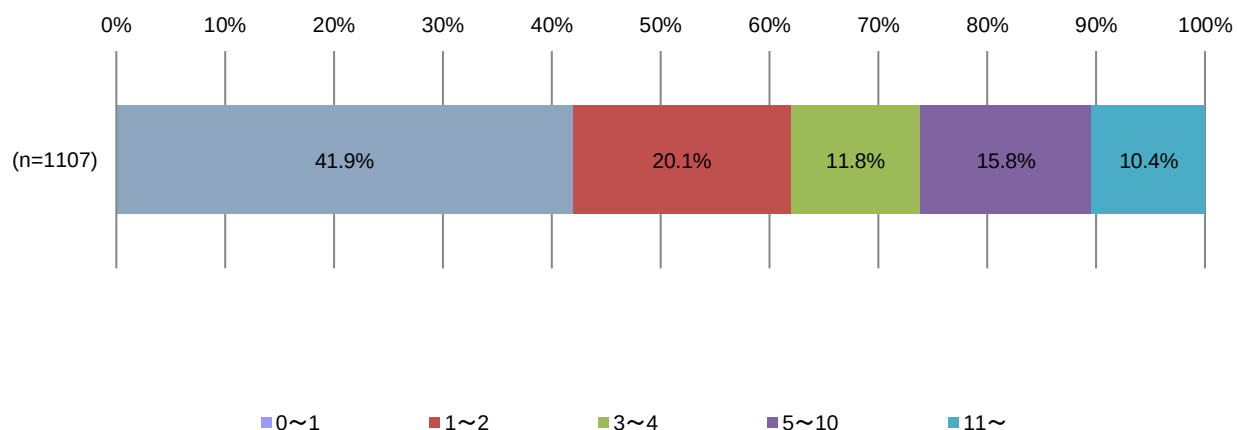


	合計	0	1~2	3~4	5~
合計	1107	922	99	29	57
	100%	83.3%	8.9%	2.6%	5.1%

2-14 貴校に在籍していた、要保護児童対策地域協議会の支援対象となっている児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

平均値 4.6、最小値 0.0、最大値 410.0、標準偏差 15.5 である。

図表 2-14 貴校に在籍していた、要保護児童対策地域協議会の支援対象となっている児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

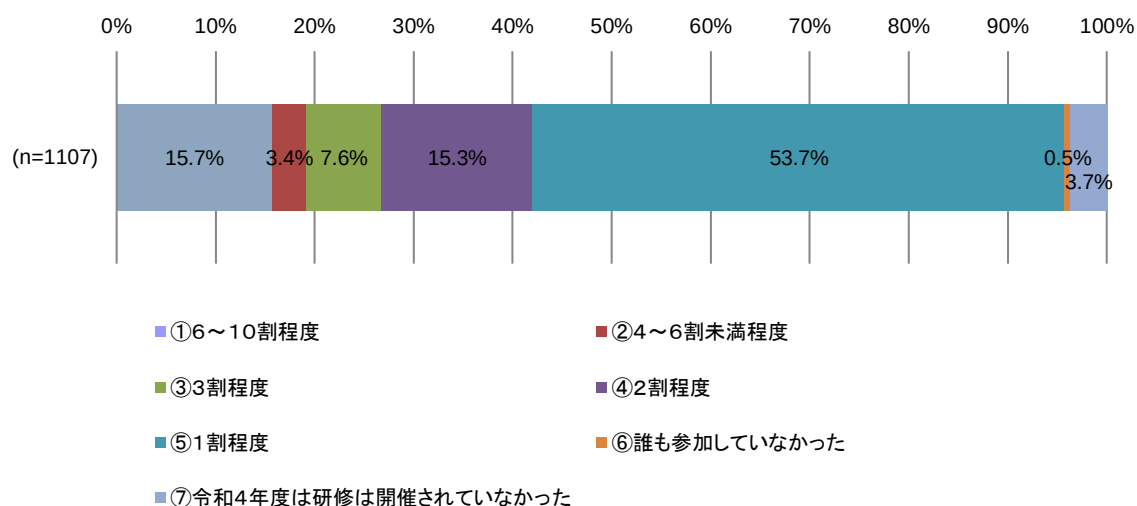


	合計	0～1	1～2	3～4	5～10	11～
合計	1107	464	222	131	175	115
	100%	41.9%	20.1%	11.8%	15.8%	10.4%

2-15 令和4年度に貴校を所管する教育委員会が主催する生徒指導（不登校・いじめ等）の研修について、貴校の教員のうち何割が受講されましたか。

「⑤1割程度」の割合が最も高く53.7%である。次いで、「①6～10割程度(15.7%)」、「④2割程度(15.3%)」である。

図表 2-15 令和4年度に貴校を所管する教育委員会が主催する生徒指導（不登校・いじめ等）の研修について、貴校の教員のうち何割が受講されましたか。

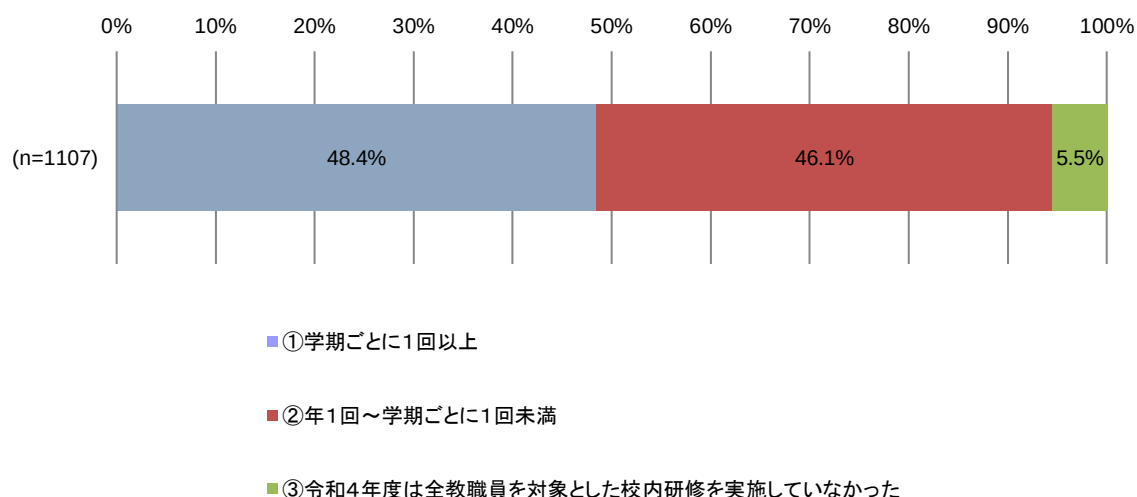


	合計	①6～10割程度	②4～6割未満程度	③3割程度	④2割程度	⑤1割程度	⑥誰も参加していなかった	⑦令和4年度は研修は開催されていなかった
合計	1107	174	38	84	169	595	6	41
	100.0%	15.7%	3.4%	7.6%	15.3%	53.7%	0.5%	3.7%

2-16 貴校では、令和4年度に学校における全教職員を対象とした生徒指導（不登校・いじめ等）の研修は、どの程度の頻度で実施していましたか。

「①学期ごとに1回以上」の割合が最も高く48.4%である。次いで、「②年1回～学期ごとに1回未満（46.1%）」、「③令和4年度は全教職員を対象とした校内研修を実施していなかった（5.5%）」である。

図表 2-16 貴校では、令和4年度に学校における全教職員を対象とした生徒指導（不登校・いじめ等）の研修は、どの程度の頻度で実施していましたか。

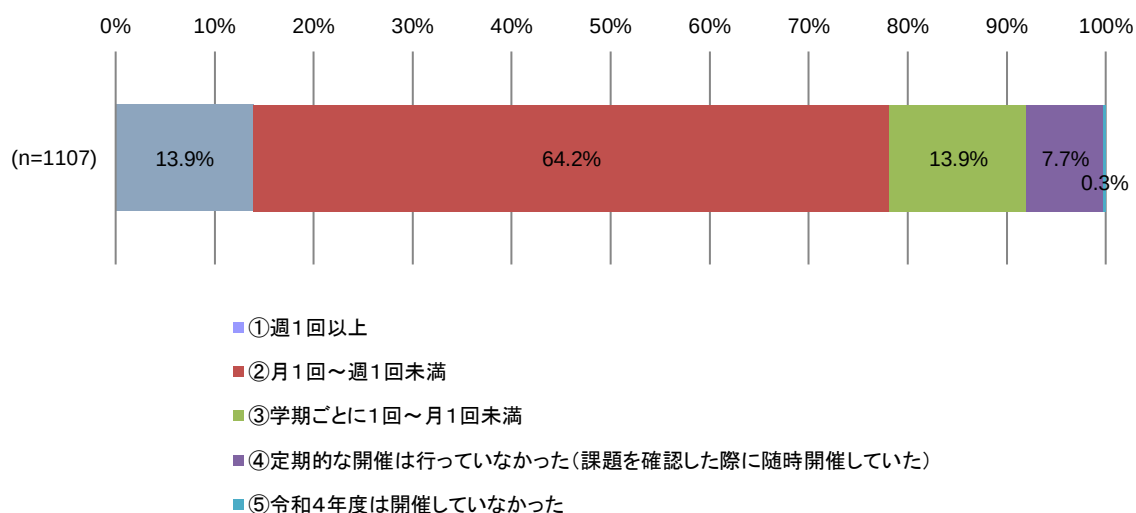


	合計	①学期ごとに1回以上	②年1回～学期ごとに1回未満	③令和4年度は全教職員を対象とした校内研修を実施していなかった
合計	1107	536	510	61
	100.0%	48.4%	46.1%	5.5%

2-17 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）について情報共有や対応の検討のために、定期的に生徒指導部会や教育相談部会等は開催されていましたか。

「②月1回～週1回未満」の割合が最も高く64.2%である。次いで、「①週1回以上(13.9%)」、「③学期ごとに1回～月1回未満(13.9%)」、「④定期的な開催は行っていなかった(課題を確認した際に随時開催していた)(7.7%)」である。

図表 2-17 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）について情報共有や対応の検討のために、定期的に生徒指導部会や教育相談部会等は開催されていましたか。

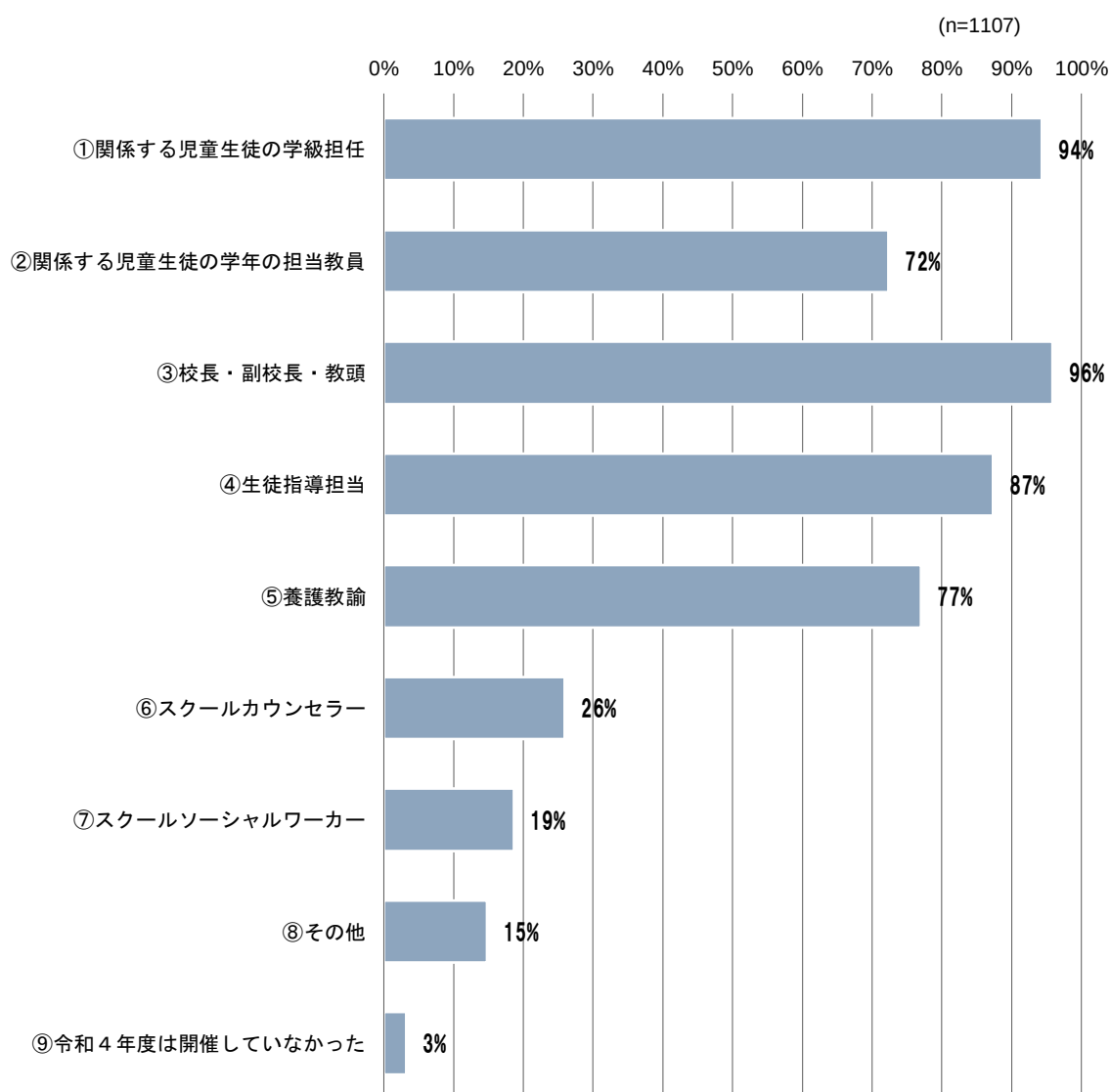


	合計	①週1回以上	②月1回～週1回未満	③学期ごとに1回～月1回未満	④定期的な開催は行っていなかった(課題を確認した際に随時開催していた)	⑤令和4年度は開催していなかった
合計	1107	154	711	154	85	3
	100.0%	13.9%	64.2%	13.9%	7.7%	0.3%

2-18 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

「③校長・副校長・教頭」の割合が最も高く96%である。次いで、「①関係する児童生徒の学級担任（94%）」、「④生徒指導担当（87%）」である。

図表 2-18 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

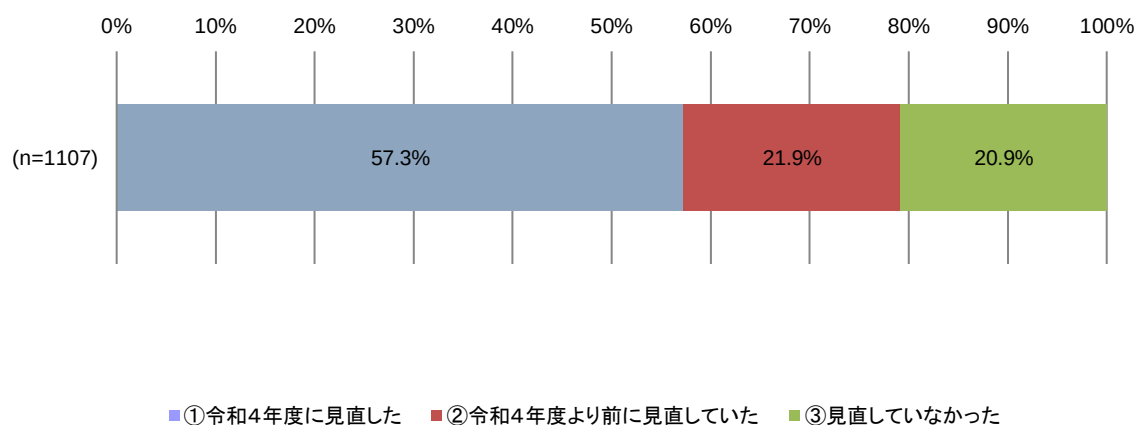


	合計	①関係する児童生徒の学級担任	②関係する児童生徒の学年の担当教員	③校長・副校長・教頭	④生徒指導担当	⑤養護教諭	⑥スクールカウンセラー	⑦スクールソーシャルワーカー	⑧その他	⑨令和4年度は開催しなかった
合計	1107	1044	801	1061	967	852	287	206	164	36
	100%	94%	72%	96%	87%	77%	26%	19%	15%	3%

2-19 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールの見直しの状況についておうかがいします。校則や児童生徒の学校生活上のルールを見直した実績はありましたか。

「①令和4年度に見直した」の割合が最も高く57.3%である。次いで、「②令和4年度より前に見直していた(21.9%)」、「③見直していなかった(20.9%)」である。

図表 2-19 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールの見直しの状況についておうかがいします。校則や児童生徒の学校生活上のルールを見直した実績はありましたか。

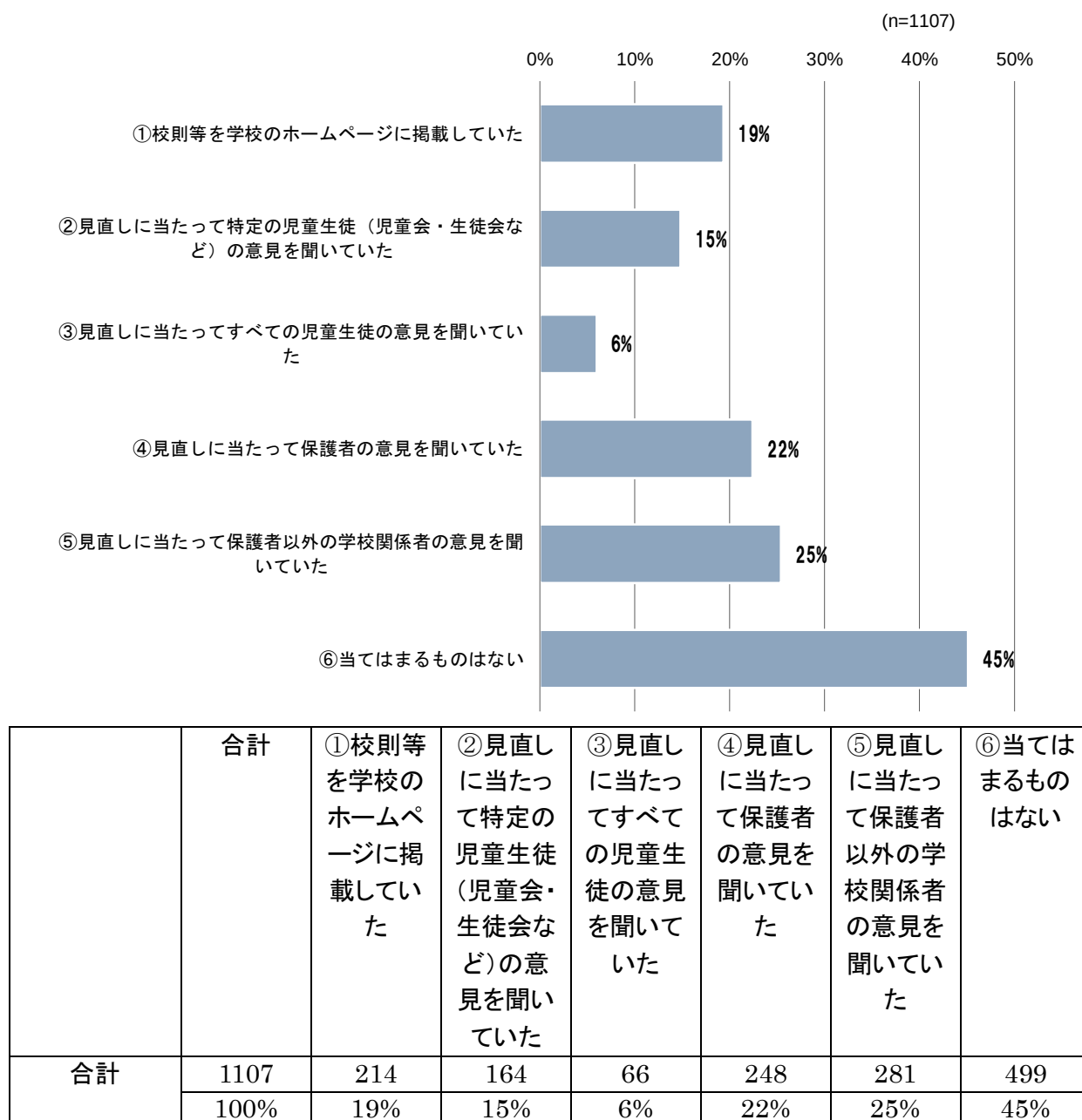


	合計	①令和4年度に見直した	②令和4年度より前に見直していた	③見直していなかった
合計	1107	634	242	231
	100.0%	57.3%	21.9%	20.9%

2-20 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールに関する取組について、当てはまるものを全てお答えください。

「⑥当てはまるものはない」の割合が最も高く45%である。次いで、「⑤見直しに当たって保護者以外の学校関係者の意見を聞いていた(25%)」、「④見直しに当たって保護者の意見を聞いていた(22%)」である。

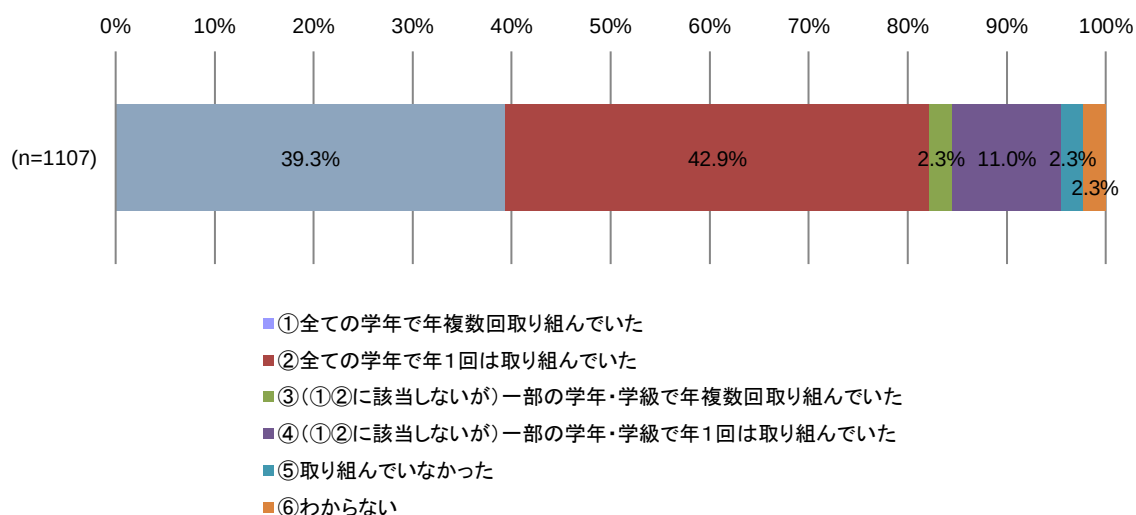
図表 2-20 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールに関する取組について、当てはまるものを全てお答えください。



2-21 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／人権教育の授業

「②全ての学年で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く 42.9%である。次いで、「①全ての学年で年複数回取り組んでいた(39.3%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(11.0%)」である。

図表 2-21 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／人権教育の授業

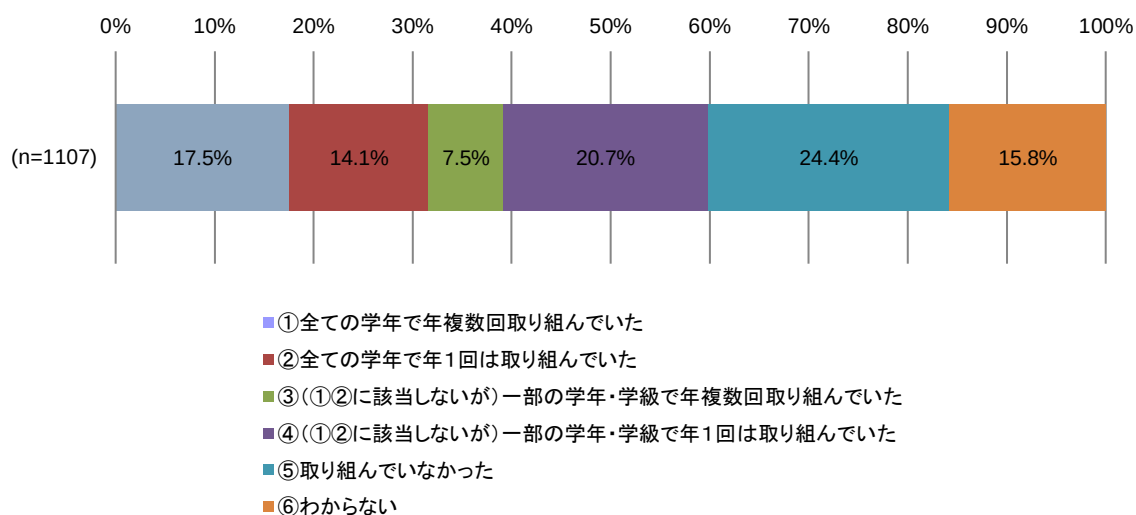


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1107	435	475	25	122	25	25
	100.0%	39.3%	42.9%	2.3%	11.0%	2.3%	2.3%

2-22 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／子どもの主体的な意見表明を主な目的とした授業

「⑤取り組んでいなかった」の割合が最も高く24.4%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(20.7%)」、「①全ての学年で年複数回取り組んでいた(17.5%)」である。

図表 2-22 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／子どもの主体的な意見表明を主な目的とした授業

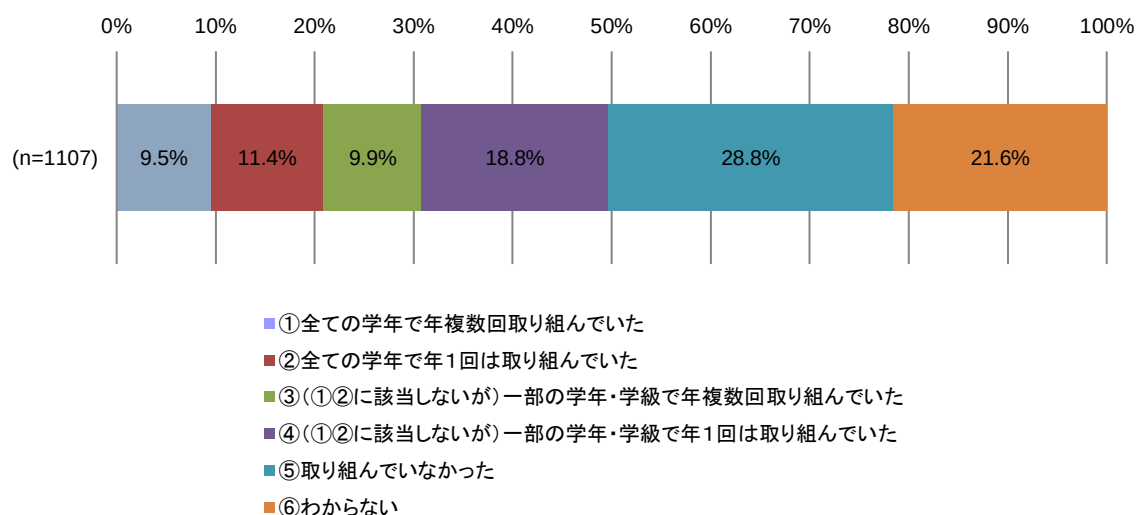


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1107	194	156	83	229	270	175
	100.0%	17.5%	14.1%	7.5%	20.7%	24.4%	15.8%

2-23 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／SEL教育に特化した授業

「⑤取り組んでいなかった」の割合が最も高く28.8%である。次いで、「⑥わからない(21.6%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(18.8%)」である。

図表 2-23 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／SEL教育に特化した授業

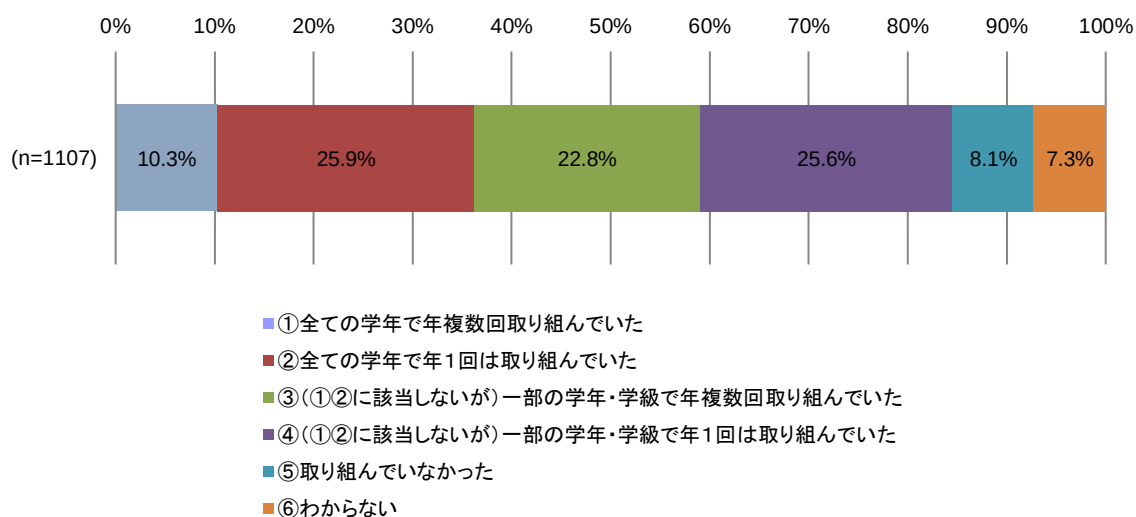


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1107	105	126	110	208	319	239
	100.0%	9.5%	11.4%	9.9%	18.8%	28.8%	21.6%

2-24 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／障害への理解に特化した授業

「②全ての学年で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く25.9%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(25.6%)」、「③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた(22.8%)」である。

図表 2-24 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／障害への理解に特化した授業

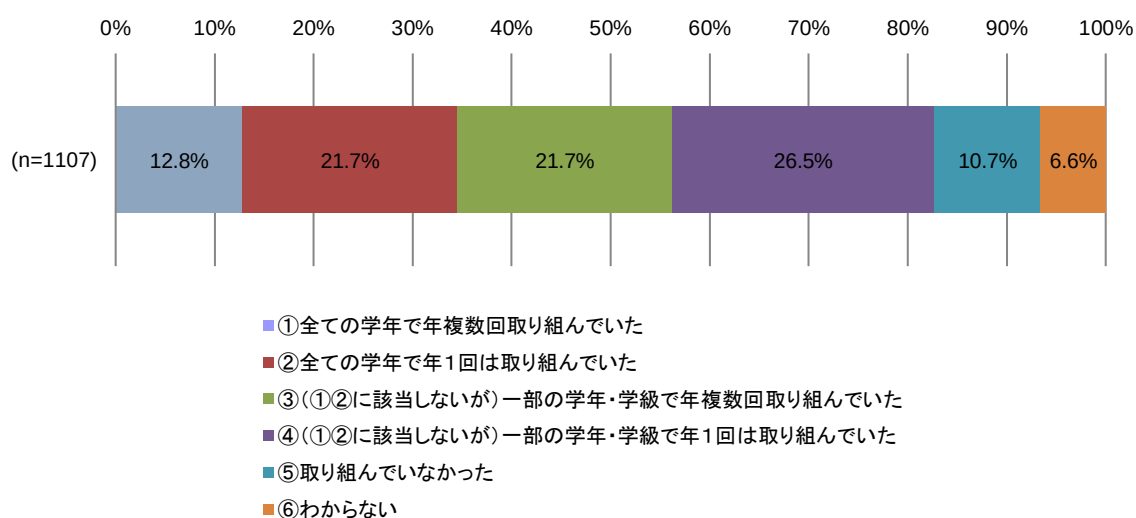


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1107	114	287	252	283	90	81
	100.0%	10.3%	25.9%	22.8%	25.6%	8.1%	7.3%

2-25 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／異文化等の国際理解に特化した授業

「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く26.5%である。次いで、「②全ての学年で年1回は取り組んでいた(21.7%)」、「③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた(21.7%)」、「①全ての学年で年複数回取り組んでいた(12.8%)」である。

図表 2-25 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／異文化等の国際理解に特化した授業

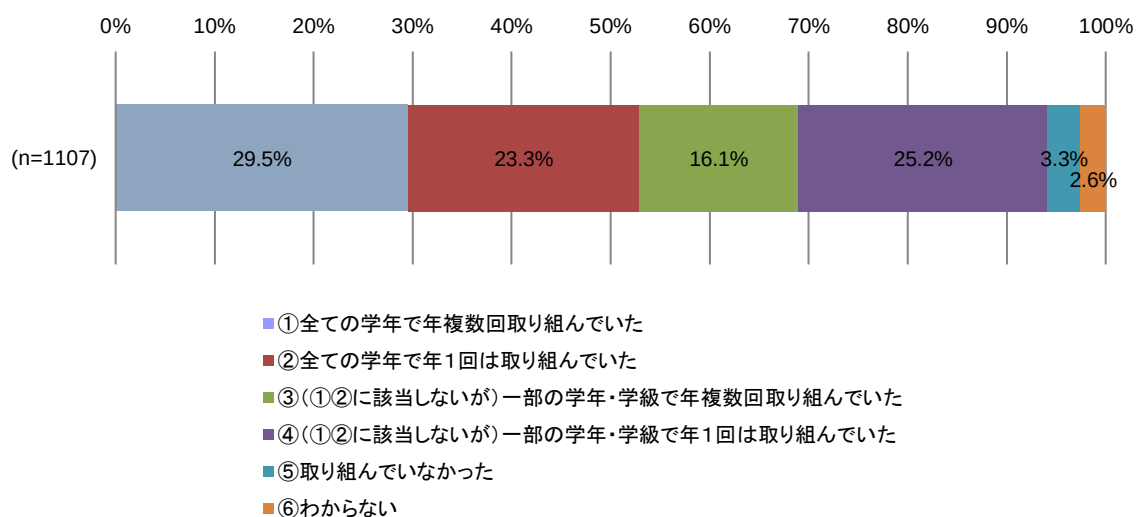


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1107	142	240	240	293	119	73
	100.0%	12.8%	21.7%	21.7%	26.5%	10.7%	6.6%

2-26 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／体験活動への組織的な取り組み

「①全ての学年で年複数回取り組んでいた」の割合が最も高く29.5%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回に取り組んでいた(25.2%)」、「②全ての学年で年1回に取り組んでいた(23.3%)」である。

図表 2-26 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／体験活動への組織的な取り組み

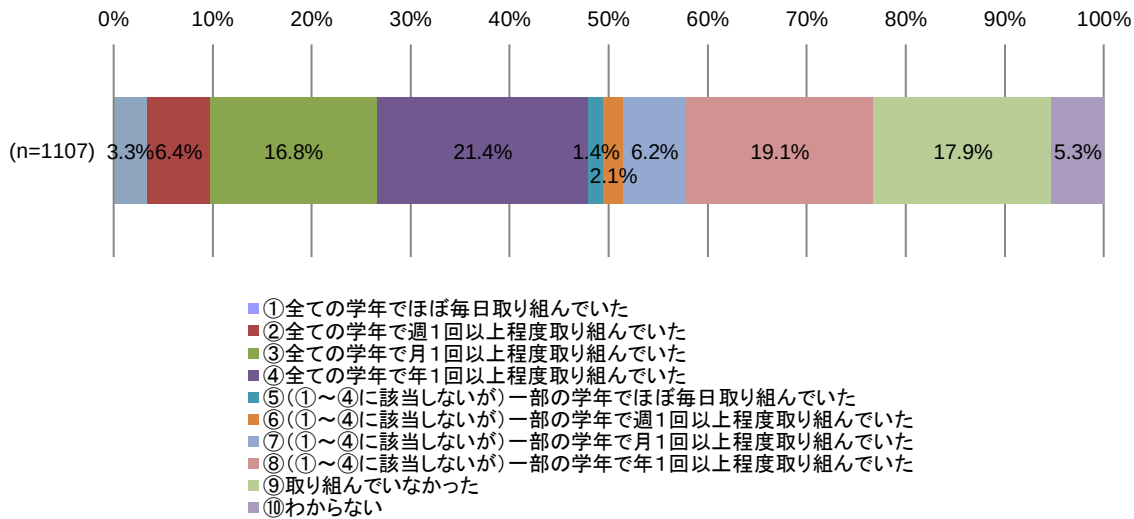


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回に取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回に取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1107	327	258	178	279	36	29
	100.0%	29.5%	23.3%	16.1%	25.2%	3.3%	2.6%

2-27 貴校が、令和4年度に同一学年内の全てのクラスにおいて、学級を超えて児童生徒が交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

「④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた」の割合が最も高く21.4%である。次いで、「⑧(①～④に該当しないが)一部の学年で年1回以上程度取り組んでいた(19.1%)」、「⑨取り組んでいなかった(17.9%)」である。

図表 2-27 貴校が、令和4年度に同一学年内の全てのクラスにおいて、学級を超えて児童生徒が交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

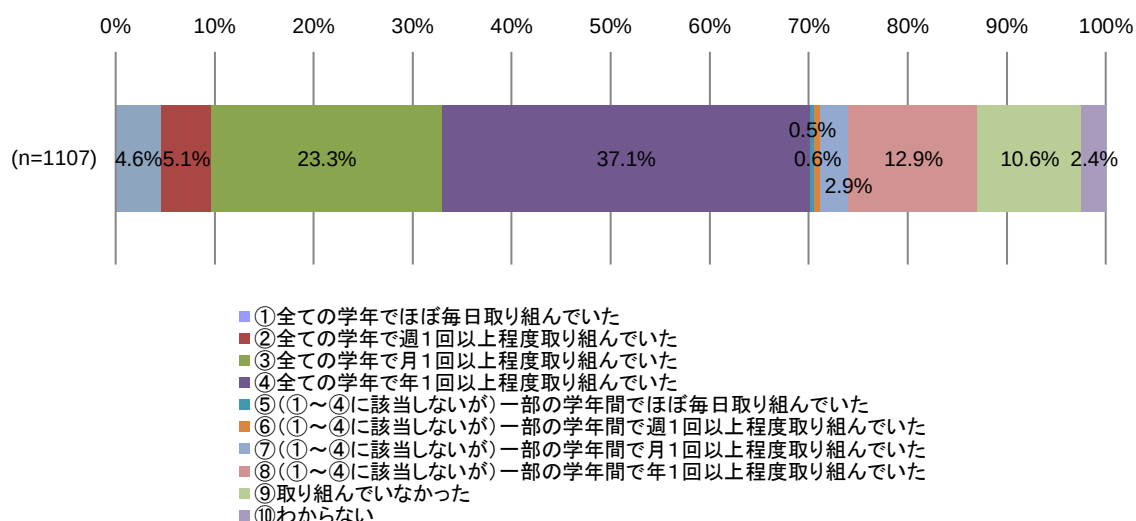


	合計	①全 ての 学年 でほ ぼ毎 日取 組ん でい た	②全 ての 学年 で週 1回 以上 程度 取組 んで いた	③全 ての 学年 で月 1回 以上 程度 取組 んで いた	④全 ての 学年 で年 1回 以上 程度 取組 んで いた	⑤ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学年 でほ ぼ毎 日取 組ん でい た	⑥ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学年 で週 1回 以上 程度 取組 んで いた	⑦ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学年 で月 1回 以上 程度 取組 んで いた	⑧ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学年 で年 1回 以上 程度 取組 んで いた	⑨取 組ん でい な かつ た	⑩わ から ない
合計	1107	37	71	186	237	16	23	69	211	198	59
	100.0%	3.3%	6.4%	16.8%	21.4%	1.4%	2.1%	6.2%	19.1%	17.9%	5.3%

2-28 貴校が、令和4年度に異なる学年間の全てのクラスで交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

「④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた」の割合が最も高く37.1%である。次いで、「③全ての学年で月1回以上程度取り組んでいた(23.3%)」、「⑧(①～④に該当しないが)一部の学年間で年1回以上程度取り組んでいた(12.9%)」である。

図表 2-28 貴校が、令和4年度に異なる学年間の全てのクラスで交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

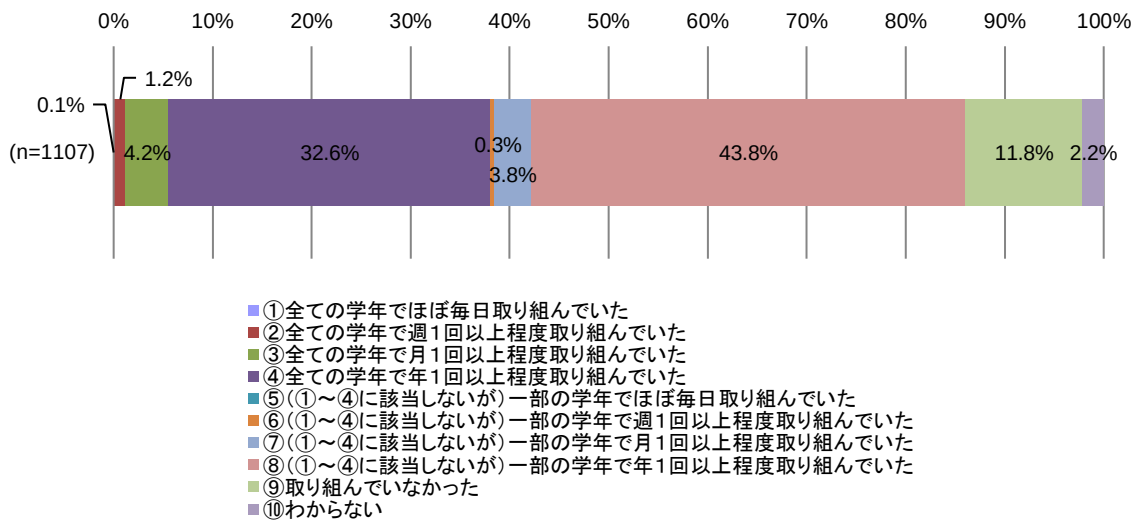


	合計	①全ての学年でほぼ毎日取り組んでいた	②全ての学年で週1回以上程度取り組んでいた	③全ての学年で月1回以上程度取り組んでいた	④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学年間でほぼ毎日取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学年間で週1回以上程度取り組んでいた	⑦(①～④に該当しないが)一部の学年間で月1回以上程度取り組んでいた	⑧(①～④に該当しないが)一部の学年間で年1回以上程度取り組んでいた	⑨取り組んでいなかった	⑩わからない
合計	1107	51	56	258	411	5	7	32	143	117	27
	100.0%	4.6%	5.1%	23.3%	37.1%	0.5%	0.6%	2.9%	12.9%	10.6%	2.4%

2-29 貴校が、令和4年度に地域の方々と交流しながら行う学習活動を、組織的に取り組んでいた頻度をお答えください。

「⑧(①～④に該当しないが)一部の学年で年1回以上程度取り組んでいた」の割合が最も高く43.8%である。次いで、「④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた(32.6%)」、「⑨取り組んでいなかった(11.8%)」である。

図表 2-29 貴校が、令和4年度に地域の方々と交流しながら行う学習活動を、組織的に取り組んでいた頻度をお答えください。

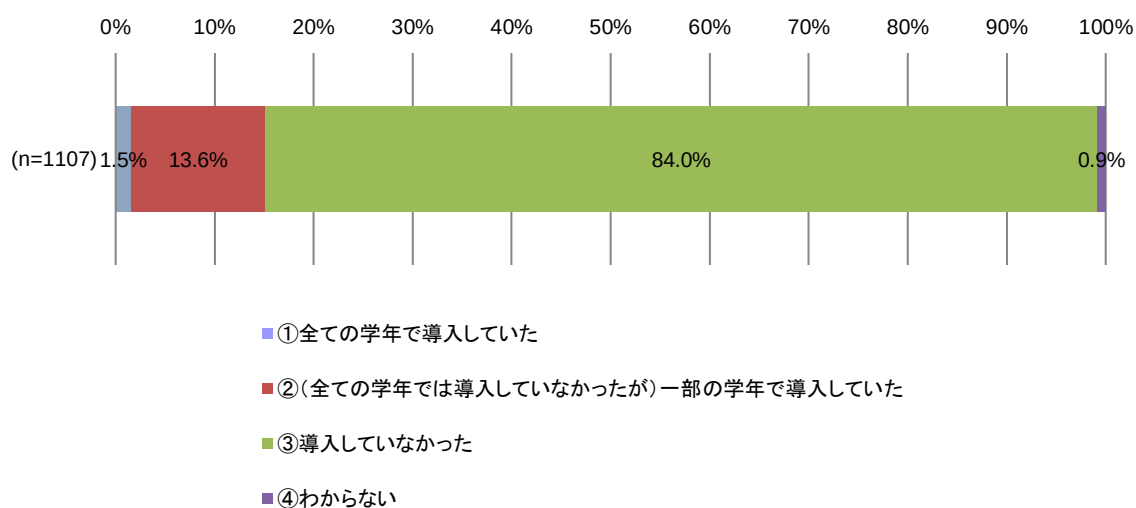


	合計	①全 ての 学年 でほ ぼ毎 日取 組ん でい た	②全 ての 学年 で週 1回 以上 程度 取り組 組ん でい た	③全 ての 学年 で月 1回 以上 程度 取り組 組ん でい た	④全 ての 学年 で年 1回 以上 程度 取り組 組ん でい た	⑤ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学 年 で ほ ぼ 毎 日 取 組 ん で い た	⑥ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学 年 で 週1 回以 上程 度取 組ん で い た	⑦ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学 年 で 月1 回以 上程 度取 組ん で い た	⑧ (① ～④ に該 当し ない が)一 部の 学 年 で 年1 回以 上程 度取 組ん で い た	⑨取 組ん でい な かつ た	⑩わ から ない
合計	1107	1	13	47	361	0	3	42	485	131	24
	100.0%	0.1%	1.2%	4.2%	32.6%	0.0%	0.3%	3.8%	43.8%	11.8%	2.2%

2-30 貴校では、令和４年度に一つの学級を複数の教員が担任として受け持つ仕組み（学年担任制・チーム担任制等）を導入していましたか。

「③導入していなかった」の割合が最も高く 84.0%である。次いで、「②（全ての学年では導入していなかったが）一部の学年で導入していた（13.6%）」、「①全ての学年で導入していた（1.5%）」である。

図表 2-30 貴校では、令和４年度に一つの学級を複数の教員が担任として受け持つ仕組み（学年担任制・チーム担任制等）を導入していましたか。

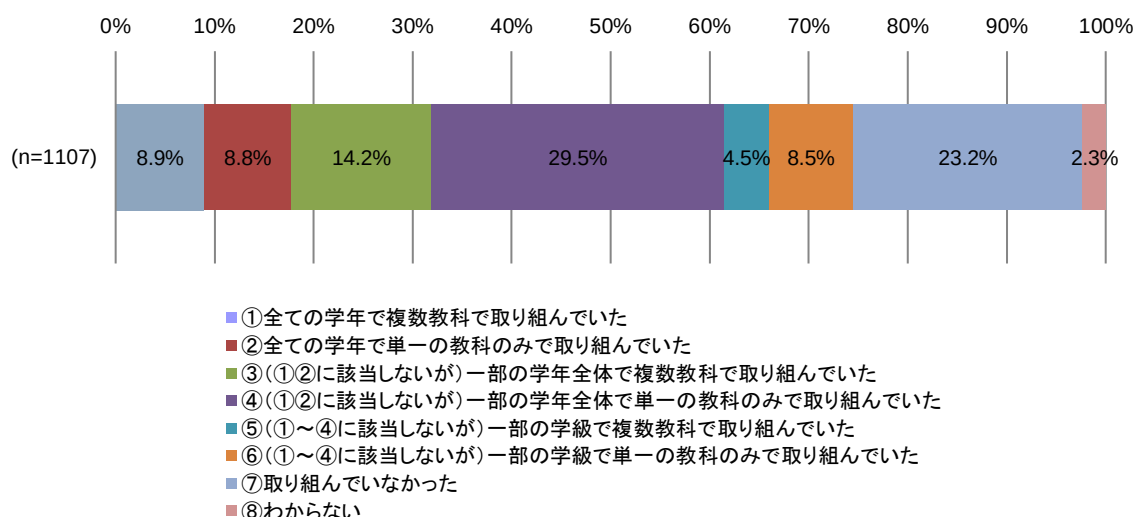


	合計	①全ての学年で導入していた	②（全ての学年では導入していなかったが）一部の学年で導入していた	③導入していなかった	④わからない
合計	1107	17	150	930	10
	100.0%	1.5%	13.6%	84.0%	0.9%

2-31 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／チーム・ティーチング

「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた」の割合が最も高く29.5%である。次いで、「⑦取り組んでいなかった(23.2%)」、「③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた(14.2%)」である。

図表 2-31 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／チーム・ティーチング

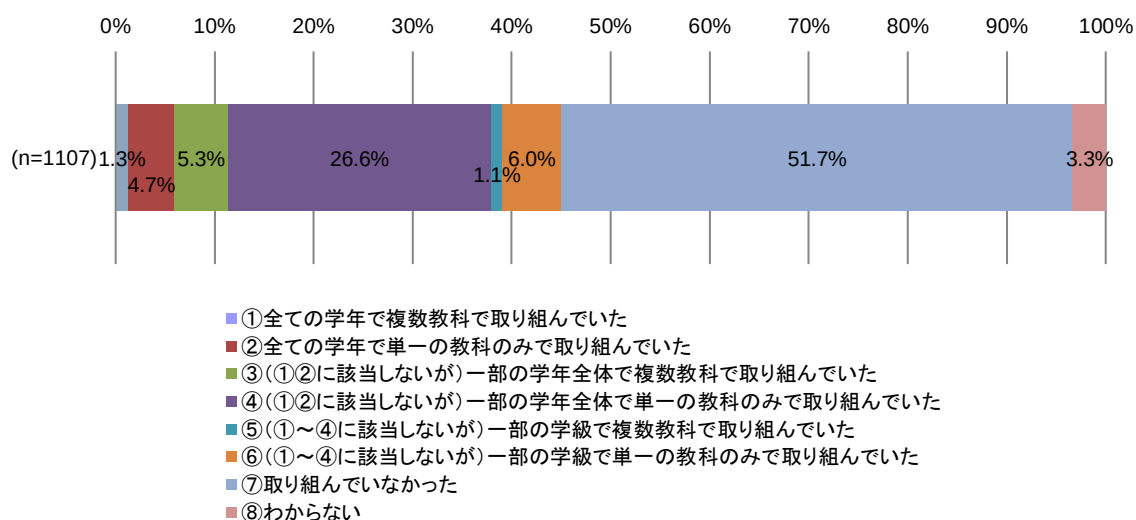


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1107	99	97	157	327	50	94	257	26
	100.0%	8.9%	8.8%	14.2%	29.5%	4.5%	8.5%	23.2%	2.3%

2-32 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／習熟度別指導

「⑦取り組んでいなかった」の割合が最も高く51.7%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(26.6%)」、「⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた(6.0%)」である。

図表 2-32 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／習熟度別指導

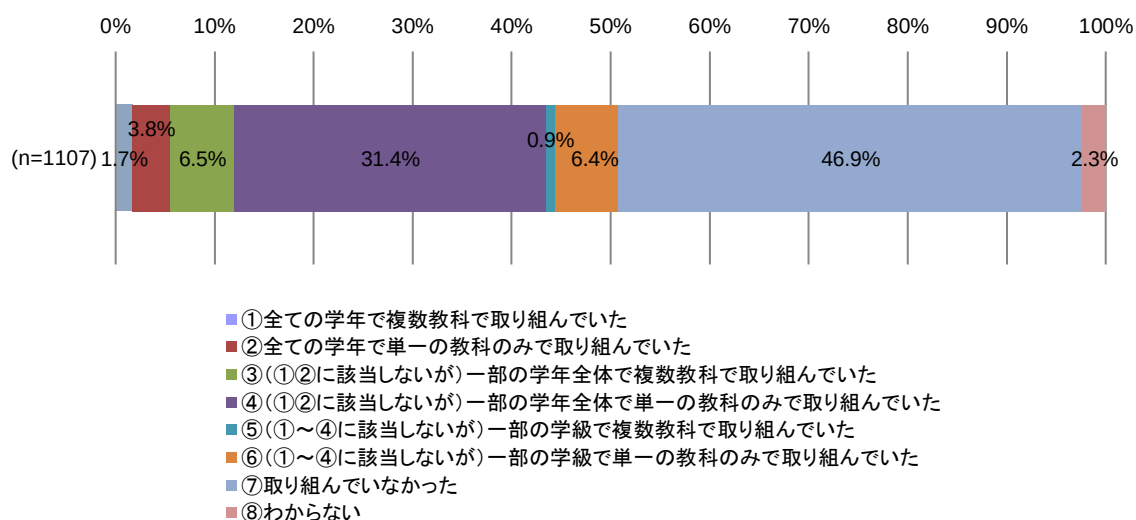


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1107	14	52	59	295	12	66	572	37
	100.0%	1.3%	4.7%	5.3%	26.6%	1.1%	6.0%	51.7%	3.3%

2-33 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／少人数指導

「⑦取り組んでいなかった」の割合が最も高く46.9%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(31.4%)」、「③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた(6.5%)」である。

図表 2-33 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／少人数指導

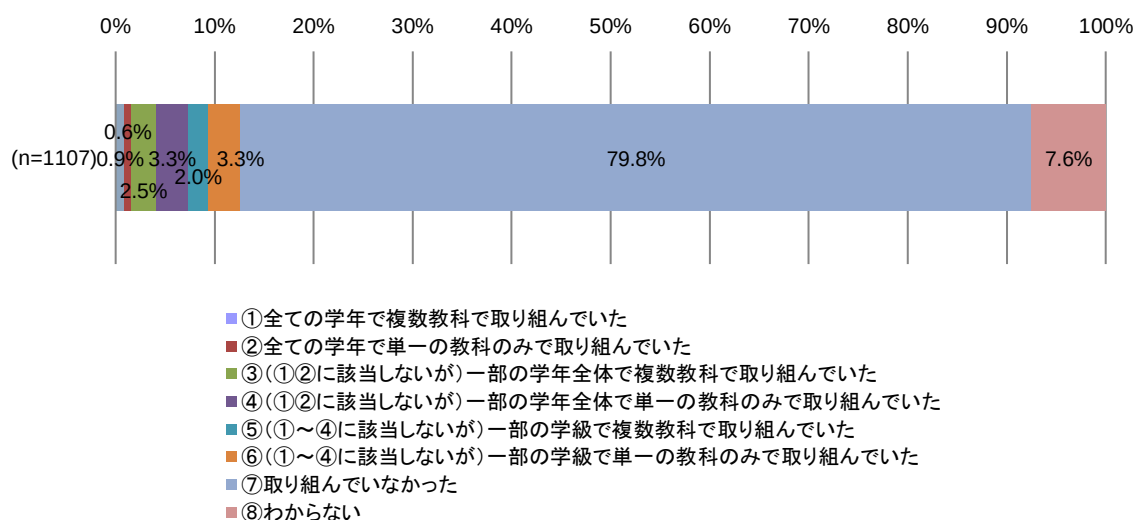


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1107	19	42	72	348	10	71	519	26
	100.0%	1.7%	3.8%	6.5%	31.4%	0.9%	6.4%	46.9%	2.3%

2-34 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／自由
進捗学習

「⑦取り組んでいなかった」の割合が最も高く79.8%である。次いで、「⑧わからない(7.6%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(3.3%)」、「⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた(3.3%)」である。

図表 2-34 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。
／自由進捗学習

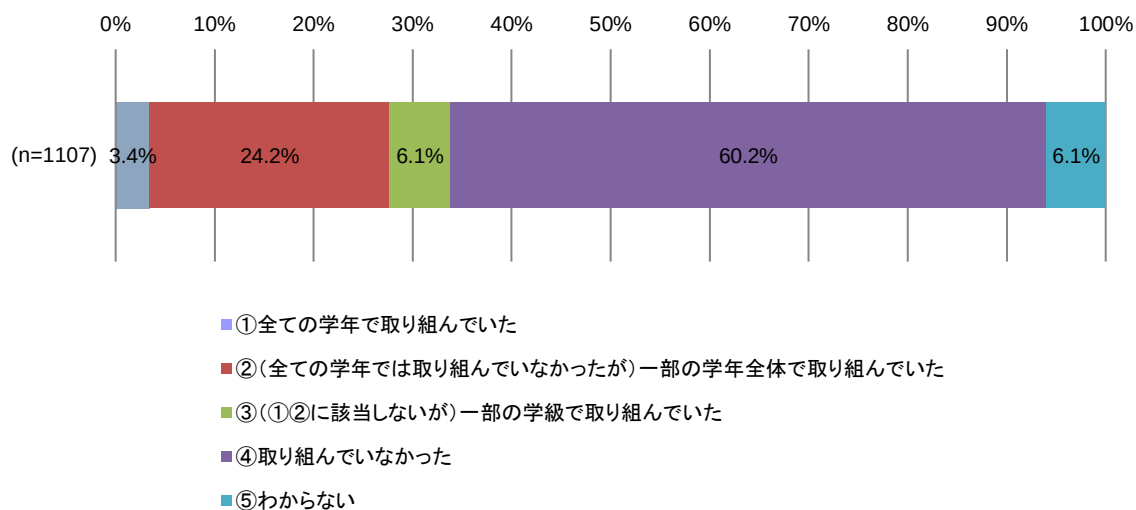


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1107	10	7	28	36	22	37	883	84
	100.0%	0.9%	0.6%	2.5%	3.3%	2.0%	3.3%	79.8%	7.6%

2-35 貴校では、令和4年度に自由課題学習に取り組みましたか。

「④取り組んでいなかった」の割合が最も高く60.2%である。次いで、「②(全ての学年では取り組んでいなかったが)一部の学年全体で取り組んでいた(24.2%)」、「③(①②に該当しないが)一部の学級で取り組んでいた(6.1%)」、「⑤わからない(6.1%)」である。

図表 2-35 貴校では、令和4年度に自由課題学習に取り組みましたか。

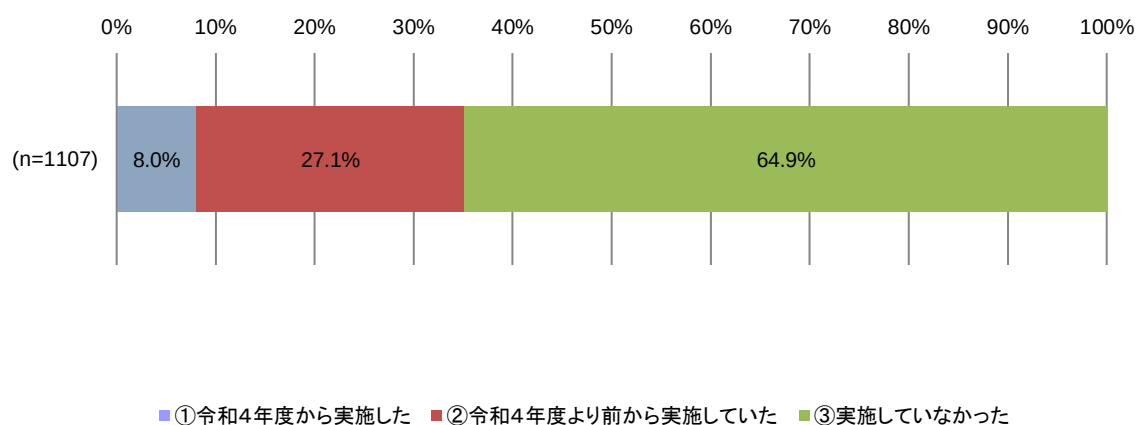


	合計	①全ての学年で取り組んでいた	②(全ての学年では取り組んでいなかったが)一部の学年全体で取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学級で取り組んでいた	④取り組んでいなかった	⑤わからない
合計	1107	38	268	68	666	67
	100.0%	3.4%	24.2%	6.1%	60.2%	6.1%

2-36 貴校では、令和４年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を実施していましたか。

「③実施していなかった」の割合が最も高く 64.9%である。次いで、「②令和4年度より前から実施していた(27.1%)」、「①令和4年度から実施した(8.0%)」である。

図表 2-36 貴校では、令和４年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を実施していましたか。

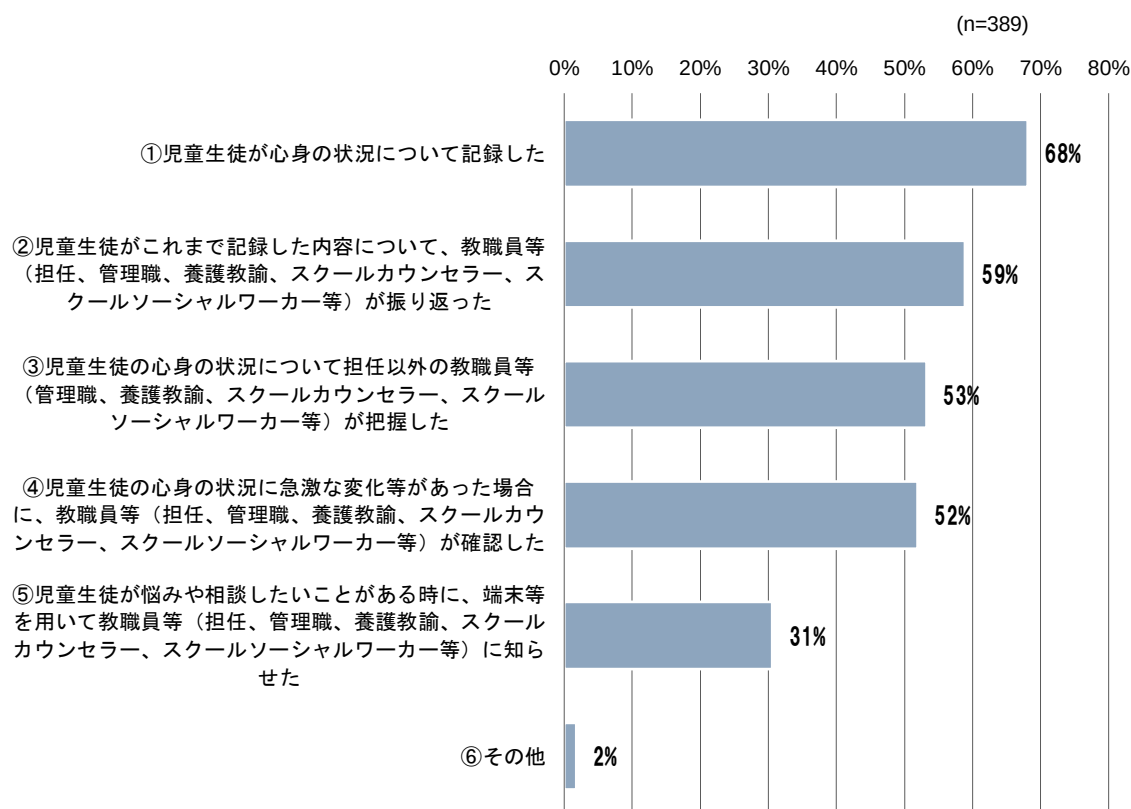


	合計	①令和4年度から実施した	②令和4年度より前から実施していた	③実施していなかった
合計	1107	89	300	718
	100.0%	8.0%	27.1%	64.9%

2-37 貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。¹

「①児童生徒が心身の状況について記録した」の割合が最も高く68%である。次いで、「②児童生徒がこれまで記録した内容について、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が振り返った(59%)」、「③児童生徒の心身の状況について担任以外の教職員等(管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が把握した(53%)」である。

図表 2-37 貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。



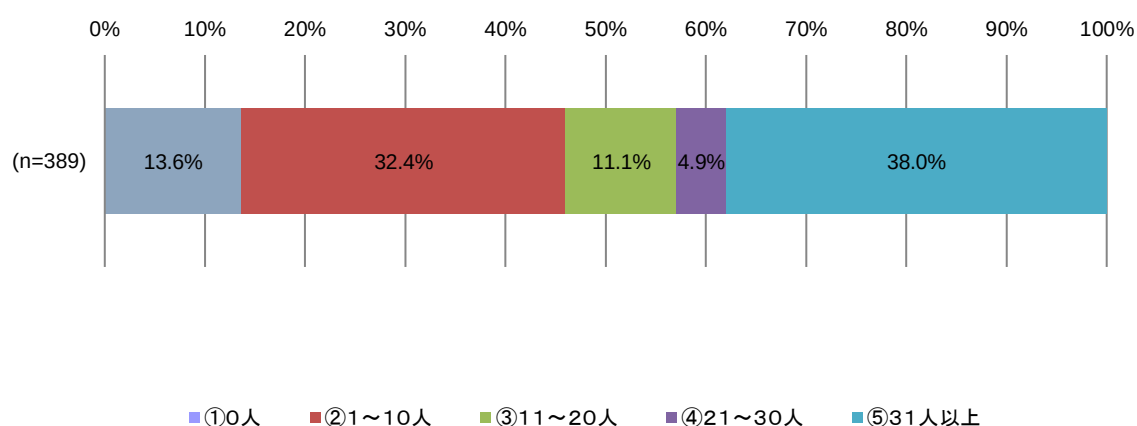
¹ 一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を「令和4年度から実施した」、「令和4年度より前から実施していた」と回答した389校のみの回答。

	合計	①児童生徒が心身の状況について記録した	②児童生徒がこれまで記録した内容について、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が振り返った	③児童生徒の心身の状況について担任以外の教職員等(管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が把握した	④児童生徒の心身の状況に急激な変化等があった場合に、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が確認した	⑤児童生徒が悩みや相談したいことがある時に、端末等を用いて教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)に知らせた	⑥その他
合計	389	265	229	207	202	119	7
	100%	68%	59%	53%	52%	31%	2%

2-38 貴校では、一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察によって、児童生徒に個別に生徒相談を実施していましたか。令和4年度に個別に生徒相談を実施した人数をお答えください。¹

「⑤31人以上」の割合が最も高く 38.0%である。次いで、「②1～10人(32.4%)」、「①0人(13.6%)」である。

図表 2-38 貴校では、一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察によって、児童生徒に個別に生徒相談を実施していましたか。令和4年度に個別に生徒相談を実施した人数をお答えください。



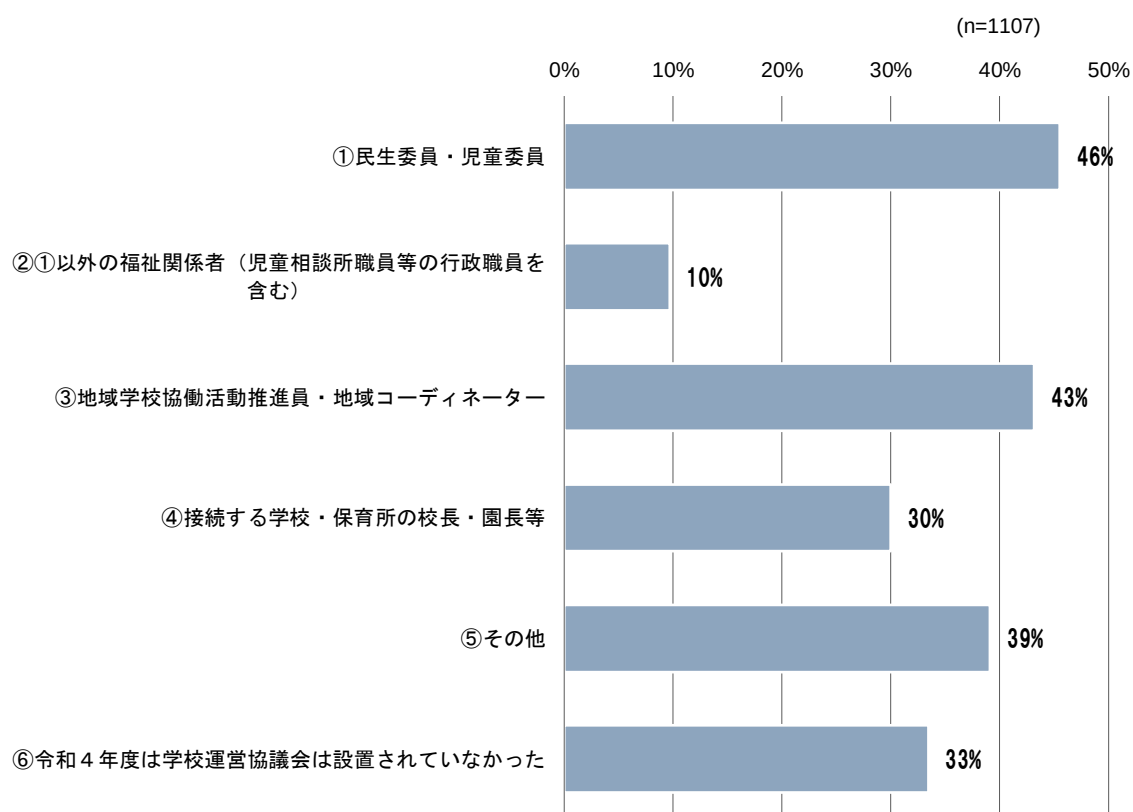
	合計	①0人	②1～10人	③11～20人	④21～30人	⑤31人以上
合計	389	53	126	43	19	148
	100.0%	13.6%	32.4%	11.1%	4.9%	38.0%

¹ 一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を「令和4年度から実施した」、「令和4年度より前から実施していた」と回答した 389 校のみの回答。

2-39 令和4年度に、貴校には、学校運営協議会が設置されていましたか。学校運営協議会が設置されていた場合、その委員の属性について、当てはまるものを全てお答えください。

「①民生委員・児童委員」の割合が最も高く46%である。次いで、「③地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター(43%)」、「⑤その他(39%)」である。

図表 2-39 令和4年度に、貴校には、学校運営協議会が設置されていましたか。学校運営協議会が設置されていた場合、その委員の属性について、当てはまるものを全てお答えください。

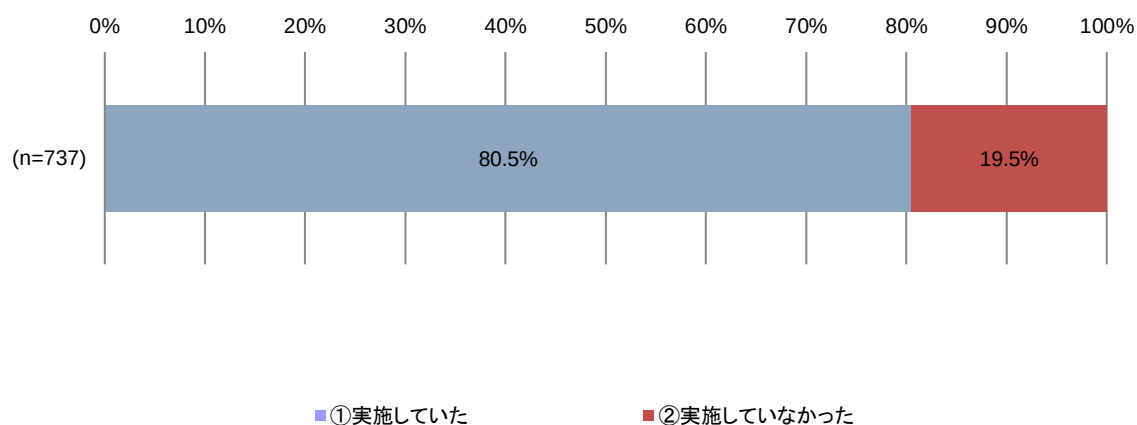


	合計	①民生委員・児童委員	②①以外の福祉関係者（児童相談所職員等の行政職員を含む）	③地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター	④接続する学校・保育所の校長・園長等	⑤その他	⑥令和4年度は学校運営協議会は設置されていなかった
合計	1107	504	107	478	332	433	370
	100%	46%	10%	43%	30%	39%	33%

2-40 令和４年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のＡ～Ｃについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／Ａ：学校全体の発生・対応状況等の報告¹

「①実施していた」の割合が最も高く 80.5%である。次いで、「②実施していなかった(19.5%)」である。

図表 2-40 令和４年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のＡ～Ｃについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／Ａ：学校全体の発生・対応状況等の報告



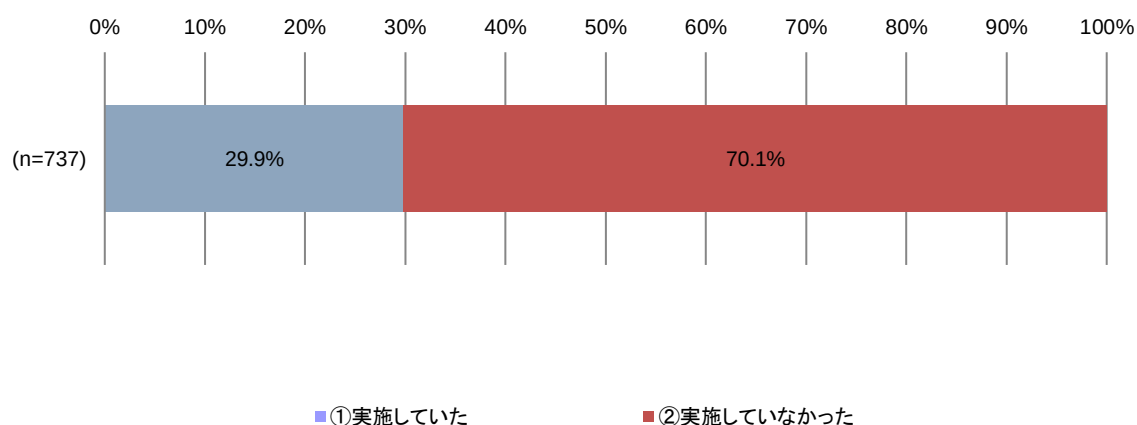
	合計	①実施していた	②実施していなかった
合計	737	593	144
	100.0%	80.5%	19.5%

¹ 「令和４年度は学校運営協議会は設置されていなかった」と回答した 370 校を除いた回答。

2-41 令和４年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のＡ～Ｃについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／Ｂ：個別の事案の報告¹

「②実施していなかった」の割合が最も高く 70.1%である。次いで、「①実施していた (29.9%)」である。

図表 2-41 令和４年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のＡ～Ｃについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／Ｂ：個別の事案の報告



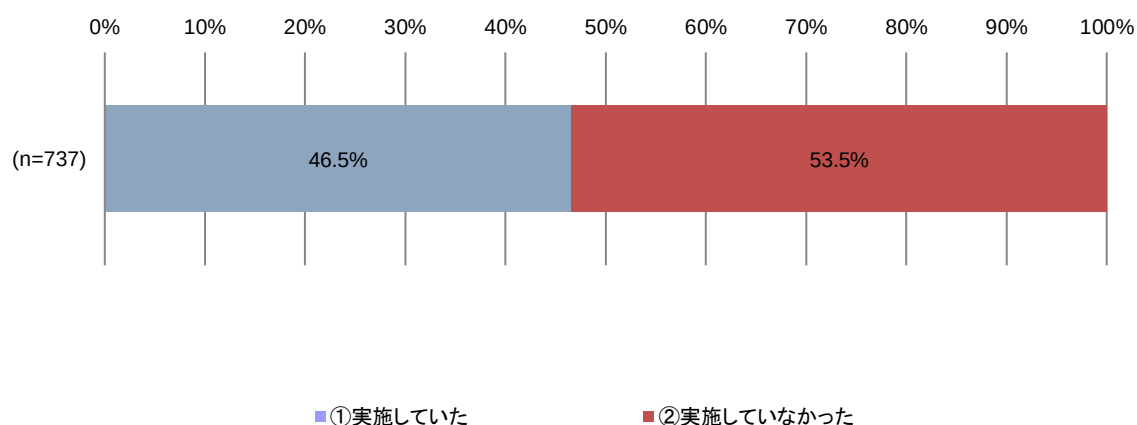
	合計	①実施していた	②実施していなかった
合計	737	220	517
	100.0%	29.9%	70.1%

¹ 「令和４年度は学校運営協議会は設置されていなかった」と回答した 370 校を除いた回答。

2-42 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／C：課題解決に向けた協議¹

「②実施していなかった」の割合が最も高く53.5%である。次いで、「①実施していた(46.5%)」である。

図表 2-42 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／C：課題解決に向けた協議



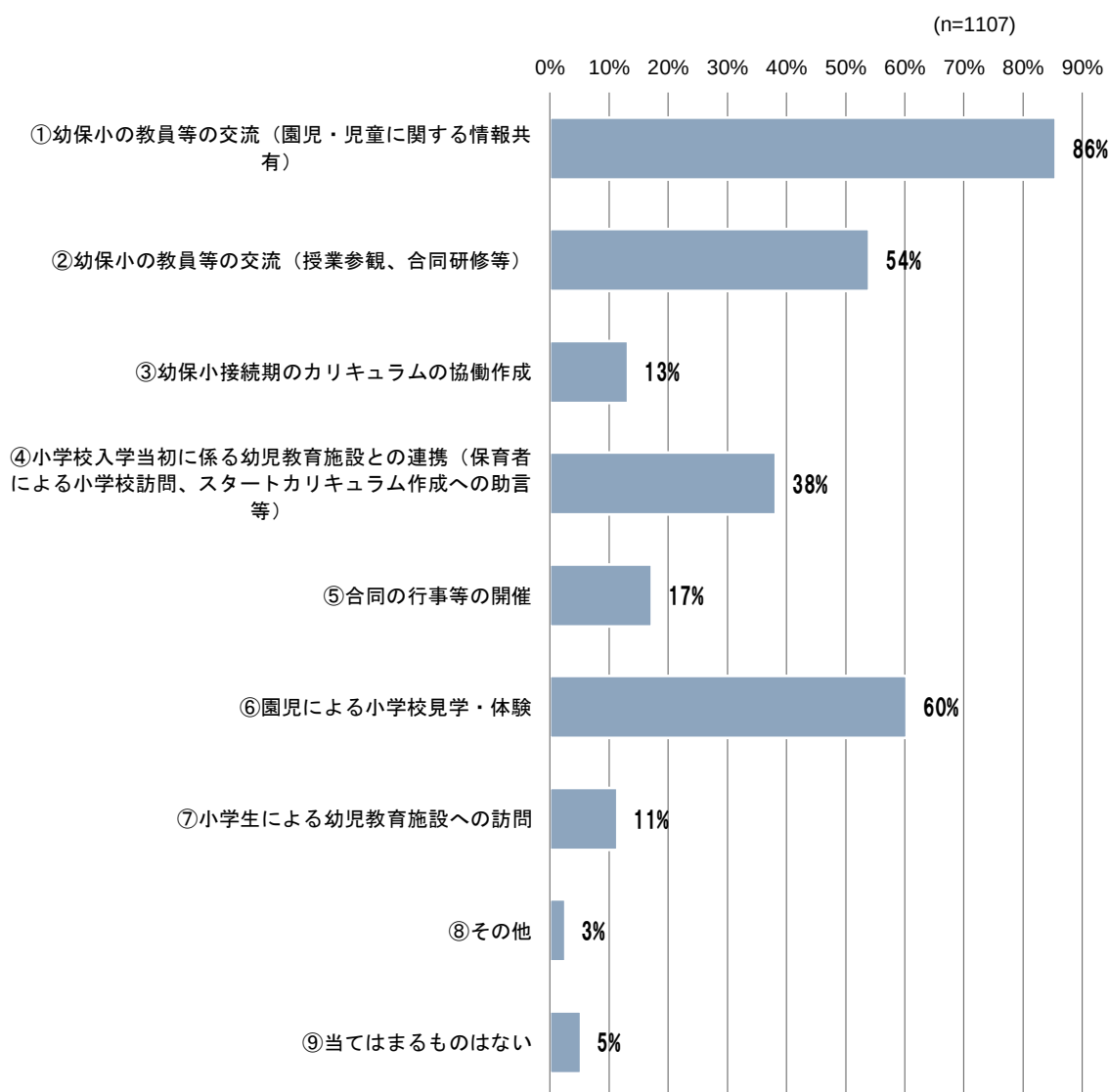
	合計	①実施していた	②実施していなかった
合計	737	343	394
	100.0%	46.5%	53.5%

¹ 「令和4年度は学校運営協議会は設置されていなかった」と回答した370校を除いた回答。

2-43 貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で幼保小連携・接続として取り組んでいたもの

「①幼保小の教員等の交流(園児・児童に関する情報共有)」の割合が最も高く86%である。次いで、「⑥園児による小学校見学・体験(60%)」、「②幼保小の教員等の交流(授業参観、合同研修等)(54%)」である。

図表 2-43 貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で幼保小連携・接続として取り組んでいたもの



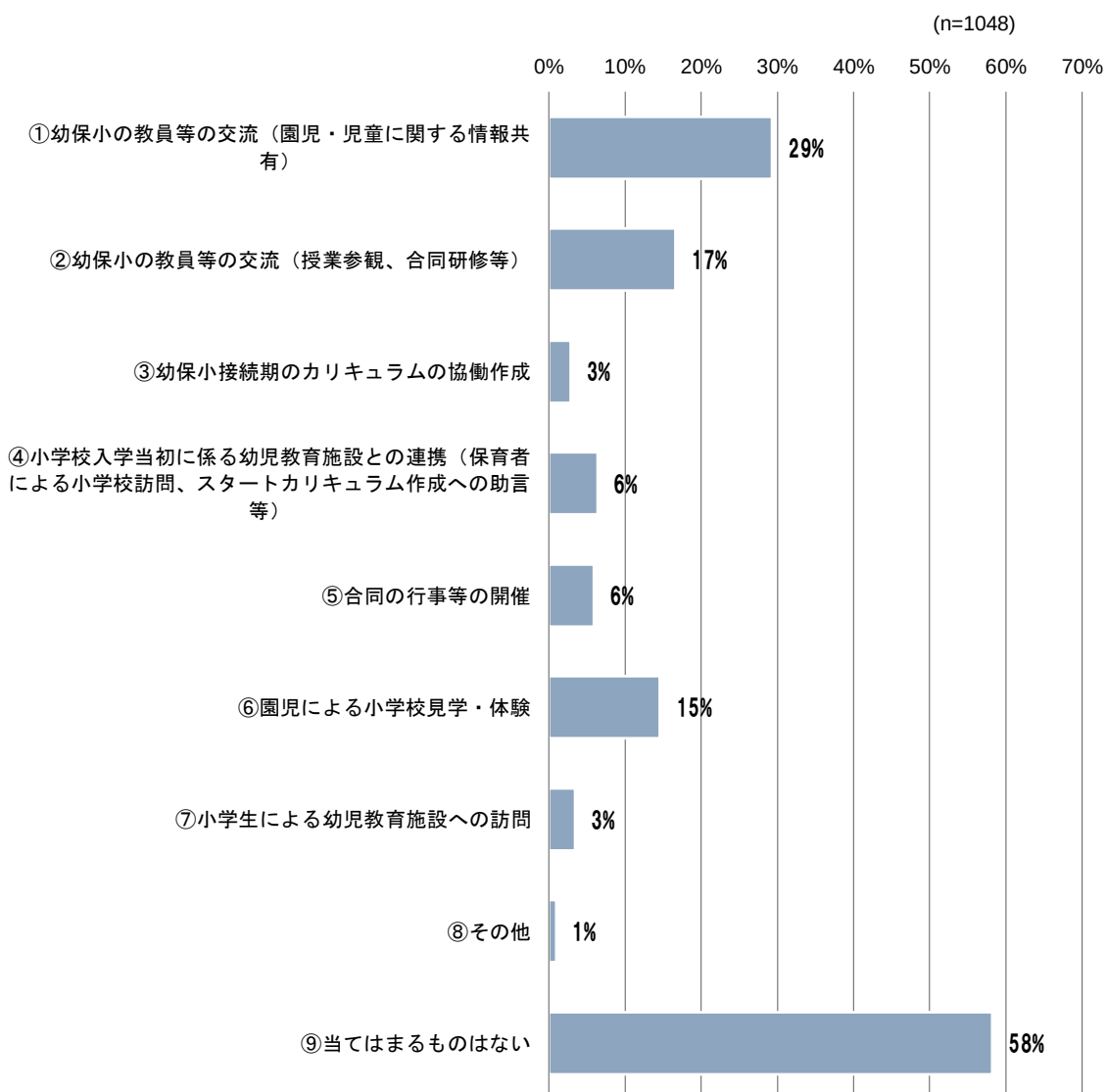
合計	① 幼保小の教員等の交流(園)	② 幼保小の教員等の交流(授)	③ 幼保小接続期のカリキュラム	④ 小学校入学当初に係る幼	⑤ 合同の行事等の開催	⑥ 園児による小学校見学・体験	⑦ 小学生による幼児教育施設	⑧ その他	⑨ 当てはまるものはない

		児・児童に関する情報共有)	業参観、合同研修等)	の協働作成	児教育施設との連携(保育者による小学校訪問、スタートカリキュラム作成への助言等)			への訪問		
合計	1107	947	598	146	423	191	668	126	29	58
	100%	86%	54%	13%	38%	17%	60%	11%	3%	5%

2-44 貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の幼児教育施設と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの¹

「⑨当てはまるものはない」の割合が最も高く58%である。次いで、「①幼保小の教員等の交流(園児・児童に関する情報共有) (29%)」、「②幼保小の教員等の交流(授業参観、合同研修等) (17%)」である。

図表 2-44 貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の幼児教育施設と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの



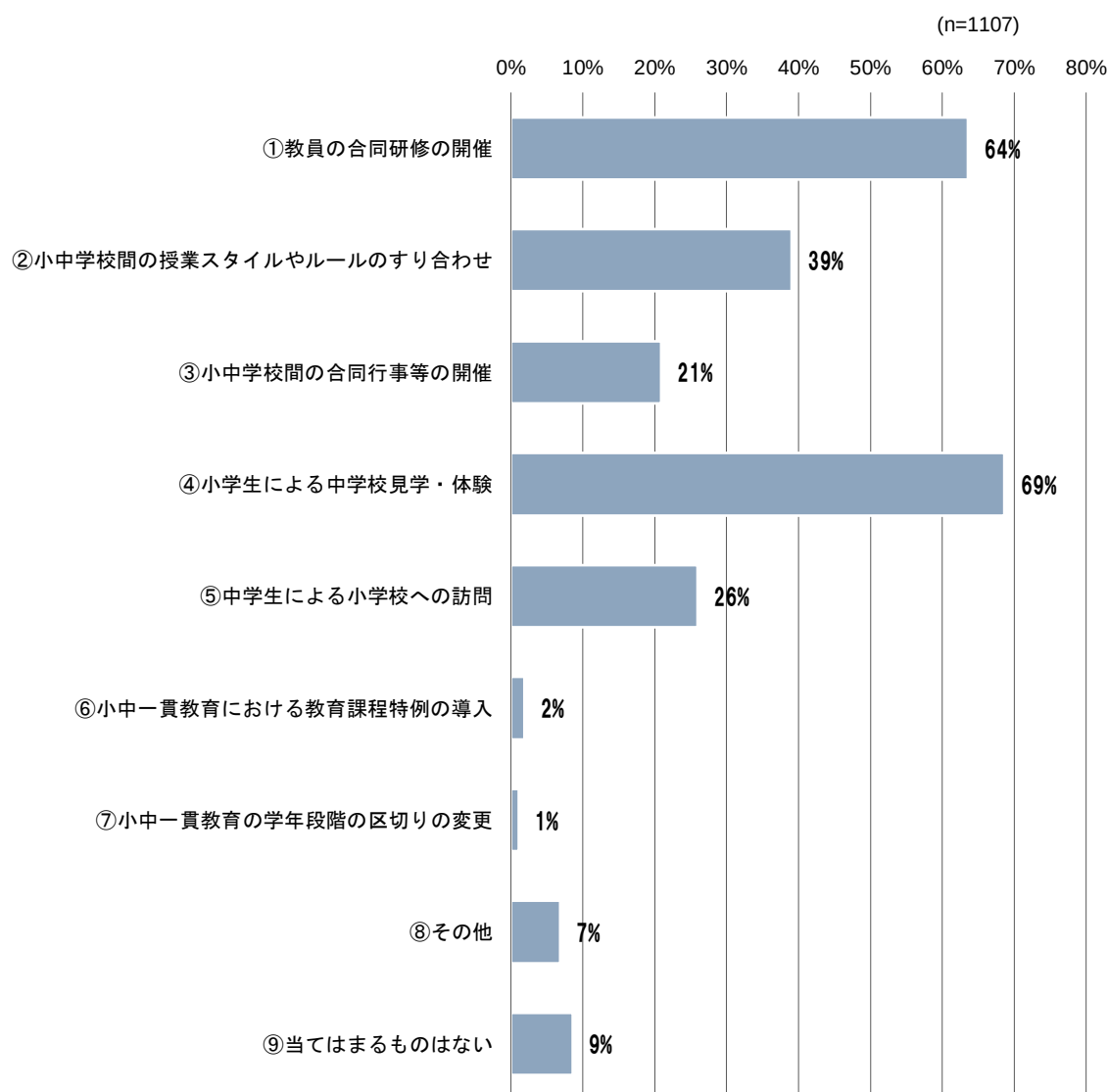
¹ 令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて「当てはまるものはない」と回答した58校、無回答1校を除いた回答。

	合計	①幼 保小 の教 員等 の交 流(園 児・児 童に 関す る情 報共 有)	②幼 保小 の教 員等 の交 流(授 業参 観、合 同研 修等)	③幼 保小 接続 期の カリキ ュラム の協 働作 成	④小 学校 入学 当初 に係 る幼 児教 育施 設と の連 携(保 育者 によ る小 学 校訪 問、ス ター トカ リキ ュラム 作成 への 助言 等)	⑤合 同の 行事 等の 開催	⑥園 児に よる 小 学校 見学・ 体験	⑦小 学生 によ る幼 児教 育施 設へ の訪 問	⑧そ の他	⑨当 ては まる もの は ない
合計	1048	307	174	30	67	62	153	36	10	610
	100%	29%	17%	3%	6%	6%	15%	3%	1%	58%

2-45 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの

「④小学生による中学校見学・体験」の割合が最も高く69%である。次いで、「①教員の合同研修の開催(64%)」、「②小中学校間の授業スタイルやルールのすり合わせ(39%)」である。

図表 2-45 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの

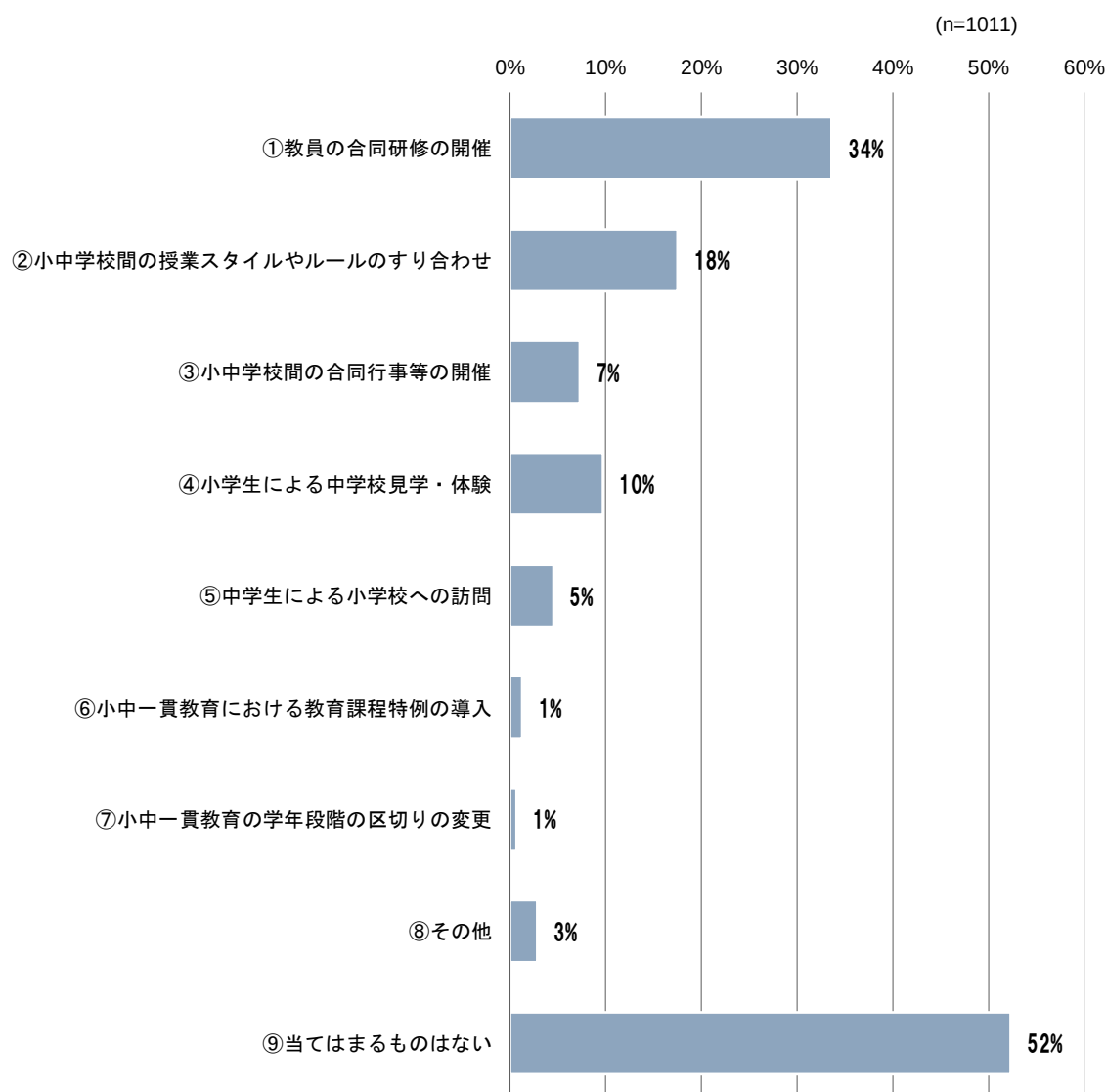


	合計	①教 員の 合同 研修 の開催	②小 中学 校間の授 業スタイル やルールのすり 合わせ	③小 中学 校間の合同 行事等の開催	④小 学生による 中学校見 学・体験	⑤中 学生による 小学校への訪 問	⑥小 中一貫教 育における 教育課程 特例の導入	⑦小 中一貫教 育の学年 段階の区 切りの変更	⑧そ の他	⑨当 ては まるも のはい ない
合計	1107	704	432	231	760	287	21	12	76	95
	100%	64%	39%	21%	69%	26%	2%	1%	7%	9%

2-46 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの¹

「⑨当てはまるものはない」の割合が最も高く52%である。次いで、「①教員の合同研修の開催(34%)」、「②小中学校間の授業スタイルやルールのすり合わせ(18%)」である。

図表 2-46 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの



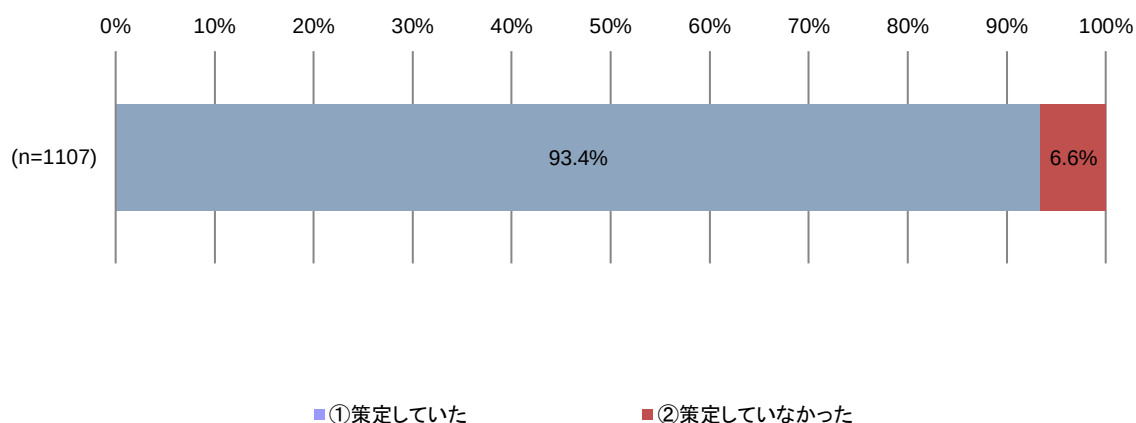
¹ 令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて「当てはまるものはない」と回答した95校、無回答1校を除いた回答。

	合計	①教員 の合同 研修の 開催	②小 中学 校間の 授業ス タイル やルー ルのす り合わ せ	③小 中学 校間の 合同行 事等の 開催	④小 学生 による 中学校 見学・ 体験	⑤中 学生 による 小学 校への 訪問	⑥小 中一 貫教 育にお ける 教育 課程 特例 の導入	⑦小 中一 貫教 育の学 年段階 の区切 りの変 更	⑧そ の他	⑨当 ては まる もの は ない
合計	1011	340	177	74	98	46	13	7	29	529
	100%	34%	18%	7%	10%	5%	1%	1%	3%	52%

2-47 貴校では、重大事態が発生した場合の対応フローは策定されていましたか（令和4年5月1日時点）。

「①策定していた」の割合が最も高く93.4%である。次いで、「②策定していなかった(6.6%)」である。

図表 2-47 貴校では、重大事態が発生した場合の対応フローは策定されていましたか（令和4年5月1日時点）。

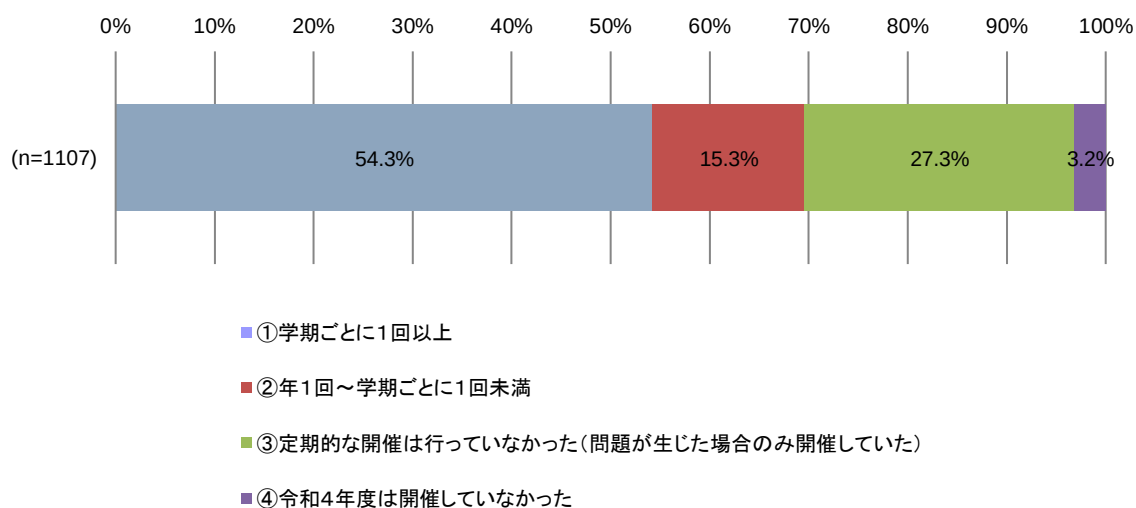


	合計	①策定していた	②策定していなかった
合計	1107	1034	73
	100.0%	93.4%	6.6%

2-48 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、定期的に会議を行っていましたか。

「①学期ごとに1回以上」の割合が最も高く54.3%である。次いで、「③定期的な開催は行っていなかった(問題が生じた場合のみ開催していた)(27.3%)」、「②年1回～学期ごとに1回未満(15.3%)」である。

図表 2-48 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、定期的に会議を行っていましたか。

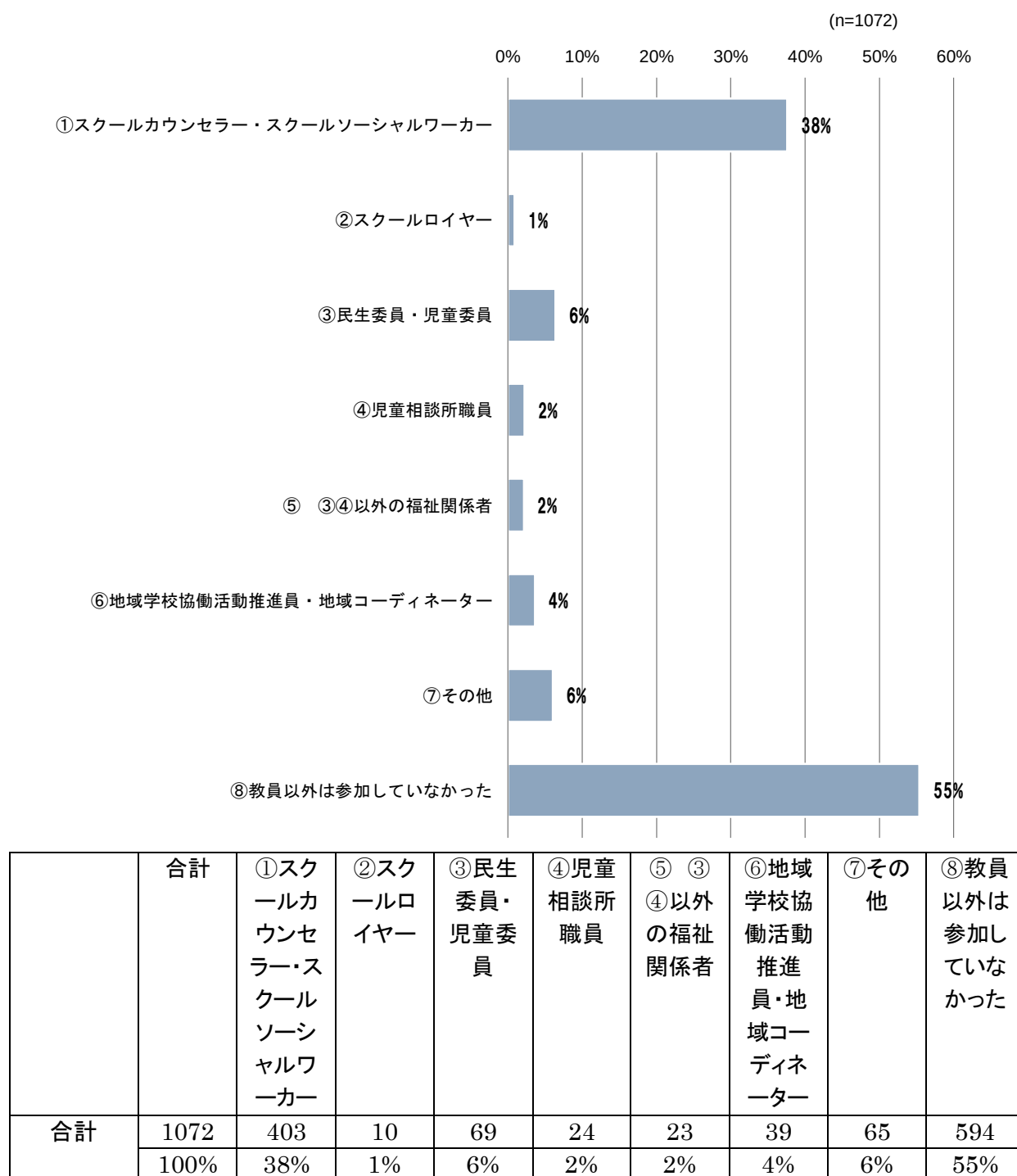


	合計	①学期ごとに1回以上	②年1回～学期ごとに1回未満	③定期的な開催は行っていなかった(問題が生じた場合のみ開催していた)	④令和4年度は開催していなかった
合計	1107	601	169	302	35
	100.0%	54.3%	15.3%	27.3%	3.2%

2-49 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。¹

「⑧教員以外は参加していなかった」の割合が最も高く55%である。次いで、「①スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー(38%)」、「③民生委員・児童委員(6%)」、「⑦その他(6%)」である。

図表 2-49 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

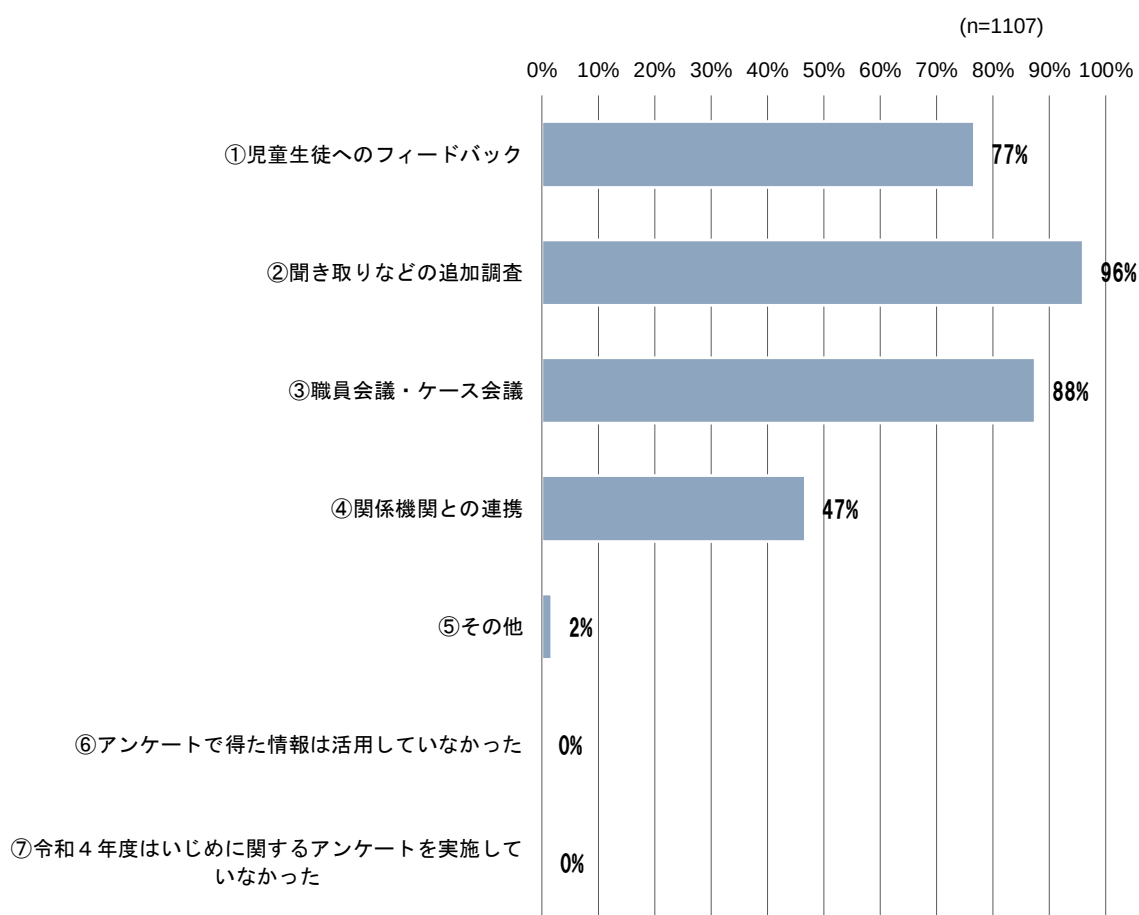


¹ いじめ防止対策組織について「令和4年度は開催していなかった」と回答した35校を除いた回答。

2-50 令和4年度に、貴校で実施していただきたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

「②聞き取りなどの追加調査」の割合が最も高く96%である。次いで、「③職員会議・ケース会議(88%)」、「①児童生徒へのフィードバック(77%)」である。

図表 2-50 令和4年度に、貴校で実施していただきたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

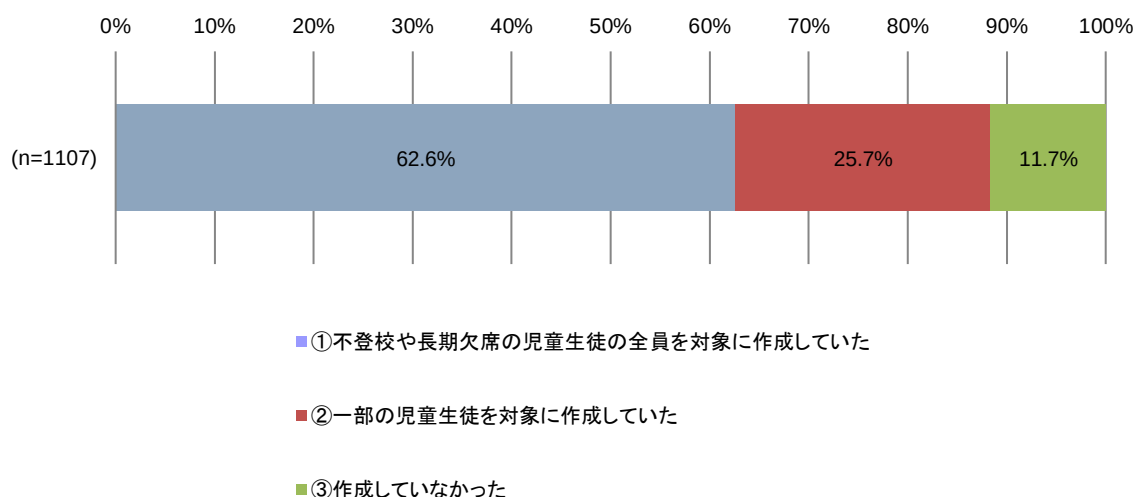


	合計	①児童 生徒への フィード バック	②聞き 取りなど の追加 調査	③職員 会議・ケ ース会 議	④関係 機関と の連携	⑤その 他	⑥アン ケートで 得た情 報は活 用して いなか った	⑦令和 4年度 はいじ めに関 するア ンケー トを 実施 してい な かつた
合計	1107	849	1063	969	517	20	0	3
	100%	77%	96%	88%	47%	2%	0%	0%

2-51 貴校では、令和４年度に不登校や長期欠席の児童生徒の情報を関係者間で共有するための資料（児童生徒理解・支援シート等）を作成していましたか。

「①不登校や長期欠席の児童生徒の全員を対象に作成していた」の割合が最も高く 62.6%である。次いで、「②一部の児童生徒を対象に作成していた(25.7%)」、「③作成していなかった(11.7%)」である。

図表 2-51 貴校では、令和４年度に不登校や長期欠席の児童生徒の情報を関係者間で共有するための資料（児童生徒理解・支援シート等）を作成していましたか。

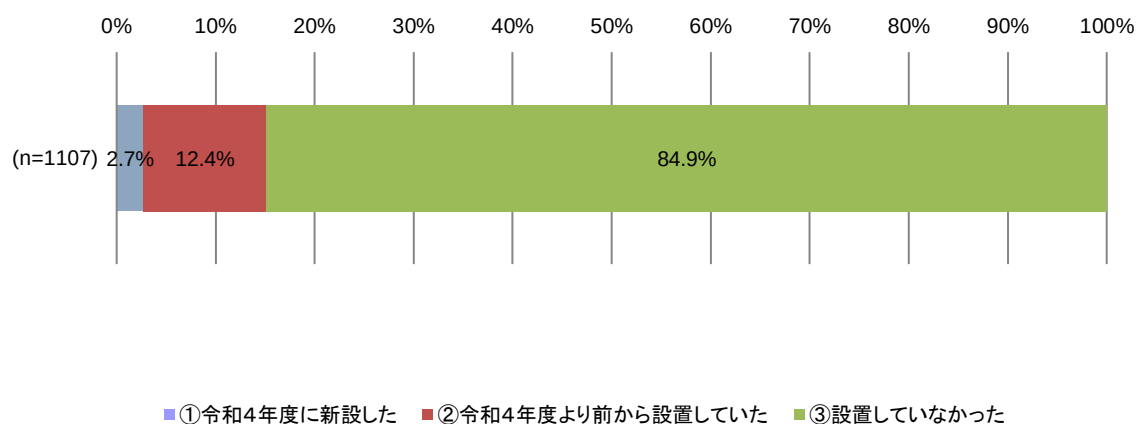


	合計	①不登校 や長期欠 席の児童 生徒の全 員を対象 に作成して いた	②一部の 児童生徒 を対象に 作成してい た	③作成して いなかった
合計	1107	693	285	129
	100.0%	62.6%	25.7%	11.7%

2-52 貴校では、令和4年度に校内教育支援センターを設置していましたか。

「③設置していなかった」の割合が最も高く84.9%である。次いで、「②令和4年度より前から設置していた(12.4%)」、「①令和4年度に新設した(2.7%)」である。

図表 2-52 貴校では、令和4年度に校内教育支援センターを設置していましたか。

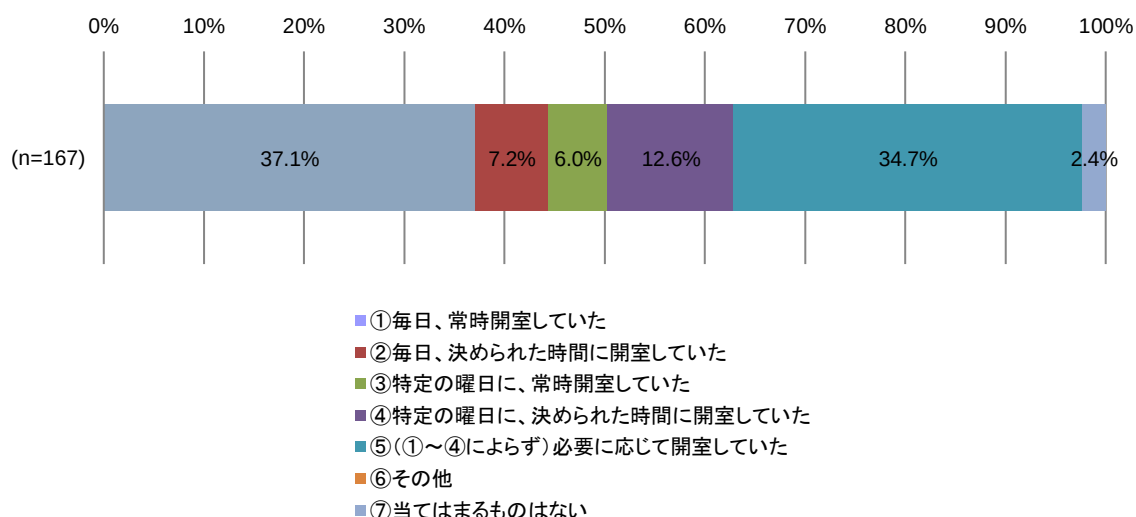


	合計	①令和4年度に新設した	②令和4年度より前から設置していた	③設置していなかった
合計	1107	30	137	940
	100.0%	2.7%	12.4%	84.9%

2-53 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの開室日時について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①毎日、常時開室していた」の割合が最も高く37.1%である。次いで、「⑤(①～④によらず)必要に応じて開室していた(34.7%)」、「④特定の曜日に、決められた時間に開室していた(12.6%)」である。

図表 2-53 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの開室日時について、最も当てはまるものをお答えください。



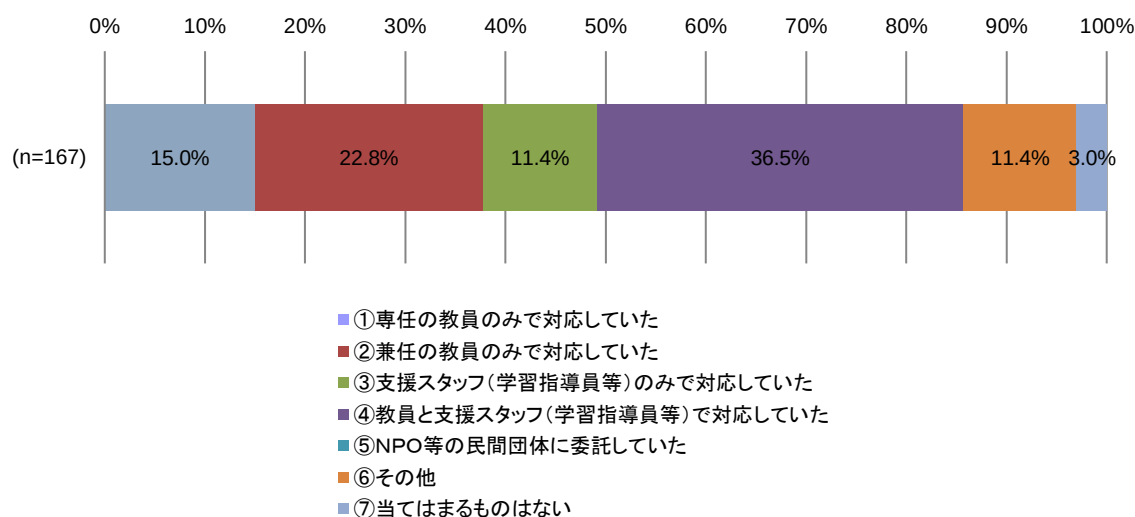
	合計	①毎日、常時開室していた	②毎日、決められた時間に開室していた	③特定の曜日に、常時開室していた	④特定の曜日に、決められた時間に開室していた	⑤(①～④によらず)必要に応じて開室していた	⑥その他	⑦当てはまるものはない
合計	167	62	12	10	21	58	0	4
	100.0%	37.1%	7.2%	6.0%	12.6%	34.7%	0.0%	2.4%

¹ 校内教育支援センターを「令和4年度に新設した」、「令和4年度より前から設置していた」と回答した167校のみの回答。

2-54 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「④教員と支援スタッフ(学習指導員等)で対応していた」の割合が最も高く36.5%である。次いで、「②兼任の教員のみで対応していた(22.8%)」、「①専任の教員のみで対応していた(15.0%)」である。

図表 2-54 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。



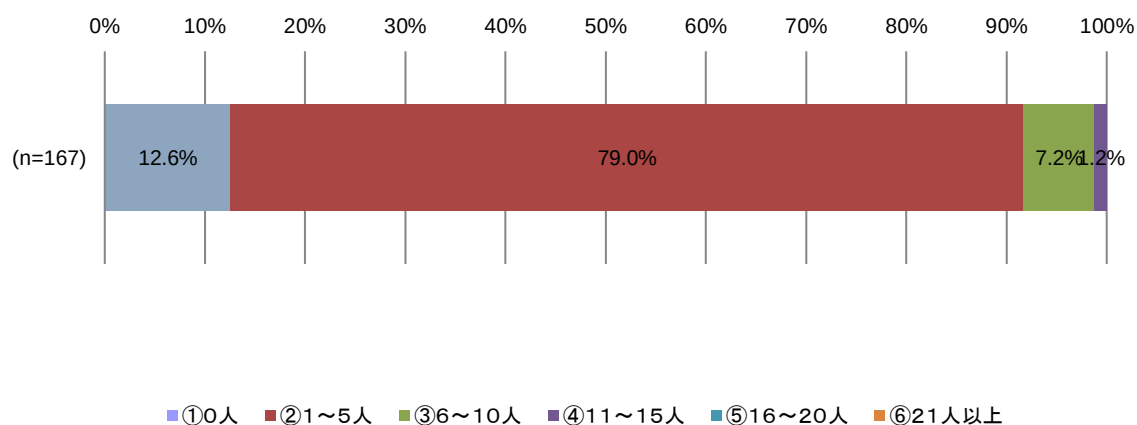
	合計	①専任の教員のみで対応していた	②兼任の教員のみで対応していた	③支援スタッフ(学習指導員等)のみで対応していた	④教員と支援スタッフ(学習指導員等)で対応していた	⑤NPO等の民間団体に委託していた	⑥その他	⑦当てはまるものはない
合計	167	25	38	19	61	0	19	5
	100.0%	15.0%	22.8%	11.4%	36.5%	0.0%	11.4%	3.0%

¹ 校内教育支援センターを「令和4年度に新設した」、「令和4年度より前から設置していた」と回答した167校のみの回答。

2-55 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの1日当たりの平均的な児童生徒利用数をお答えください。¹

「②1～5人」の割合が最も高く79.0%である。次いで、「①0人(12.6%)」、「③6～10人(7.2%)」である。

図表 2-55 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの1日当たりの平均的な児童生徒利用数をお答えください。



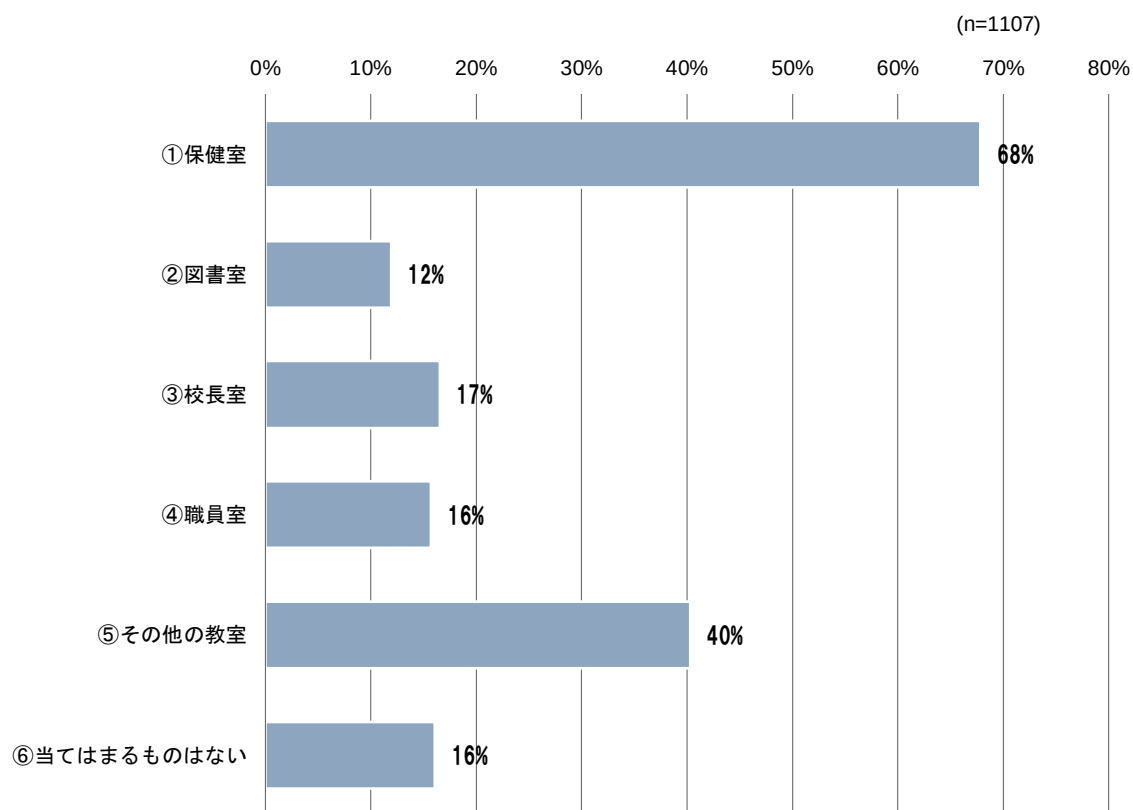
	合計	①0人	②1～5人	③6～10人	④11～15人	⑤16～20人	⑥21人以上
合計	167	21	132	12	2	0	0
	100.0%	12.6%	79.0%	7.2%	1.2%	0.0%	0.0%

¹ 校内教育支援センターを「令和4年度に新設した」、「令和4年度より前から設置していた」と回答した167校のみの回答。

2-56 貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。

「①保健室」の割合が最も高く68%である。次いで、「⑤その他の教室(40%)」、「③校長室(17%)」である。

図表 2-56 貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。

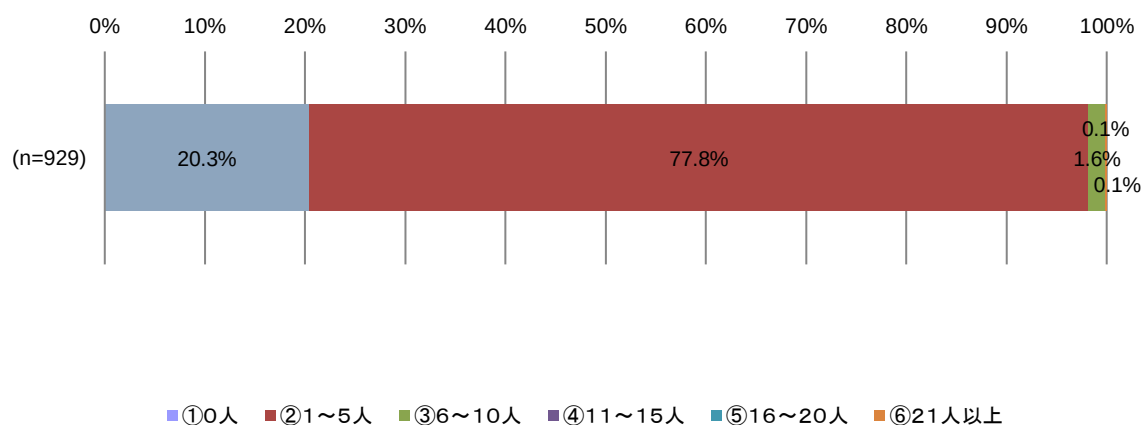


	合計	①保健室	②図書室	③校長室	④職員室	⑤その他の教室	⑥当てはまるものはない
合計	1107	751	132	183	174	446	178
	100%	68%	12%	17%	16%	40%	16%

2-57 貴校の、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外の学校内の居場所で日中過ごしていた1日当たりの平均的な児童生徒数をお答えください。¹

「②1～5人」の割合が最も高く77.8%である。次いで、「①0人(20.3%)」、「③6～10人(1.6%)」である。

図表 2-57 貴校の、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外の学校内の居場所で日中過ごしていた1日当たりの平均的な児童生徒数をお答えください。



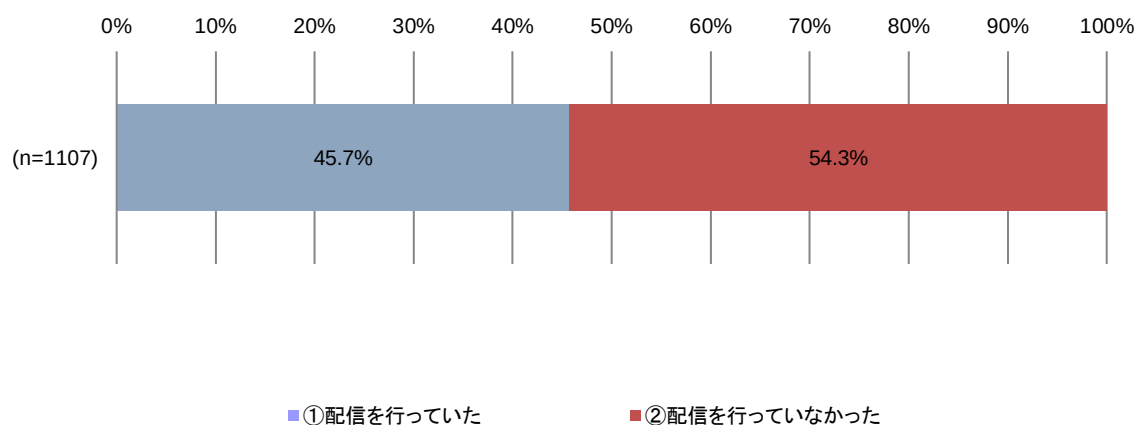
	合計	①0人	②1～5人	③6～10人	④11～15人	⑤16～20人	⑥21人以上
合計	929	189	723	15	1	0	1
	100.0%	20.3%	77.8%	1.6%	0.1%	0.0%	0.1%

¹ 令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について「当てはまるものはない」と回答した178校を除いた回答。

2-58 貴校では、令和4年度に不登校の児童生徒が、学校外（自宅や教育支援センター等）で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信を行っていましたか。

「②配信を行っていなかった」の割合が最も高く54.3%である。次いで、「①配信を行っていた（45.7%）」である。

図表 2-58 貴校では、令和4年度に不登校の児童生徒が、学校外（自宅や教育支援センター等）で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信を行っていましたか。

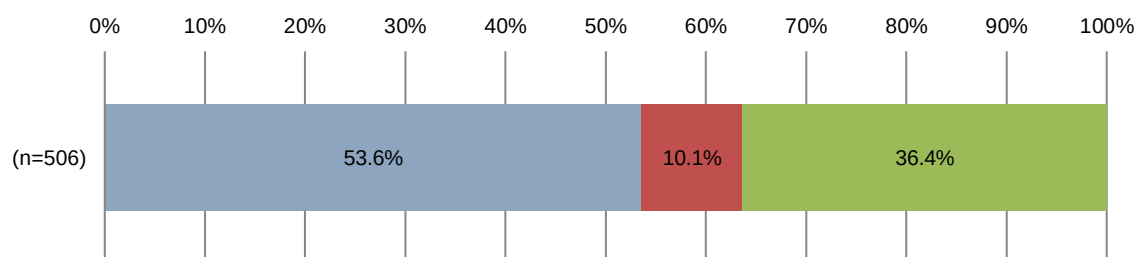


	合計	①配信を行っていた	②配信を行っていなかった
合計	1107	506	601
	100.0%	45.7%	54.3%

2-59 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた」の割合が最も高く53.6%である。次いで、「③出席扱いにはしていなかった(36.4%)」、「②ほとんど出席扱いにはしていなかった(10.1%)」である。

図表 2-59 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。



■ ①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた ■ ②ほとんど出席扱いにはしていなかった

■ ③出席扱いにはしていなかった

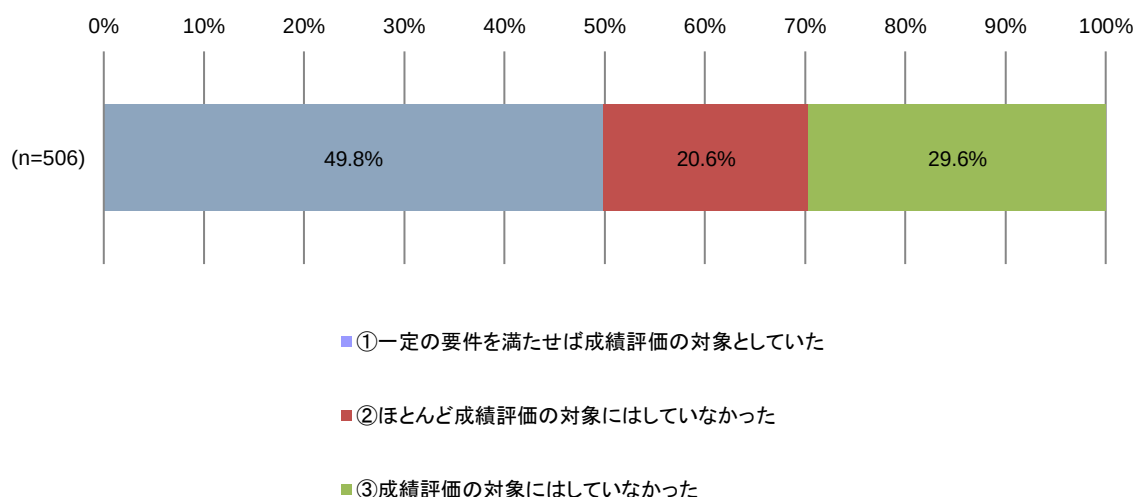
	合計	①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた	②ほとんど出席扱いにはしていなかった	③出席扱いにはしていなかった
合計	506	271	51	184
	100.0%	53.6%	10.1%	36.4%

¹ 不登校の児童生徒が、学校外(自宅や教育支援センター等)で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信について「配信を行っていた」と回答した506校のみの回答。

2-60 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた」の割合が最も高く49.8%である。次いで、「③成績評価の対象にはしていなかった(29.6%)」、「②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった(20.6%)」である。

図表 2-60 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。



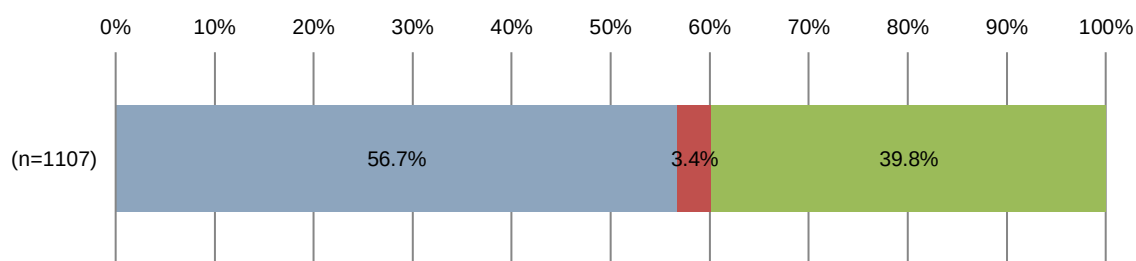
	合計	①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた	②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった	③成績評価の対象にはしていなかった
合計	506	252	104	150
	100.0%	49.8%	20.6%	29.6%

¹ 不登校の児童生徒が、学校外(自宅や教育支援センター等)で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信について「配信を行っていた」と回答した506校のみの回答。

2-61 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。

「①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた」の割合が最も高く56.7%である。次いで、「③出席扱いにはしていなかった(39.8%)」、「②ほとんど出席扱いにはしていなかった(3.4%)」である。

図表 2-61 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。



■ ①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた ■ ②ほとんど出席扱いにはしていなかった

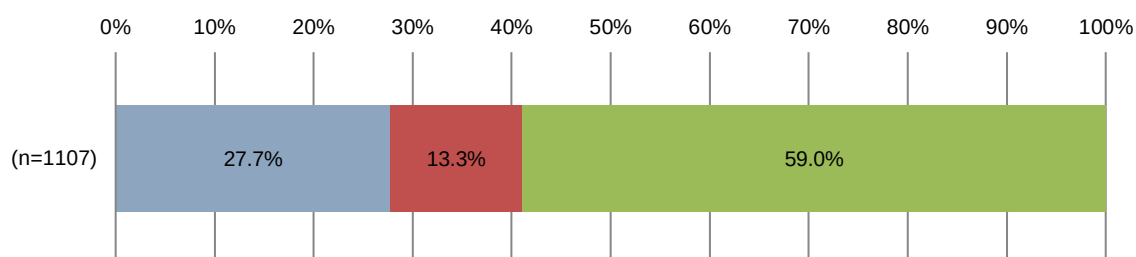
■ ③出席扱いにはしていなかった

	合計	①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた	②ほとんど出席扱いにはしていなかった	③出席扱いにはしていなかった
合計	1107	628	38	441
	100.0%	56.7%	3.4%	39.8%

2-62 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。

「③成績評価の対象にはしていなかった」の割合が最も高く59.0%である。次いで、「①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた(27.7%)」、「②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった(13.3%)」である。

図表 2-62 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。



■ ①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた

■ ②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった

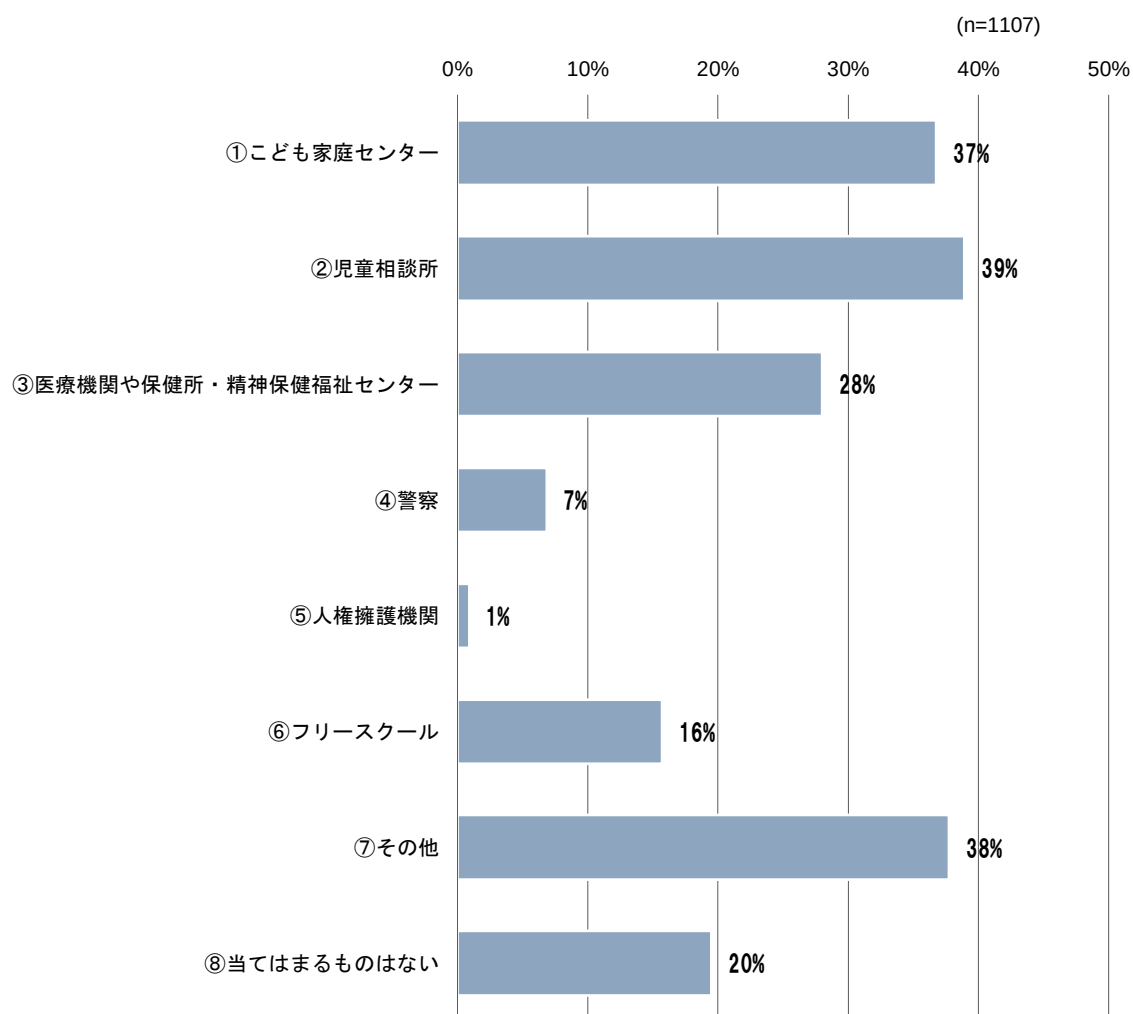
■ ③成績評価の対象にはしていなかった

	合計	①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた	②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった	③成績評価の対象にはしていなかった
合計	1107	307	147	653
	100.0%	27.7%	13.3%	59.0%

2-63 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。

「②児童相談所」の割合が最も高く39%である。次いで、「⑦その他(38%)」、「①こども家庭センター(37%)」である。

図表 2-63 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。

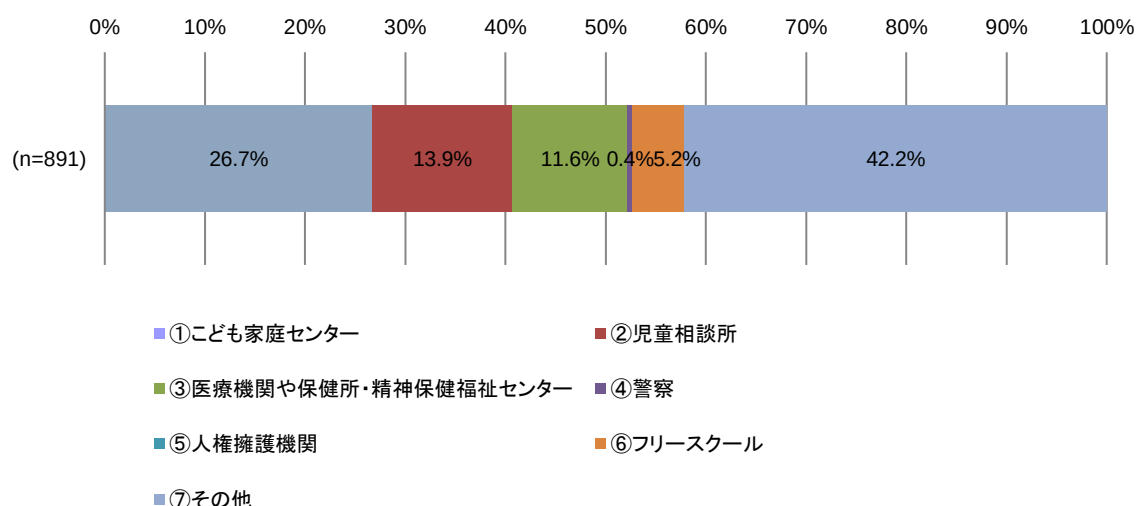


	合計	①こども家庭センター	②児童相談所	③医療機関や保健所・精神保健福祉センター	④警察	⑤人権擁護機関	⑥フリースクール	⑦その他	⑧当てはまるものはない
合計	1107	407	431	310	76	10	174	418	216
	100%	37%	39%	28%	7%	1%	16%	38%	20%

2-64 上記の質問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／前問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携をお答えください。¹

「⑦その他」の割合が最も高く 42.2%である。次いで、「①こども家庭センター(26.7%)」、「②児童相談所(13.9%)」である。

図表 2-64 上記の質問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／前問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携をお答えください。



	合計	①こども家庭センター	②児童相談所	③医療機関や保健所・精神保健福祉センター	④警察	⑤人権擁護機関	⑥フリースクール	⑦その他
合計	891	238	124	103	4	0	46	376
	100.0%	26.7%	13.9%	11.6%	0.4%	0.0%	5.2%	42.2%

¹ 不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について「当てはまるものはない」と回答した 216 校を除いた回答。

2-65 貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-4 ⑪その他

スクールカウンセラーの「その他」の具体的な職務内容について、授業参観や教室・校内巡回などを行い、児童の行動や様子を観察・把握するという回答が多く見られた。また、WISC 検査といった知能検査や心理検査の実施なども挙げられた。

自由回答
・ 教室参観 ・ 授業参観 ・ 児童観察 ・ WISC 検査 ・ 児童の行動観察 ・ 児童観察と担任の先生方への児童の様子の見立てや支援方法・情報の共有 ・ 保護者への医療受診の際の所見提供 ・ 教室の巡視 ・ 授業中の参観・観察 ・ 児童観察をして状態を把握する ・ 授業や子供の様子の参観 ・ 広報活動 ・ 心理検査 ・ 相談後のコンサルテーション ・ 教職員カウンセリング ・ 子どものアセスメント ・ 自然災害等の際の支援 ・ 教室巡回を行い、児童・職員の実態把握 ・ 心理教育、中学入学前の教育相談 ・ いじめ対策委員会への出席 ・ 6年生を対象とした中学進学前の面談 ・ 必要に応じて情報共有 ・ 校内巡回による児童観察 ・ 市内小学校の教育相談部会への参加 ・ 知能検査実施 ・ 校内参観 ・ アセスメントのための観察・支援 ・ ケース会議参加 ・ 管理職やSSW との情報共有とコンサルテーション

※重複のあった回答や個別の自治体・学校が特定できる回答は掲載していない。以降の自由記述も同様。

2-66 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください（令和4年5月1日時点）。／ 2-10 ⑥その他

追加的に配置された教員の「その他」について、児童生徒支援、不登校支援、特別支援学級の支援などを担う教員として配置されていたことが分かった。また、重大事案の対応や規範意識向上のための非常勤講師という具体的な課題に対応するために追加的に教員を配置した学校も見られた。

自由回答
- 町採用職員 - 児童生徒支援加配 - 授業は受け持たず他教職員の支援をした - 不登校支援 - 教頭が追加的に配置されていた - 重大事案の対応 - 生徒指導主事 - 規範意識向上非常勤講師（週 5 時間） - 特別支援学級の支援や T2（授業進行を受け持つ教員と協力しながら授業進行を行う教員） - 生徒指導加配

2-67 前問の質問に関して、令和４年度の独自のスタッフやボランティアの業務内容についてお答えください。2-11

独自のスタッフやボランティアの業務内容について、不登校・不登校傾向にある児童に対する登校支援や別室での対応、教育相談、家庭訪問という回答が多く見られた。また、特別支援学級の支援や補助、広く学習支援や生活支援も職務内容として挙げられた。

自由回答
・ 行き渋りなど、教室に入れない子たちの別室での支援 ・ 別室での個別対応 ・ 不登校対策として、主に未然防止や初期対応に努めていただいた ・ 授業支援、生活支援 ・ 相談室登校の児童対応 ・ 特別支援教育支援員 ・ 生活支援 ・ 生活支援と学習支援 ・ 特別支援学級の補助員 ・ 児童、保護者からの相談対応、不登校児童対応 ・ 不登校児童等の家庭への訪問など ・ 家庭訪問、不登校家庭への tel・メール・書類等の届け、登校時の相談、自習指導 ・ 小学校学習生活相談員として、学習のサポートをしたり、子どもたちの相談にのったりしていた ・ 担任の業務補助や、支援 ・ 配慮を要する児童への学習支援日本語の学習 ・ 登校時の見守り、定例会議 ・ スクールサポーター、児童の様子の見守りや職員への助言 ・ カウンセリング ・ 不登校児童・保護者の個別面談や教育相談 ・ 家庭訪問 ・ 教育相談室にて不登校児童の対応 ・ 廊下等での児童の見守り、校地内パトロール ・ 児童生徒、保護者、教職員に対する相談、支援 ・ 特別支援介助員、日本語指導員 ・ 子どもの指導補助や介助 ・ 登校を渋っている児童の登校支援等 ・ 登校支援ボランティア ・ 別室登校支援事業 ・ 登校サポーター ・ 不登校児童の登校支援 ・ 担任のサポートや不登校支援 ・ 不登校児童の家庭訪問、通学支援 ・ 不登校児童の支援 ・ 児童の登校支援 ・ 不登校児童の個別相談 ・ 不登校児童の復帰に向けての支援 ・ 不登校傾向にある児童への電話連絡や家庭訪問、学校へ登校してきた際の個別支援

- 特別支援教室における支援ボランティア
- 児童支援専任、児童対応、聴き取り、保護者対応、教職員への支援、支援の必要なクラスへの対応、特別支援
- 支援が必要な児童への対応、不登校支援教室の見守り
- 別室登校児童の付き添い、自主学習の見守り
- 市教育研究所の不登校支援員
- 日本語が身に付いていない児童に対する取り出しの指導・特別な配慮が必要な児童に対する授業や休み時間における支援
- 不登校支援
- 不登校児童の対応・いじめ等の児童の相談
- 県費による「子どもと親の相談員」任期2年不登校や学級には入れない児童について、相談室で対応した
- 現在不登校の児童はもちろん、不登校傾向にある児童および保護者に対して密に係わり支援する
- 不登校対応のフリースペースでの児童への対応
- 生徒指導上、支援が必要な児童へのサポート
- 不登校対応
- 教室に入れない子の学習支援、悩みの相談
- 児童の心の相談
- 心の相談員を配置・相談にのったり、見守ったりした
- 特別支援学級の補助、通常の学級にいる児童の支援、外国にルーツがある児童の日本語指導
- 心の相談員として子どもの相談活動
- 相談活動
- 不登校児童宅への家庭訪問や別室での児童対応
- 不登校支援教室での児童支援
- 児童の見守りや、学習教材の準備
- 教室に入れない児童への対応・感情をコントロールできない児童への対応
- 児童の話を聞いたり、別室で学習支援をしたりしている
- 不登校傾向児童との個別懇談や学習支援・問題行動等ある児童の保護者と個人面談
- 教育委員会主催のいじめに関する研修に参加、教職員に周知、校内のいじめ対策委員会の開催
- 生活指導支援員（不登校児童の対応）
- 不登校児童の把握や状況の確認
- 生活指導支援員
- 児童の観察や相談、保護者を含め
- 家庭訪問や個別対応、学習支援
- 不登校児童支援（お迎え等）
- 児童の学習支援
- 不登校児童に対する個別対応
- 学習支援をはじめ休み時間の関わり・校内教育支援ルームでの支援
- 教育支援教室の児童の見守り
- しぶり傾向にある児童との面談や学習支援
- 不登校児童への対応・各学級への巡回、気になる児童の観察・教員へのアドバイス
- 児童の個別対応や学級での補助

- 学校現場での教育活動における子ども支援の補助を行う
- 保護者支援・家庭訪問
- 登校渋りのある児童生徒への支援
- 登校渋りのある児童生徒への家庭訪問
- 児童学習活動のサポート、ロールモデルとしての役割
- 児童の学習支援・離席時の個別対応
- 不登校児童を自宅まで迎えに行き、登校後も学習支援等を行った
- 登校支援
- 別室対応や家庭訪問等を行っていた
- 特別支援学級の支援
- 不登校支援員
- 不登校児童生徒支援員が家庭訪問や別室支援、付き添っての支援を行った
- 自立応援室利用児童に対する支援
- 別室指導、登校を促すための家庭への連絡
- 家庭訪問や家庭連絡
- 学校内における不登校及び不登校傾向の児童に対する相談活動及び様々な活動等の支援
- 不登校児童が学校へ来たときの別室での見守り
- ふれあいひろばでの支援
- 不登校児童への訪問指導・不登校に関わる保護者の相談および支援・他機関との連携
- 要配慮児童の対応をしていた
- ふれあい教室での学習サポート不登校支援にかかるケース会議の運営
- 個別の児童支援
- スクールサポーター
- 家庭訪問や地域での声かけ
- 家庭教育支援チーム員として、訪問型支援を実施
- 配慮の必要な児童への支援
- 家庭教育支援員（家庭支援や登校支援の業務）
- 教育相談（児童・教職員）、自立活動、関係機関との連携
- 支援を要する家庭を訪問し、保護者の困り感に寄り添い精神的なサポートをする
- 児童・保護者の教育相談、特別支援学級での支援
- 各学級の授業を参観して、よかった言動をカードに書いて担任に返す（担任から本人に渡してもらう）
- 学習支援
- 相談員が児童・保護者に対して教育相談活動を行った
- 問題行動・不登校等の未然防止並びに早期発見及び解決に関する業務
- 学習環境の整備、学習資料の作成
- 配慮を要する子どもへの個別支援
- 教育相談員が週3回出勤し、不登校児童への対応を行っていた
- 学生ボランティア
- 児童への個別対応、校内会議の企画・運営
- 登校支援や相談
- 児童の悩み相談及び見守り支援
- 児童の悩み等の相談業務
- 登校をしづりがちな児童への支援や別室（不登校支援教室）での個別指導など
- 児童の心に寄り添って話を聞くことが主な業務・令和4年度は不登校傾向にある児童が、相談

員の出勤日にサポート室に登校していた・話を聞いて担任や生徒指導主任、管理職に報告・内容によっては保護者にも児童の思いを伝えることもあった

- 特別に支援の必要な児童への対応
- 生徒指導支援者(登校渋り児童・別室指導児童の対応)
- 教室へ入室できない児童への別室での学習支援・登校しぶりの児童への家庭訪問等
- 心の相談員による登校支援や相談業務

2-68 貴校では、令和４年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／

2-18 ⑧その他

ケース会議等への参加者のうち「その他」の回答として、担任以外の教諭、主幹教諭、教務主任などが多く挙げられている。また、特別支援教育コーディネーターや教育相談・支援コーディネーターという回答も多く見られた。

自由回答
・ 担任外教諭 ・ 主幹教諭 ・ 教務主任 ・ コーディネーター ・ 教務、主幹教諭、学年から1名 ・ 教育相談担当 ・ 特別支援教育主任 ・ 特別支援教育担当 ・ 教育相談員 ・ 相談担当 ・ 教育相談主任 ・ 教務 ・ 放課後デイサービス職員、市役所主管課職員 ・ 各学年主任 ・ 関係機関職員 ・ 主幹 ・ サポートルームの教員 ・ 教育相談担当教員 ・ 特別支援教育コーディネーター ・ 関係する児童の専科教員 ・ 児童支援専任教諭 ・ 各学年児童支援部 ・ 教育相談コーディネーター ・ 教務担当 ・ 市費のスクールカウンセラー ・ 市教委指導主事 ・ 教職員全員 ・ 学習支援員 ・ 保健センター保健師、福祉政策課職員 ・ 市家庭相談員 ・ 教育委員会指導主事、子と親の相談員、市家庭支援課 ・ 市スクールメンタルアドバイザー ・ いじめ対策の教員 ・ 相談員 ・ 不登校対策主任 ・ 関係外部機関

- 全ての教員
- 不登校担当
- 市役所
- 人権部長
- 子ども支援コーディネーター
- 児童生徒支援加配
- 教育委員会教育相談担当者
- 特別支援担当
- 子どもサポートネット
- 人権教育主担
- 関わりが深い教員
- 家庭教育サポーター、児童生徒支援人材
- 保護者の後見人・児童福祉施設職員・子ども家庭センター
- 放課後デイサービス
- 人権教育推進教員
- 人権主任
- 学年主任
- スペシャルサポートルーム担当、通級担当
- 校内コーディネーター、教育相談担当
- スクールサポーター
- 教育委員会
- 教育委員会指導主事
- 人権教育主任、教務主任
- 県警スクールサポーター
- 児童相談所
- 情報集約担当者
- 市教育委員会
- 教育相談支援員

2-69 貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-37 ⑥その他

心の健康観察で利用した機能の「その他」について、一部の学校において、不定期での実施や、何らかの契機をきっかけに実施し、児童の状態を把握していた。

自由回答
• 日々ではないが、年2回、心のアンケートを実施 • 震災後、県の心のアンケート実施が始まり、教職員、SC、SSW が把握対応した

2-70 貴校での、令和4年度の幼保小連携・接続の取組について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の幼児教育施設と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で幼保小連携・接続として取り組んでいたもの／2-43 ⑧その他

幼保小連携・接続の取組の「その他」について、幼稚園への訪問や出前授業などを通じて交流を行い、情報交換をしていたという回答が見られた。一方、新型コロナウイルスの感染予防のため、令和4年度には幼保小連携・接続の取り組みの実施を見送った学校もあった。

自由回答
・ 入学前に教職員が幼稚園を訪問 ・ 校長の幼稚園訪問 ・ 管理職による情報交換 ・ 1年生から保育園へ学校の様子を伝える手紙を作成し届けた・保育園からお礼の手紙を受け取った ・ お手紙交換 ・ 教員の保育体験 ・ 就学前の聞き取り ・ 学校紹介 DVD とプレゼント送付 ・ 出前授業 ・ 学校便り・園便りのやり取り ・ 市幼年教育研究会の当番校として、共に研究するために研究授業を行った ・ コミュニティスクール関係の会議への出席 ・ ビデオ交流 ・ 新型コロナウイルス感染症予防のため実施しなかった ・ 合同研究発表協議会 ・ 小学校教員が幼稚園で保育にかかわる ・ お手紙交流 ・ 不登校生の交流 ・ 幼保小連携推進委員会 ・ 小学校教員によるこども園での出前授業 ・ 合同授業 ・ 感染症予防として電話連絡のみ

2-71 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの／ 2-45 ⑧その他

貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいた「その他」のものとして、中学校教員による小学校への出前授業や特定の授業での交流、小中教員による授業参観、情報交流、意見交換といった教員の交流が多く挙げられた。

自由回答
・ 中学校教員からの中学校に関する授業資料提供 ・ 小中一貫会議の開催 ・ 児童の実態調査における情報交流 ・ 授業見学、生徒指導交流、特支児童実態交流 ・ 教育課程系統表作成 ・ 学区三部会 ・ コロナのため行事を縮小していた ・ 外国語活動 Cando リストの作成 ・ 中学校兼務教員が小学校で週あたり1日勤務 ・ 教員による互いの授業参観 ・ 兼務発令 ・ 生徒指導主任の来校と児童観察 ・ 中学校教員による小学校での出前授業 ・ 中学校の教員による小学校の授業参観 ・ 職場体験 ・ 小中授業参観・小中合同講演会 ・ 小中職員による授業交流 ・ 小中の教員の交流(児童・生徒に関する情報共有) ・ 校長・教務・児童指導担当・教育相談コーディネーター・安全担当が小中連携推進委員会を行った ・ 中学校区校長会 ・ ピアサポート ・ 小中連携情報交換会 ・ 中学校で開催された特別支援教育にかかる講演会に小中の保護者が参加した ・ よいところ見つけ活動 ・ 中学教員の小6授業参観 ・ 新型コロナウイルス感染症予防のため実施出来なかった ・ 中学校教員による6年生への授業 ・ オンラインによる中学校紹介に参加 ・ リモートによる中学校生活の紹介 ・ 特別支援学校との児童間、職員間の交流 ・ 英語の乗り入れ授業 ・ 授業公開 ・ 中1と小6の参観

- コロナ期で未実施
- 中学校教員による学級活動・算数の授業
- ボランティア体験
- 中学校の紹介 DVD の視聴
- 小中一貫教育担当者による連携会議
- いじめ防止川柳づくり
- 中学校教員による体力テストの指導・補助
- オンライン交流
- 英語の授業を中 1 と小 6 で教員が参観し協議
- 小中連携推進委員会
- 小学校教員による中学校授業参観
- 校長、教頭、教務、生徒指導、教育相談での連絡協議会
- 出前授業
- 中学校教諭の出前授業・中学校説明会
- 中学校教諭による小学 6 年生を対象にした授業や中学校生活についての説明
- 中学校教員による入学説明会の開催
- メディアコントロールの取組
- 中学校が小学校に来て説明
- 管理職同士での情報共有

2-72 令和４年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-49 ⑦その他

いじめ防止対策組織について、教員以外の参加者の「その他」の項目として、PTA 会長やスクールサポーター、学校運営協議会の会長や委員、教育委員会、保護者などが挙げられており、多岐にわたる関係者がいじめ防止対策組織に関わっていることがうかがえた。

自由回答
• PTA 代表 • 警察 • こども園の園長 • いじめ問題対策連絡協議会委員 • 相談員 • 学校運営協議会委員 • 警察署交通安全課職員 • 教育委員会関係者 • 指導主事 • 教育委員会指導主事 • 学校運営協議会会長 • 警察スクールサポーター・青少年健全育成会 • いじめ対応アドバイザー • 保育園、幼稚園園長、評議員 • PTA 会長 • スクールアドバイザー • PTA 副会長 • 全職員 • 本校所属の職員 • 教育委員会教育相談担当者 • PTA 執行部 • 心のサポーター • 育友会会長 • 学校評議員 • 地区補導員 • 公民館館長、公民館主事 • 自治協議会関係 • 自治協議会長 • PTA 役員 • スクールサポーター • 警察 OB(スクールサポーター) • 県警スクールサポーター • 青少年協議会会長 • 保護者代表 • 保護司 • 特別支援教育支援員

2-73 令和4年度に、貴校で実施していたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／

2-50 ⑤その他

いじめに関するアンケートを通して児童生徒から得た情報の「その他」の項目について、保護者との情報共有や連携のために活用され、加えて研修会等で活用されていたことが分かる。

自由回答
・ 児童理解研修 ・ 生徒指導委員会を開き情報共有 ・ 安全確保、保護者連絡 ・ 保護者との連携 ・ 学年ごとの傾向と対策を考えて改善策を実施 ・ 教職員と児童との日記 ・ いじめ解消に向けての指導・支援 ・ 親へのフィードバック ・ 結果を公表 ・ 職員間の情報共有 ・ 研修会 ・ 保護者との情報共有 ・ 保護者へのフィードバック及び連携 ・ 教育委員会への報告

2-74 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。／ 2-54 ⑥その他

校内教育支援センターの人員等の「その他」の項目について、スクールカウンセラー、相談員、ボランティアの他、管理職など、多岐にわたる人々が関わっていたことがうかがえる。

自由回答
・ 相談支援パートナー ・ 教員、特別支援専門員 ・ 対応可能な教員、スクールカウンセラー、ボランティア ・ ふれあい相談員 ・ 校内の教員で対応できるものが対応した ・ 専任と兼任の教員 ・ 教員のみ ・ 教育相談主任を中心に教務部の教員で対応 ・ 空いている教員が対応していた ・ 生徒指導主事と管理職 ・ 児童生徒支援者 ・ 元校長 ・ スクールカウンセラー ・ 校長・教頭 ・ 市の会計年度職員（再雇用の元教員）

2-75 貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-56 ⑤その他の教室

教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所の「その他」について、相談室・教育相談室の回答が多く、会議室や空き教室等利用頻度が比較的高くない教室などを活用して学校で居場所を構築している様子がうかがえた。

自由回答
・ 小会議室 ・ コンピューター準備室 ・ 家庭科準備室 ・ 会議室 ・ 相談室 ・ 教育相談室 ・ 放送室 ・ 通級指導教室 ・ 研修室 ・ 応接室 ・ 和室 ・ 特別支援学級教室 ・ LD 教室 ・ 学習支援室 ・ 別室 ・ カウンセラー室 ・ 言語通級指導教室 ・ 学習室 ・ 多目的室 ・ ことばの教室 ・ 特別教室 ・ 休憩室 ・ 事務室 ・ 会議室(対応できる職員がいる場合) ・ 生涯学習センター学習室 ・ 教室に隣接している部屋 ・ 英語ルーム ・ 保健室 ・ ふれあいルーム ・ ランチルーム ・ リフレッシュスペース ・ サポートルーム教室 ・ スタディルーム ・ 保健相談室 ・ コーディネータールーム ・ 国際教室 ・ 個別対応の部屋

- 少人数教室
- 図書準備室
- ミーティングルーム
- 校内中間教室
- 専用の教室
- 廊下から授業を受けていた
- 玄関前コーナー
- 地域ボランティア運営の施設
- 家庭科室
- 教材室
- 発達支援教室
- 空いている教室
- 絵本の部屋
- 休養室
- PTA 室
- 学年相談室
- カウンセリングルーム
- 教室に入るまでに休む場所
- 児童会室や生活科室
- 学年室
- 支援教室(支援児童)
- 図工準備室
- 支援学級の一画(パーテーションの中)
- コンピューター室
- PTA 会議室
- 職員室前サロン
- 自立支援室
- 職員室横にある小部屋
- ふれあい教室
- ふれあい広場
- 本が置いてあるくつろげる教室
- 市の教育支援教室
- リフレッシュルーム
- スタジオ
- カウンセリング室
- 不登校対応教室
- 心のサポート相談室
- コミュニティ室
- ワークスペースの机

2-76 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-63 ⑦その他

不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関の「その他」として、教育委員会や市町村の教育支援センター、自治体の教育・児童福祉の担当課、教育委員会の相談室や相談センターが多く、他に大学やNPOなどが挙げられた。

自由回答
・ 市教育センター ・ 放課後等デイサービス ・ 子ども総合相談センター ・ デイサービス ・ 発達支援センター ・ 市教委教育支援課 ・ 市役所子育て支援課 ・ 教育相談センター ・ 市役所子育て健康課 ・ 心のケアハウス ・ 市の家庭健康課 ・ 市子育て応援課 ・ 教育相談室 ・ 総合教育支援センター ・ 家庭児童相談室 ・ 市子ども家庭課 ・ 町保健福祉課 ・ 町子ども課 ・ 不登校適応教室 ・ 教育センター ・ 町子ども未来課 ・ 市子育て家庭支援課 ・ 青少年相談室 ・ 自治体の教育支援センター ・ 町健康福祉課 ・ 市役所子育て相談課 ・ NPO 法人(民間の生活支援) ・ こども発達支援センター ・ 保健センター ・ 区役所支援課 ・ 子育て相談課 ・ 市こども青少年課 ・ 教育支援室(教育委員会) ・ 市教育相談室 ・ 相談センター ・ 教育相談所 ・ 市養護教育センター

- 市の相談機関
- 市ふれあいルーム
- 市子ども福祉課
- 市教育委員会青少年育成センター
- 市教委管轄のふれあい教室
- 子ども総合センター
- 区教育委員会教育支援課
- 区教育総合支援センター
- 区の施設
- 自治体の適応指導教室
- 登校支援室
- NPO 不登校の居場所事業
- 子供発達支援センター
- 療育センター
- 相談指導教室
- 青少年相談センター
- 市教育委員会教育相談課
- 子ども若者教育支援センター
- 市青少年教育相談センター
- 市役所子ども家庭相談課
- 子ども・青少年相談センター
- 包括支援センター
- 町子育て支援室
- 市子ども相談室
- 市教育委員会、家庭支援課
- 教育事務所
- 子育て支援課
- 子ども若者総合支援センター
- 市子ども若者総合支援センター
- 教育委員会教育研究所
- 市の教育総合研究所
- 発達障がい支援センター
- 校区中学校
- 青少年教育センター
- ふれあい教室
- 子ども若者相談センター
- オルタナティブスクール
- 子ども支援室
- 社会福祉課
- 不登校の相談機関
- 民生子ども課
- 市教育委員会、子ども適応支援センター
- 市教育相談
- 子ども相談センター
- 市ふれあい教室

- 家庭児童支援課
- 町の子育て応援課
- 登校サポートセンター
- 市教育委員会事務局教育支援課
- 市発達支援課
- 発達支援課、学校教育課
- 町の関係機関
- 児童生徒支援室、発達支援室
- ふれあい教育相談室（公的機関）
- 市こども相談支援課
- 福祉施設
- 町隣保館
- 不登校相談支援センター
- 市教育支援課
- 子どもサポートネット
- 区役所子育て相談室
- 市福祉部局
- 市の子どもを守る課
- 区役所保健福祉課
- 青少年サポートセンター
- 子ども家庭支援室
- 通級教室
- きこえとことばの教室
- こども若者相談センター
- 市子ども家庭総合支援室
- 市立青少年センター
- 学科指導教室
- 市こども・若者サポートセンター
- 市教育相談センター
- 市教育委員会学校教育課、子ども課
- 市発達支援センター
- 地域交流センター
- 市保健福祉課
- 町福祉保健部（社会福祉課・こども課）
- 町こども課
- 市の教育支援教室
- 町の支援施設
- 放課後児童クラブ
- 市教育支援室
- 市民館
- 役場福祉課
- 教育委員会生徒指導課
- 区役所子育て支援課
- 教育委員会発達教育センター
- 特別支援教育支援センター

- 県立大学
- 子ども支援センター
- 教育研究所
- 民間施設
- 市教委総合支援課
- 区保健子ども課
- 行政福祉担当課
- 発達支援事業所
- 市教委の教育相談・特別支援教育推進室
- 特別支援学校
- 社会福祉協議会
- 市こども課
- 自立支援施設
- 市福祉課
- 町役場
- 福祉課家庭児童相談室
- 児童家庭課
- 市の子ども未来課

2-77 連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／

2-64 連携の具体的内容

最も効果的な機関との連携の具体的内容として、連携機関との情報共有という回答が多かった。連携機関に通う児童の様子や家庭訪問、ケース会議などを通じた家庭環境を含む子どもの環境や様子に関する情報共有が多く行われていることがうかがえた。また、連携機関が児童・保護者と学校の間に入り、課題解決につなげるといった連携も見られた。さらに、学校に向けての指導に関わる専門的なアドバイスや児童・保護者への直接的な医学的なアドバイスなど、連携機関からサポートを受けていることも分かった。

①こども家庭センター 連携の具体的内容

自由回答
・ 保護者の困り感の相談先として子ども総合相談センターと連携を図った ・ 不登校児童が希望した場合に、通級し自分のペースで学習を進めていた・必要に応じて、当校の担任が教育支援センターを訪問し、様子を観察したり、コミュニケーションをとった ・ 育ちの相談、実態把握、保護者への情報提供、連続性のある多様な学びの場を提供できた ・ 家庭への教育支援 ・ 家庭の状況を知り対応を考えることができた ・ 家庭訪問を行ってもらい、保護者の理解や児童の様子の把握に努めてもらった ・ 児童の家庭での様子を共有し、対策を協議できたこと ・ 不登校児童の状況報告、対応のアドバイス ・ 実態把握のための仕組み作りや相談窓口の設置など ・ 学校と市役所等の連携を図れた ・ 相談や面談での情報交換 ・ 保護者との面談 ・ 電話での情報交換 ・ 参観・観察による指導助言 ・ 家庭的な事情で不登校になっていた児童の保護者への支援 ・ 児童の生活支援 ・ 適応指導教室担当と連携し、助言をいただく・事例によっては、対象児童や保護者にアプローチしていただく ・ 連携会議 ・ 親子関係夫婦関係に課題があるケースの連絡や相談 ・ 教育相談体制構築に向けた助言が得られた ・ SSW との連携により、医療への連携につながった ・ こども支援課による家庭訪問 ・ 少年センター(現教育センター)通級支援教室や WISC 受検の案内 ・ 家庭の問題が児童に直結することが多いので、ケース会議等から家庭への働きかけを協力して行った ・ 家庭支援を具体的に行っていた ・ 保護者の方への連絡、情報交換 ・ 児童の見守り及び、保護者の生活支援など ・ 該当児童の家庭状況についての定期的な情報共有 ・ 児童・保護者との面談や相談を受け、学校としての対応等共有しながら支援を進めていくことができた ・ 学校からの相談や家庭の状況の情報共有

- 児童の登校支援、情報共有
- 情報共有で保護者の困り感を把握することができた
- 管理職や不登校担当が行う電話による情報交換
- 児童への対応の相談
- 不登校の原因等の聞き取り
- 役割を分担し、児童と保護者に対して具体的な対応について話し合い進めることができた
- 情報共有、さらなる支援先の検討
- 校内及び家庭における問題行動等の情報共有
- 放課後登校の付き添い
- 定期連絡をとり、児童および家庭への具体的支援内容を共有し、社会とのつながりを作ったり保てたりできるようにした
- 養育できない両親に代わって祖母が児童を引き取るケースの転校に関すること
- 児童の様子を教えていただき、学校での指導に生かしていた
- 児童や家庭の情報共有や家庭訪問で得た状況の共有と具体的な家庭支援
- 医療への受診をすすめる
- 週に2回以上は連絡を取り、情報交換を行っていた・そのため、案件内容によっては児童相談所ともスムーズに連携を取ることができた
- 課題を抱える児童の情報共有と、今後の手立て、方策の検討
- 年に数回ケース会議を行い情報交換をした
- 保護者の子育て支援、相談の場
- 保護者へのアプローチを直接行ってもらった
- 保護者と連携を図る際、子ども家庭センターも一緒に関わり、登校を促したり協力したりしてくれた
- 定期的な情報共有と状況に応じたカンファレンスの実施
- 家庭環境由来(保護者の状況)の不登校児が多かったため、ケース会議を開き、どの部署が家庭にアプローチしていくかを決めていた
- 関係機関での支援の内容や学校での生活の様子等の情報交換
- 区役所の子ども家庭訪問の結果や児童の様子を共有できた
- 情報を共有し、SCとの面談を設けたり、一緒に支援検討会議を行い、役割分担しながら支援することができた
- 子育て支援センターから得た家庭の情報を学校でも共有することで、学校からのアプローチの方法を考えることができた
- 子育て支援センターと進学へ向けて定期的にケース会議を持った
- 保護者の相談依頼を契機に、発達検査や医師への相談だけでなく受診支援や学校へのフィードバック、学校での支援方針等についてケース会議を開催したり、きめ細かいフォローをしていた
- 情報共有やケース会議の実施によるチーム対応など
- 家庭が子育て支援センターとつながっていたので情報共有ができた
- 市の巡回相談事業・青少年教育
- 学校と保護者の関係をつなぐ役割をしてくださった
- 教育相談、学習補助
- 家庭への働きかけのサポート
- 不登校児のみならず保護者に対しての支援等についても丁寧に指導助言をいただいた
- 保健師さんと面談や情報交換を行い、特定の児童の学校と下校後の様子について見守りと緊急対応を行った

- 日々の情報交換及び対策会議等を実施して指導にあたったこと
- 情報共有を密にし、支援に必要な各機関とつないでもらった
- 子供本人や保護者の相談に応じる上で学校での表れを知らせている・また、相談内容や検査結果等の情報提供を受けている
- 対応についての相談
- 定期的に家庭訪問等をしていただき、様子を見ていただいた
- 相談内容の情報共有及び解決への方策を相談していた
- 月1回の報告書提出
- さまざまな情報を共有することで、児童や家庭背景を理解し、適切な対応をとっていただいた
- 電話と児童観察
- 教員の対応方法の助言
- 市の家庭児童相談室で児童の生活の様子の情報共有
- 大きな変化があった場合の情報交換
- 不登校等の支援のいる児童の情報共有・家庭訪問を行っていただいた
- 家庭訪問の調整
- 虐待(疑い)の児童に対する情報の共有、保護者の困り感に対する相談体制の構築
- 子どもの様子で異変があった際の情報共有・対応協議
- 家庭状況により不登校傾向がある児童の状況把握
- ご家庭への連携のための情報共有
- 児童へ面談
- 相談および心理検査
- こども家庭センターより、対象児童の特性やサポート方法などをご助言いただいた
- 児童や保護者の様子の把握、今後の見通しの共有
- 家庭内での児童の過ごし方について、詳細な様子が把握できるため
- 家庭事情に起因する不登校が多いため、成育歴や家庭との連携が効果的であった
- 家庭支援の方法についての協議
- 不登校児童が該当機関に出向いて、授業や相談等を受けた
- 不登校児童宅への訪問、保護者のカウンセリング
- 情報を共有し、ケースによっては家庭訪問を行ってもらった
- 連絡を密にして子どもの情報を集めており、ケース会議の時には具体的な対応策を話し合っ
て決めることができた
- こども相談センターによる訪問により、生存確認ができた
- 児童や保護者の様子についての連携や共有学校とセンターとが役割分担をしながらの支援
- 家庭の状況を詳細に知ることができる・どのような支援が必要かを知ることができた
- 家庭状況や本人の健康状態などの情報共有
- 市の子育て支援課との連携により、子どもの実態と家庭の状況を知ること、児童の実態に応じた学びの支援をすることができた
- 生活習慣の改善
- 初期段階での情報共有及び初動対応内容の共有
- ケース会議や要保護対策協議会の開催
- 家庭訪問や学校訪問を通して個人や家庭、教員への助言
- 出欠席や登校したときの様子の共有・児童や保護者の様子など
- 不登校の解消につながるよう相談ができる旨、こども家庭センターを保護者に紹介した
- 虐待の疑いがある児童や不登校傾向の児童の情報を伝え、対策と役割分担を行っていた
- 家庭指導(保護者指導)

- 区保健福祉センター子育て支援課との保護者(母親)支援
- 児童の実態について個別に相談し、家庭や学校での関わり方について指導・助言をしてもらったこと
- いじめ等における問題の把握と、今後の対応の方向性
- 通級状況の伝達
- 保護者相談、児童対応の仕方について
- 不登校児童の施設利用状況を定期的に学校に知らせてもらえる・保護者の相談も受けておられ、情報共有しながら児童の支援に活かすことができた
- お互いに知り得た情報を共有するとともに、必要に応じて教育活動に活かすことができた
- 支援が必要な児童への就学相談や家庭での状況の情報共有、ケース会議等
- 家庭と学校とのつなぎ、訪問後の家庭での様子の情報共有
- 管理職が関係機関とこまめな連絡を図っていた

②児童相談所 連携の具体的内容

自由回答
• 児童や家庭に関する積極的な情報交換による指導への効果 • 家庭の状況の確認を一緒に取ることができた • 定期的な訪問・面談による情報共有 • 児童の学習権を保障するための受け皿となっていた • 家庭への指導助言 • 学校の様子と家庭の様子について、互いに把握している情報を交換し合った • 一時保護児童に関する連絡 • 児童本人の施設における様子を聞き、教室復帰後の適切な支援方法について検討することができた • 保護者との面談等の情報交換 • 長欠で連絡が取れなかった家庭への連絡及び安否確認 • 一時保護や虐待への対応について • 家庭での生活改善 • 相談内容の共有、効果的な支援の打ち合わせ • 保護者が養育できない場合、家庭へ働きかけをしてくれる • 親子で相談していた内容を、夏休みにセンター担当職員にお越しいただいて、学校管理職・教職員とともに、共同の話し合いができた • 支援が必要な児童や家庭環境の情報共有 • 児童相談所とは情報を密にして児童理解をはかった • 不登校児童の対応及び家庭環境、養育状況の情報共有 • 当該児童の家庭での状況把握と保護者への支援、助言 • 保護者の相談 • 学校外に相談の場ができたことは、家庭にとって意義があったと感じる • 母子分離・児童保護 • 虐待が疑われる児童についての情報交換 • 保護者との連絡が取りにくくなり、子どもの様子が分からなくなった場合に、児童相談所と連携して、子どもの様子を把握できるようにした • 不登校から母子で行方不明に発展したケースがあったが、児童相談所や警察等の広域ネットワークで、父が関わるDVがわかり、避難につなげることができたまた、避難先で学校に通うこ

ともできた

- 就学前の状況や家庭状況の共有
- 子どもの情報共有をすることで、指導に生かすことができた
- 教育相談
- 定期的な情報交換により、改善まではいかないが取り組みをすすめられた
- 養育能力の低い家庭へ一緒に家庭訪問をするなどの家庭支援により、学校、福祉の両面から登校を促すことができた
- 児相との話から保護者へ連絡したり、発達検査をしたりしてくれた
- 発達検査の実施
- 保護者とコンタクトをとり、保護者の話を聞きつつ、子どもの生活について児童相談所としてアドバイスを行なってくれた・学校と情報共有を行い、子どもの様子をお互いに知ることができた
- 虐待児童についての情報交換
- 定期的に相談所職員が来校の上、児童と面談を行い家庭での生活状況等の聞き取りを行っていた
- 具体的な事例について相談に乗っていただいた
- 家庭訪問時の児童や家族の様子の共有、児童の家庭環境についての情報共有
- ネグレクトへの対応について
- ケース会議等の開催
- 転入前等の情報交換
- 家庭の様子や一時預かりの経過など情報共有を行った
- SSW、児童相談所、保健子ども課、保護課と連携して家庭訪問を行った・子どもへの支援と同時に保護者への支援を行っていくことが不登校解消につながった
- 欠席時の学校以外の居場所づくりに関する連携
- 出席確認が児童の様子をシェアし、全体で効果的に連携できる
- 一時保護の相談
- 児童の内面的様子等を共有した

③医療機関や保健所・精神保健福祉センター 連携の具体的内容

自由回答

- 保健センターとの情報共有
- 主治医とオンラインで相談して児童の特性や学校の困り感を共有していた
- 児童の心身の状態や家族での生活等について情報共有・共通理解を図り、必要に応じてケース会議を開いて対応に当たった
- 療育の相談や不安の解消の手立ての相談
- 医療機関とのつながりで、保護者が児童の特性を理解してもらえた・医師から、必要な支援が何かを具体的に示してもらい、保護者の児童への関わり方が変わり、児童の心が安定した
- 町教育委員会と町福祉課とで子供の状況の把握と方針、方向性についての連携を行った
- 不登校の要因を把握できることと、医療的観点から学校で取るべき対応を知ることができた
- 学校だけでなく、医療機関でも、本人の学力にあった学校選択を勧めた
- 近隣の小児科医との連携（発達検査など）
- 本時の医師としての見解や保護者の様子を聞くことができ、参考になった・アドバイスをいただくこともあった
- 保護者の承諾のもと医療機関と情報共有を行い、医療面と教育面双方で児童理解を深めたり、より充実した支援につなげたりすることができた

- 母親も要支援で、児童と共に医療機関にかかっていた・保護者の了解の元、医療機関と学校がつながっており、連携を図ることができた
- 保健師や福祉士との連携により保護者へのアプローチがよりよくなった
- ソーシャルスキルトレーニング、児童・保護者共にカウンセリング
- 児童の様子を客観的に判断し、その子に必要な支援や薬等の情報などアドバイスをいただけた
- 医療機関の受診結果を、その後の支援の方向にいかそうとした
- 発達支援についての助言
- 不登校児童の居場所、相談
- 医療機関の相談員による、保護者との面談・学校との情報共有
- 診察結果等を保護者から聞き、学校の対応や支援方法を考える材料としていた
- 医学的知見から支援の方法を共有した
- 医療機関による精神を安定させるための投薬
- 不登校児童の学校での様子を連絡し、それについての対応や支援の方法などを相談した
- 受診していた病院と連携することで、保護者の思いや本人の状況を把握することに役立った
- 朝、なかなか起きられない児童がおり、医療機関を受診し、起立性発達障害の診断をもらい、投薬治療に進むことができた
- 保護者と連携し児童に対応するためのアドバイス等をいただくことで、児童にとって安心できる場づくりや学習環境を作ることができた
- ヤングケアラー対応
- 保護者を通じた検査結果の共有等
- 若年性の鬱など、今まで想定していなかった課題が見えたりすること
- 地域包括支援センターと入学前の発達検査の情報や特別な対応等の共有ができた
- 不登校の原因の一つとしてコミュニケーション能力や学習不信があったが、それが生まれもった特性にあることを医療の方がお話してくださることで特別支援学級への入級や、福祉サービスを受けることにつながり不登校傾向が解消された
- 保護者も含めた支援方法についての相談
- 医療から見た児童の抱える課題や対応についての情報共有
- 特別な支援を要する児童への対応
- 該当児童の不安やモヤモヤ感等に対して、内科医と小児科医に相談した・母子が受診し、治療方針を学校とも共有した
- 児童の特性の把握や支援方法についての連携
- ゲーム依存による生活習慣の乱れに関する保護者相談及び連携
- おとなとこどもの医療センターに通っていた児童の主治医、SSW と、母親、管理職、担任でケース会をもった
- 本人の発達的な困難さを知り、合理的な配慮を模索することにつながった
- 医療の立場からの意見を聞くとともに、子どもに対しての支援の在り方を助言してもらえた
- 不登校児童の学習等を含むリハビリ
- 児童やその保護者が学校に対して臨むことについての共通理解
- 発達検査の情報共有
- 診断を受け、児童の特性にあった支援についてのアドバイスを受けた
- 発達検査などの具体的な支援方法の提示
- 発達の状況に関する診断や対処の相談
- 保健師との連携・突発性のある事案でも対応してくれていた
- 児童の実態や状況の変化などの情報の共有や共通理解

④警察 連携の具体的内容

自由回答
- 定期的なスクールサポーターによる学校巡回 - 傷害事件 - 虐待事案 - 児童に危害が加わりそうな場合に情報提供をしていた

⑤人権擁護機関 連携の具体的内容

自由回答
回答なし

⑥フリースクール 連携の具体的内容

自由回答
- 活動内容を共有し、同じ目線で接することにより、児童に安心感を与えることができた - 居場所づくりの確保、学びの保障 - 月1回のレポート、学校職員訪問、ブログでの実態把握 - フリースクールへ担任と管理職が出向き、参観を行い連携を図ることで保護者の安心につながった - 情報共有による児童理解 - 実際にフリースクールに伺い、児童の様子などについて話を聞いた - 児童の活動の様子や、状況、支援の方法を共有する - 不登校傾向児童の居場所の確保・相談員と児童の交流・児童の様子の情報交換 - 本人の居場所として、そこが学校よりは適当であったため、フリースクールで行った活動をFAXで送ってもらったり、電話で聞いたりした - フリースクールでの児童の様子や保護者の考えについて情報交換 - 登校支援 - 定期的なとりくみ内容の送付 - 定期的な活動及び状況の報告や教員の訪問 - フリースクールでの学びを通して自信や自己肯定感を醸成することができ、学校復帰することができた児童がいる - フリースクールの様子を聞いて、本人とつながる参考に使っていた - フリースクールの出席状況や児童の様子の把握(児童の様子等の詳細を学校にデータ送付していただいた)

⑥その他 連携の具体的内容

自由回答
- 児童及び保護者の様子、検査結果等の情報交流 - センター員による授業参観、保護者面談、担任との面談 - SC、SSW、児童相談所、子ども支援センター等、市でつながっている機関とスムーズにつながってもらった - 児童の幼少期からの家庭環境や養育状況を知ることができた - 相談員による個別対応、フリースクール的な活用

- 教育委員会と具体的対応について協議していた
- 経済的支援
- ケース会議の設定等、家庭対応に向けての連携
- 教育委員会が運営するケアハウスとの連携
- フリースペースでの様子を情報交換し、共有する
- 市の教育支援センターと常に連絡を取り合いながら(情報を共有して)進めた
- 適応指導教室の担当者と学校、担任との情報交換
- ケース検討会を開催し、どのように対応していくかを検討し、できることから始めていった・数回定期的に開催することで効果が見られた
- 総合教育支援センターと情報を共有し、指導に関するアドバイスを受けた
- 担任が学校で授業をしているとき、市こども家庭課の職員の方が登校しぶりの児童宅へ家庭訪問をしてもらい、安否確認ができた
- 保護者や児童が必要と感じたら日程を調整し、話を聞いてもらえる場を設定
- 家庭内の状況や保護者の育児への考え方を共有できた
- 市の CS や SSW が担任の相談や不登校児童保護者の相談にのってくれ、対応や対策を一緒に考えていってくれた
- 町教育支援センターの指導員(臨床心理士)による児童や家庭の実態把握と的確な指導助言
- 子育て家庭支援課との情報交換や家庭訪問
- 心理状態の把握と有効な手立てについて
- 本人や保護者と面談後、フィードバックで学校へ電話連絡があった
- 児童がひきこもり当事者支援事業に参加していたので、担当課と学校で情報を共有していた
- 市教委への事例報告や経過報告、児童や保護者への対応についての相談をさせていただいた
- 適応指導教室利用及び施設と学校の連携会議 NPO 法人民間の生活支援団体との連携、食事や学習支援
- 不登校児童に対する対応の協議、家庭への働きかけなど
- 対象児童が通室出来た時の様子や学校では聞けなかった児童や保護者の考え等についての情報共有の場を設けられたこと
- SC による面談や発達検査の実施
- 支援課との連携、家庭の状況や保護者や子どもの家庭での様子の共有
- 教育委員会の教育相談施設との連携による SSW や支援員の派遣教育相談の実施
- 市の施設に登校後、学校に登校することができた児童がいた
- 連絡が取りにくい家庭への家庭訪問
- 巡回教育相談(児童理解と支援・教師の指導方法の工夫)
- 情報を共有し、双方から支援ができた・市教育支援センターには、不登校児童が通える教室があり、段階的に、不登校を解消する上で有効である
- 不登校の児童への対応について、臨床心理士等専門家からの指導・助言をいただいた
- 市教育研究所の先生による専門的な視点からのサポート
- 行政関係者と連携を図れたこと
- 教育支援室で行った面談や検査等に関する情報共有
- 相談内容について情報提供していただき、学校での児童とのかかわりや指導に生かす
- 保護者からの教育相談の内容を学校と共有しているため、即対応することができる
- 市内の不登校児童生徒を対象とした指導教室を設置している
- 該当児童と保護者のケア
- 家での状況を聞き、支援に生かした

- 市教育委員会と効果的な対応について、連携を図った
- 児童の情報交換と対策の協議
- 学習テストを行い、担任がそれを受け取り、添削・採点を行い評価をする
- 市のこども家庭課からの情報提供により、児童の様子をつかむことができた
- 不登校支援教室での様子、教育相談の内容共有
- 不登校児童の学校以外の居場所として、必要に応じて利用できる体制を整えた
- 機関の方々と不登校児童の保護者による面談を行ったり、体験活動をととして「ふれあい教室」に馴染めるまでの時間を確保したりして、当該児童が心理的不安を抱えながら通級することがないようにしている・また、機関と学校(主に教頭)がこまめに連絡を取り合い、児童の様子について情報交換をすることにより、児童の登校への支援を推進することができている
- 事案を共有し、対策について相談を図っていた
- 不登校要因が本人だけではなく家庭環境等、社会的・経済的な問題にある場合が多く、連携機関が多方面に亘るためその情報共有の中核的役割を担って頂いている
- 児童・保護者の様子、日々の学習について、対応についての情報交換
- 居場所から学校への送迎、校内での見守り
- 児童の安否確認・母親との連絡
- 毎月利用した際の様子を教えていただける
- 保護者や児童本人との、カウンセラーによる面接
- 子どもたちの心の状態について専門的な見知で教えてくれる
- スクールカウンセラーと支援教室で過ごす
- スクールカウンセラーの聞き取りによる家庭の状況、児童本人の心理状況等、情報の共有
- 保護者・児童の面談など
- センターの教育相談員と心理相談員で、不登校児童の保護者と本人と面談し、その内容と今後の対応について学校へ情報共有をした・学校側での教育相談の内容も情報共有し、ともに今後の対応について協議している
- 学校計画訪問により、情報の共有とアドバイス
- SC や SSW との連携についての依頼
- 子供の困り感や保護者の困り感に就いて情報を共有するとともに専門的な立場から支援の方法について指導を受けることができた
- 子どもの状況に応じて支援の方策を考えた
- 適応指導教室で学習を行うことで、生活習慣を身に付ける
- 子供の過ごしている様子を具体的に教えてくださった
- 欠席状況の把握
- 児童支援や保護者との懇談
- 児童個々の特性や興味関心に応じた活動、支援など専門的見地から保護者の相談に答えていただいた
- 毎月の調査・報告を提出し、指導・助言を受ける
- 該当児童及び保護者の状況に関わる定期的な情報交換と共有化・保護者との相談活動による困り感の緩和
- 安心できる居場所づくり、自立(学習、生活)への支援
- 市の中間教室の利用
- 学びの場所の相談、保護者対応
- 市教委が外部の機関を紹介、つないでくれる相談にのる
- 児童及び家庭への支援の検討
- 市教育委員会の生徒指導主事と子と親の相談員と毎月木情報交換をしていた・受診医療機関

- から児童や保護者の状況と効果的な支援を教えてください
- 教育委員会の方に、支援会議に参加していただいたり、児童の家庭訪問をしていただいたり、市役所の子育て支援課とつないでいただいたりするなどして、学校に寄り添い支援をしていただいた
 - 市教育委員会の教育相談員の方との連絡を密に対応した
 - いじめ・不登校専門相談員による学校訪問関係職員との懇談
 - 課題を抱える家庭を直接支援してもらう
 - 保護者との面談、自立支援教室での児童との関わり、学校への定期的な訪問
 - 保護者面談、発達検査
 - 学校が連携し、不登校児童の対応を行った
 - 登塾の確認、児童の様子確認
 - 不登校児童が通い、集団適応を促す活動を行う・登校への促しをしてもらう
 - 訪問支援をしていただき、実際の児童の様子から対応について具体的に相談できた
 - 学級担任との情報交換、対応確認
 - 児童・保護者との面談
 - 毎月、来所状況と、学習の様子や生活の様子を紙媒体で送付していただける
 - 自宅訪問時の対象児の様子や保護者の考えなどの連絡
 - 不登校の児童の居場所づくり、教育相談
 - 担任をはじめ、学校職員は昼間なかなか動けないが、SSW が家庭訪問し、家族の困り感や本人の様子を聞き取ってもらえた
 - 学校では対応が難しい個別支援を丁寧に行ってくれた・ソーシャルスキルトレーニングを行いその成果が少しずつではあるが学校生活で生かせるようになった
 - 学校に登校できない児童が通所することができた
 - 役所や児相、デイサービスなどの各種関係機関と学校をつなぐ役割をしている
 - スクールカウンセラーにつなぐ
 - 保護者の状態の把握
 - SC や SSW が不登校児の家庭へ訪問し、福祉サービス(家庭訪問型支援)へつないだ
 - SC、SSW と情報共有し、家庭訪問や他の機関との連携につないだ
 - 長期欠席で、なおかつ家庭と連絡が取れない児童とその保護者に対しての支援をどのように行うとよいか、SC や SSW と連携した
 - 不登校児童について情報共有をしたり、対応について助言をいただいたりした
 - 困り感を見つけるための検査を行って、結果を教えてください、助言いただいた
 - 連携機関への出席状況や児童の様子、保護者との話などについて、電話で教えていただいたり、月末で紙面でご報告いただいたりしていた
 - 不登校児童の居場所・学習機会の提供
 - 市の相談窓口として様々な関係機関を紹介してもらえる
 - 相談や学校以外の居場所として活用・学校との情報共有も行った
 - 児童の出席状況や学校での様子、適応指導教室での様子などについての情報共有
 - ふれあいの通室状況の共有、学校生活の情報共有
 - 聞き取りで登校の相談に乗ってもらった
 - 市適応指導教室のカウンセラーから保護者や学校に助言をいただけた
 - 市適応指導教室における不登校児童の居場所づくり
 - 保護者の心理的負担を軽くするため、SC が面談を行ったり、子供との関わり方のアドバイスをしたりしていた
 - 市のスクールソーシャルワーカーや相談員と情報共有し、支援方法についてアドバイスを受け

る

- 市派遣の SSW へ相談することができ、引き継ぎ等も円滑に行うことができた
- 適応指導教室で不登校児童の学習の習熟やソーシャルスキルトレーニングを学んでいた
- 学校の様子と家庭の様子の情報交換
- 保護者・児童の教育相談、体験教室
- 教育委員会管轄の適応指導教室学校に行きづらい子ども、集団生活が苦手な子どもたちが、学校と違う場所で少人数の生活を行い、徐々に学校に向けて促していく取組
- 不登校児童対応教室への通室、教育相談など
- 不登校児童への学習などの指導
- 特性のある児童どうしの事案であったので、市の発達支援課に児童の参観をしていただき、対応の仕方を学んだ・児童の特性理解のため、1日1時間の取り出し授業を提案され、校長と毎日1時間学習することにした・その時間で子どもが自分のペースで得意な学習を行うことにより、他人への攻撃は減った
- 連絡が取れにくい家庭のため、学校でつかみきれない、家庭の状況を把握し、伝えてもらうことができた
- 不登校児童の教育支援センターへの通所
- 学校へは登校できないが、適応指導教室には参加でき、家にこもってしまうことにならなかった
- 児童の様子の情報交換・児童のアセスメントおよびプランニング・家庭の様子等
- 不登校児童が通いながら支援を受けることができる・また、通った日は出席扱いにもなる
- 担任と市相談員が日時をずらして家庭訪問
- 問題行動(生徒間暴力や器物損壊等)を繰り返す小6児童について、市教委、警察、中学校、中学校 SC と連携を密に図り、中学進学に向けて準備を進めていった
- 役場の子ども支援課と日々情報交換をしていた
- 隣保館に登校し、教育指導主事の先生と勉強したり、相談したり、イベントに参加したりする
- 市の教育支援センターと情報を共有しながら、子どもと関わっていた
- 児童理解に向けた情報共有
- 出席状況や児童の様子、SC と保護者のつながり等を連携し合うことが児童理解や対応に効果的であった
- 様子の交流だけでなく、家にも訪問していただいていた
- 細やかな情報交換、今後の指導など相談できた(卒業式の出方など)
- 支援方針の検討・確認、実態(現状)の共有・把握
- SSW の派遣、学校以外の通える居場所の斡旋
- スクールソーシャルワーカーや子育て支援室などを中心に相談を行っている
- 状況について伝え、個別に連絡をしてもらう
- 家庭や学校での様子の情報共有
- 不登校支援についての指導助言
- 家庭背景のアセスメントを行うケース会議の実施
- 訪問による児童の様子の把握、復帰に向けた共同の会議の開催
- 内容の共有とアプローチの仕方を意見を出し合って協議した
- 学校へは通えていなかったが、放課後デイサービスには通えていたので、児童の様子を聞き取ることができた
- 対象児童が通う通級教室の担当職員との情報交換
- 校外での支援を含め、対応の選択肢の共有
- 数年間にわたり、継続的に支援していたため、担任等が変わっても、つなぎ役として機能した(家庭訪問や登校時の支援)

- 不登校対策に関すること・いじめ防止対策に関すること・学校生活適応推進事業に関すること・教育相談コーディネーターに関すること・スクールサポートチームに関すること
- 家庭状況の把握や保護者への働きかけ
- 要対協管理下にある不登校児童についての現認について相談した
- 不登校あるいは不登校傾向の児童が利用・家から離れる・学力補充
- それぞれの見立てや取り組みの情報共有
- 定期的に連絡を取り合い、学校での様子を伝えた上で、今後に向けてのアドバイスをもらっていた
- 適応指導教室への出席を出席とする
- 報告を経た対応協議
- 当該児童の兄が通所していたため、センターの方からの母親へのアプローチや家庭環境に関する情報共有を行うことができた
- 不登校傾向の児童は、情緒の不安定さなど本人の発達特性にかかる課題があったため、児童の状況観察や保護者との相談を市発達支援センター職員に複数回、継続して協力を依頼し、総合的な判断に基づいた指導や支援に生かすことができた・また、家庭環境の課題や保護者の精神的な不安や悩みがあったため、市保健師、児童相談所での相談等にもつないでいただき、当該児童の医療機関での受診(診断・検査)を行うことができた
- 本人の状態だけではなく、保護者や家庭状況を共有し合い、背景を理解した支援につなげた
- 保護者への多角的な支援
- 町こども課から定期的な訪問を受け、児童と面談していただいた
- 学校で扱う教材での学習、学習態度や様子等の情報交換
- 居場所づくりの支援及び保護者を交えたケース会議での支援やアドバイス
- 個別のケース会議での指導助言
- 学校と支援教室をその日の状態に応じて選択させ、家庭にいる時間を減らすまた、月 1 回の情報交換の場を通じて具体的な対応について協議
- 個別の学習支援
- 登校しぶりのある児童と保護者に対して、どのように関わっていくか相談した
- 学習支援、父母が就業時間中の預かり
- 児童が希望する教科(主に主要教科)の学習を進めてくださる
- 児童との関り、また、その保護者との関りについてアドバイスを受けた
- 町役場の保健師に家庭の状況を詳しく聞くことができ、実態を把握することができた
- 不登校傾向を示す児童への対応について
- 家庭への支援が必要な場合において、情報交換を行い、具体的な支援の時期と方法を互いに模索することができた
- 家庭への声かけや啓発
- 不登校解消に向けた特別支援学級の在籍変更
- 不登校児童の受け入れ、いじめ・不登校に関する相談
- 不登校児童への家庭も含めてのサポート
- 教育支援センター内にある教育支援教室の職員と、当該児童の様子や考え、保護者の思いについて話し合う場を定期的に設け、学校と支援室の双方での指導内容や登校日等のことを必ず情報共有するようにしていた
- 学習、スキル、ドリルの補充など
- オンラインを通しての県立大の学生ボランティアとの定期的な交流
- 保護者の相談への対応、児童への支援についての協議や指導・助言
- 不登校児童への対応の仕方

- 教育研究所内の適応指導教室に通所している児童の情報について、担当職員と電話等で共有した
- 居場所の確保
- 情報を共有し、よりよい支援を考えるようにしたこと
- オンライン学習支援の設置、授業配信等当該児童に関する情報交換
- 連絡を取り合い、児童が適応指導教室で過ごしたり、適応指導教室後に学校に来たりすることができた
- 年数回の情報交換及びSSWを交えての対策会議の開催
- プリント学習の実施等
- 日々の出席の状況と学習内容の連絡を取り合ったこと
- 学級担任が対象児童とその保護者と連絡が取れなかったが、市教育委員会のスクールソーシャルワーカーが保護者と学校の間に入って、直接面談をして卒業式に出席できるようコンタクトを取ってくれた
- 市の適応指導教室にてスクールソーシャルワーカーによるカウンセリング
- 学級費の未納の対応に協力していただいた
- 学校に足が向かない児童が、外に出て学びの場で過ごす機会となる
- 家庭教育支援員による家庭訪問
- 家庭相談員と対面で情報交換をすることができた
- 家庭環境の把握
- 児童デイと活動の様子を共有していた
- 不登校や生徒指導関連の情報を共有することで、関係者会議を開催し、支援の方向性を統一し支援・指導を行うことができた・
- 保護者へのアプローチ・登校支援